

鳥取市健康とくらしの調査実施及び見える化システム作成等業務

在宅ケアとくらしの調査 報告書

令和8年3月

鳥取市

一般社団法人日本老年学的評価研究機構

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の実施方法と回収状況	1
3. 調査結果を見る上での留意点	2
4. 用語の定義	2
第2章 単純集計	5
1. 基本調査項目（A票）	7
2. 主な介護者様用の調査項目（B票）	17
3. 要介護認定データ	22
第3章 クロス集計	29
1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	31
1. 1 集計・分析の狙い	31
1. 2 集計結果と着目すべきポイント	32
(1) 基礎集計	32
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	35
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	39
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	44
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	48
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	52
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	56
2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	68
2. 1 集計・分析の狙い	68
2. 2 集計結果と着目すべきポイント	69
(1) 基本集計	69
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	73
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	78

(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	82
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	85
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	89
3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	94
3. 1 集計・分析の狙い	94
3. 2 集計結果と着目すべきポイント	95
(1) 基礎集計	95
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	97
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	100
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」]	105
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	110
4. 1 集計・分析の狙い	110
4. 2 集計結果と着目すべきポイント	111
(1) 基礎集計	111
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	113
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	116
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	122
5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	127
5. 1 集計・分析の狙い	127
5. 2 集計結果と着目すべきポイント	128
(1) 基礎集計	128
(2) 訪問診療の利用割合	132
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	135
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	136
6. サービス未利用の理由など	138
6. 1 集計・分析の狙い	138
6. 2 集計結果（参考）	139
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	139
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	143
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス	147
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢	151

(5) 要介護度別の抱えている傷病	152
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	154

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

第4章 指標による分析	155
-------------	-----

第5章 保険者独自項目の調査結果	171
------------------	-----

(資料) 基礎集計表	189
------------	-----

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、鳥取市の第10期介護保険事業計画の策定に向けて、基礎資料とすることを目的に、在宅で生活している要介護者及び介護をしている人を対象に、家族介護の実態、施設入所の検討状況、家族介護就労状況等を調査したものです。

2. 調査の実施方法と回収状況

- ・調査対象者（設計上）：在宅で生活をしている要介護認定を受けている方のうち、「要介護認定の更新申請・区分変更申請」をされた方
- ・調査対象者（回答者）：上記条件で抽出した後、回答時点で要介護認定（要支援1・2を含む）を受けている方

※抽出後の区分変更により、回答時点で要支援となった方を含む

- ・対象者抽出日：令和7年10月10日
- ・調査方法：郵送調査
- ・調査期間：令和7年12月1日～令和7年12月22日
- ・対象者数：1,000人
- ・回収結果（回収率）：407票（40.7%）
- ・集計数 ※：391票

※回収された調査票のうち、「施設入所」「入院」などの記載がある調査票、またIDが切り取られた調査票は原則集計対象から除外した。

3. 調査結果を見る上での留意点

- ・図表中の「n」は、設問への回答者数を示しています。
- ・分析に際して、回答者数が極端に少ない場合は誤差が大きくなるため、分析対象から除外している場合があります。特に、第3章（クロス集計）、第4章指標による分析、第5章保険者独自項目の調査結果においては、様々な分析軸の該当数(n)が非常に少ない場合があります。集計結果の比率を読む際には注意を要します。
- ・回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ・第2章および第3章において、単一回答の設問については、グラフ全体を1つのクロス集計表として扱って独立性の検定を行い、その結果をグラフタイトルの脇に示しています。複数回答の設問については各選択肢ごとに、「その選択肢を選択したか否か」について集計したクロス集計表として扱い、同様に独立性の検定を行っています。その検定結果は、該当する選択肢の脇に示しています。なお、項目名が長い場合に一部が『…』と省略されて表示されている箇所があります。

検定結果の記号の意味は以下の通りです。

- ✓ 「***」: 0.1%水準で有意な差がある
- ✓ 「**」: 1%水準で有意な差がある
- ✓ 「*」: 5%水準で有意な差がある
- ✓ 「+」: 10%水準で有意な差がある
- ✓ 「(記号なし)」: 有意な差がない

4. 用語の定義

○ 介護保険サービスの種別

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下の通りです。

＜サービス利用の分析に用いた用語の定義＞

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・(介護予防) 訪問介護、(介護予防) 訪問入浴介護、(介護予防) 訪問看護、(介護予防) 訪問リハビリテーション、(介護予防) 居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・(介護予防) 通所介護、(介護予防) 通所リハビリテーション、(介護予防) 認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・(介護予防) 短期入所生活介護、(介護予防) 短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・(介護予防) 小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

＜サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義＞

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

○ 障害高齢者の日常生活自立度

生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 1. 交通機関等を利用して外出する。 2. 隣近所へなら外出する。
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中に寝たり起きたりの生活をしている。
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
	C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着換において介助を要する。 1. 自力で寝返りをうつ。 2. 自力では寝返りもうてない。

○ 認知症高齢者の日常生活自立度

I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

第2章

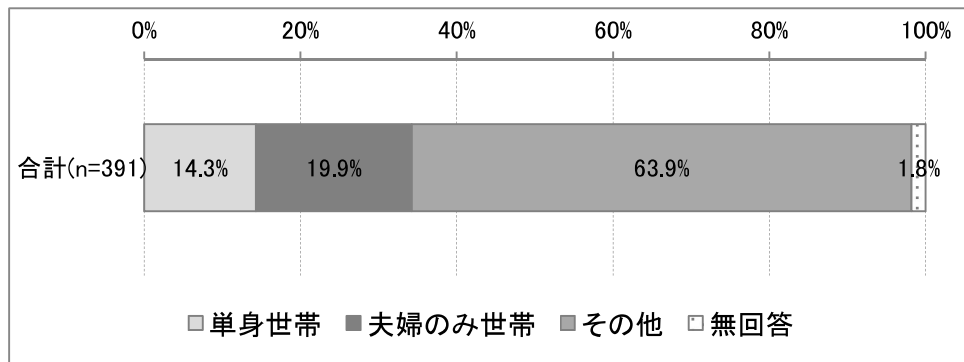
単純集計

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 63.9%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯（19.9%）」、「単身世帯（14.3%）」となっている。

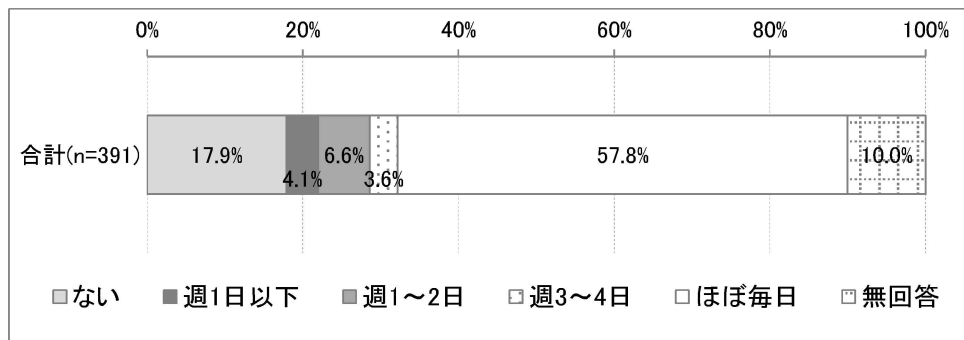
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 57.8%となっている。次いで、「ない（17.9%）」、「週1～2日（6.6%）」となっている。

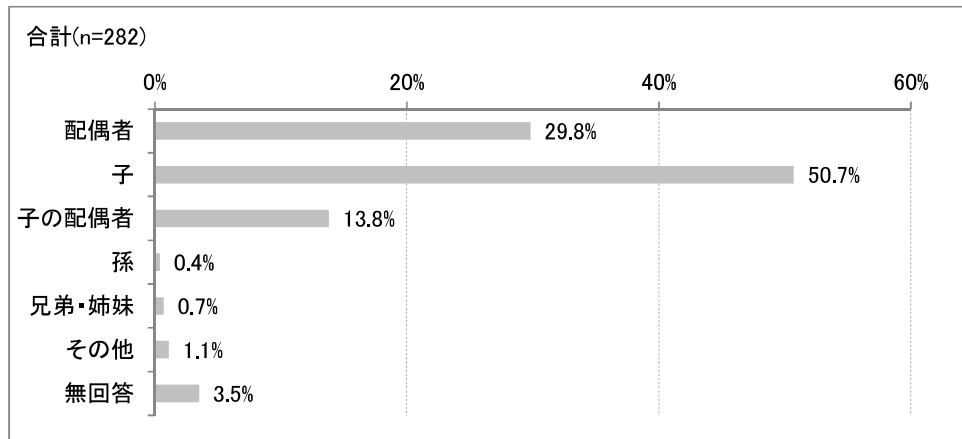
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 50.7%となっている。次いで、「配偶者 (29.8%)」、「子の配偶者 (13.8%)」となっている。

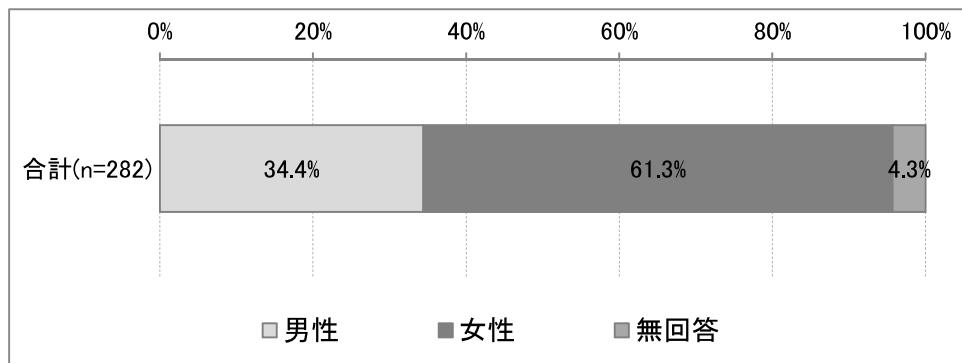
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係 (単数回答)



(4) 主な介護者の性別

「女性」が 61.3%、「男性」が 34.4%となっている。

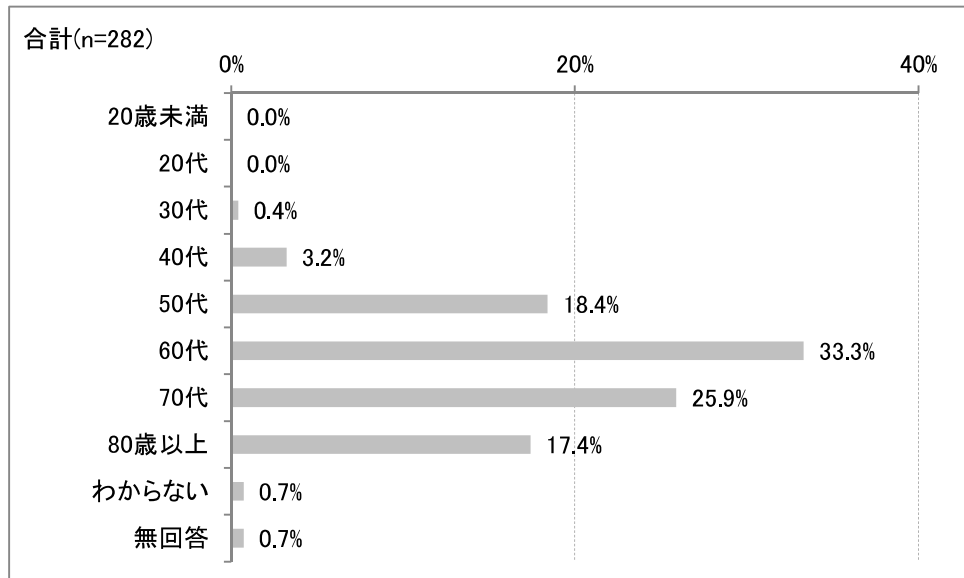
図表 1-4 ★主な介護者の性別 (単数回答)



(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く33.3%となっている。次いで、「70代（25.9%）」、「50代（18.4%）」となっている。

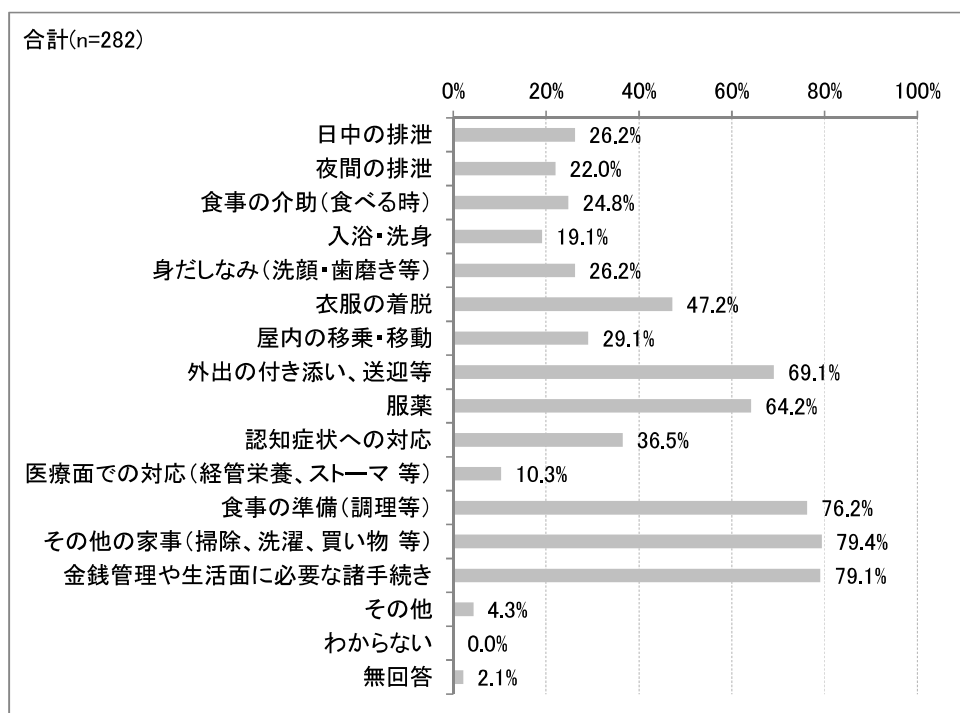
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高く79.4%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（79.1%）」、「食事の準備（調理等）（76.2%）」となっている。

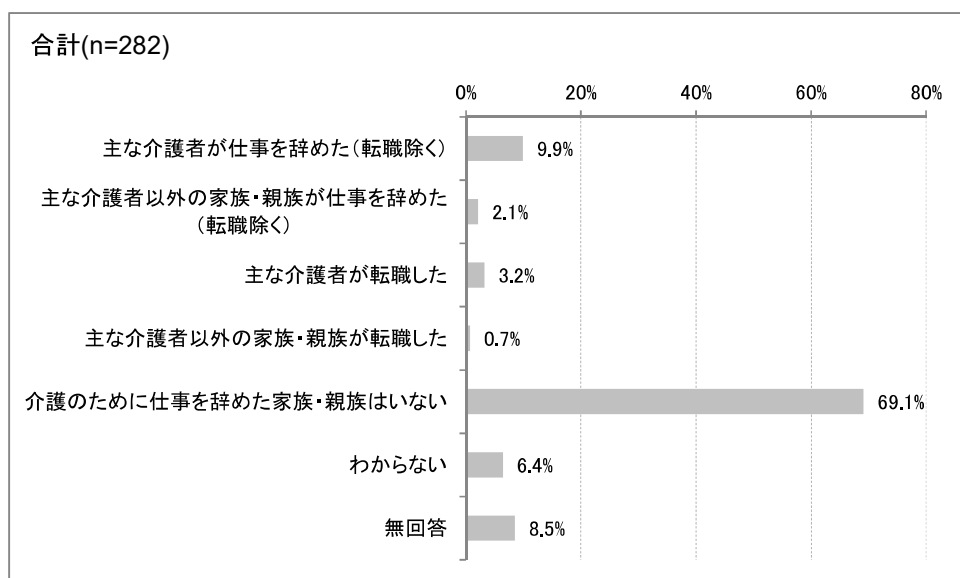
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 69.1%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（9.9%）」、「わからない（6.4%）」となっている。

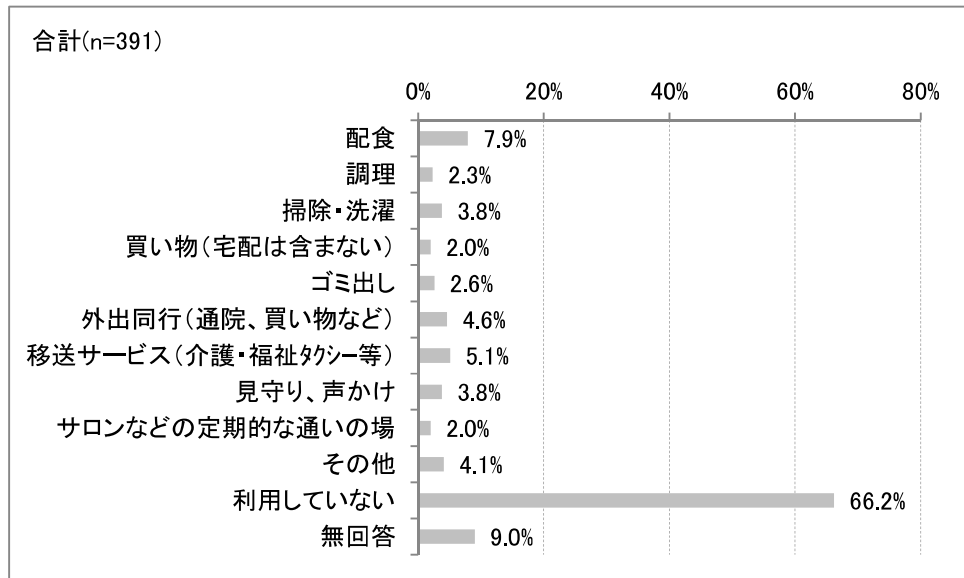
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 66.2%となっている。次いで、「配食（7.9%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（5.1%）」となっている。

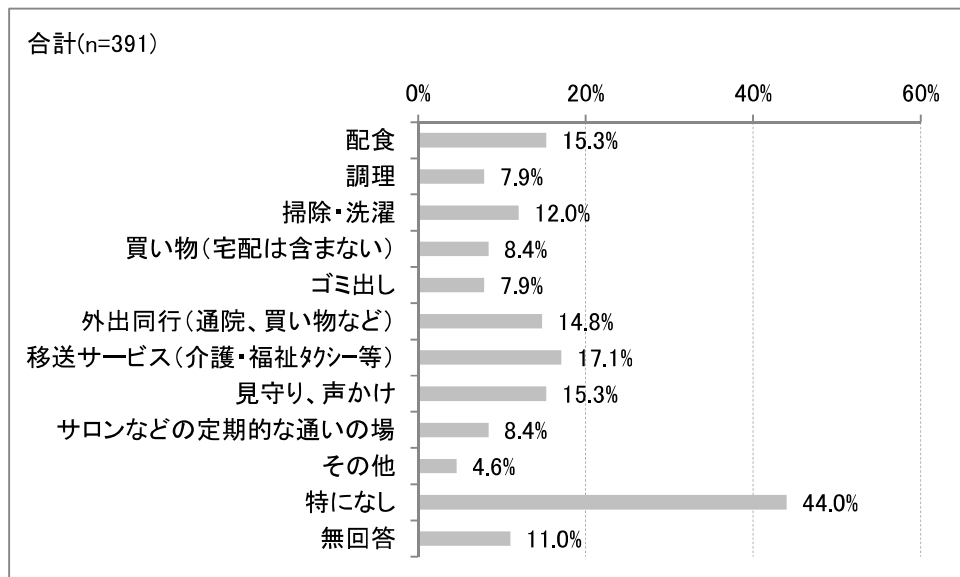
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 44.0%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（17.1%）」、「配食（15.3%）」、「見守り、声かけ（15.3%）」となっている。

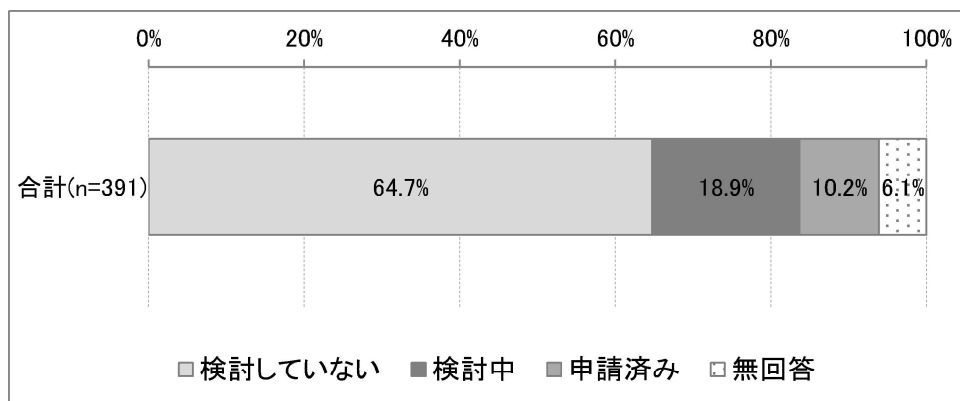
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 64.7%となっている。次いで、「検討中（18.9%）」、「申請済み（10.2%）」となっている。

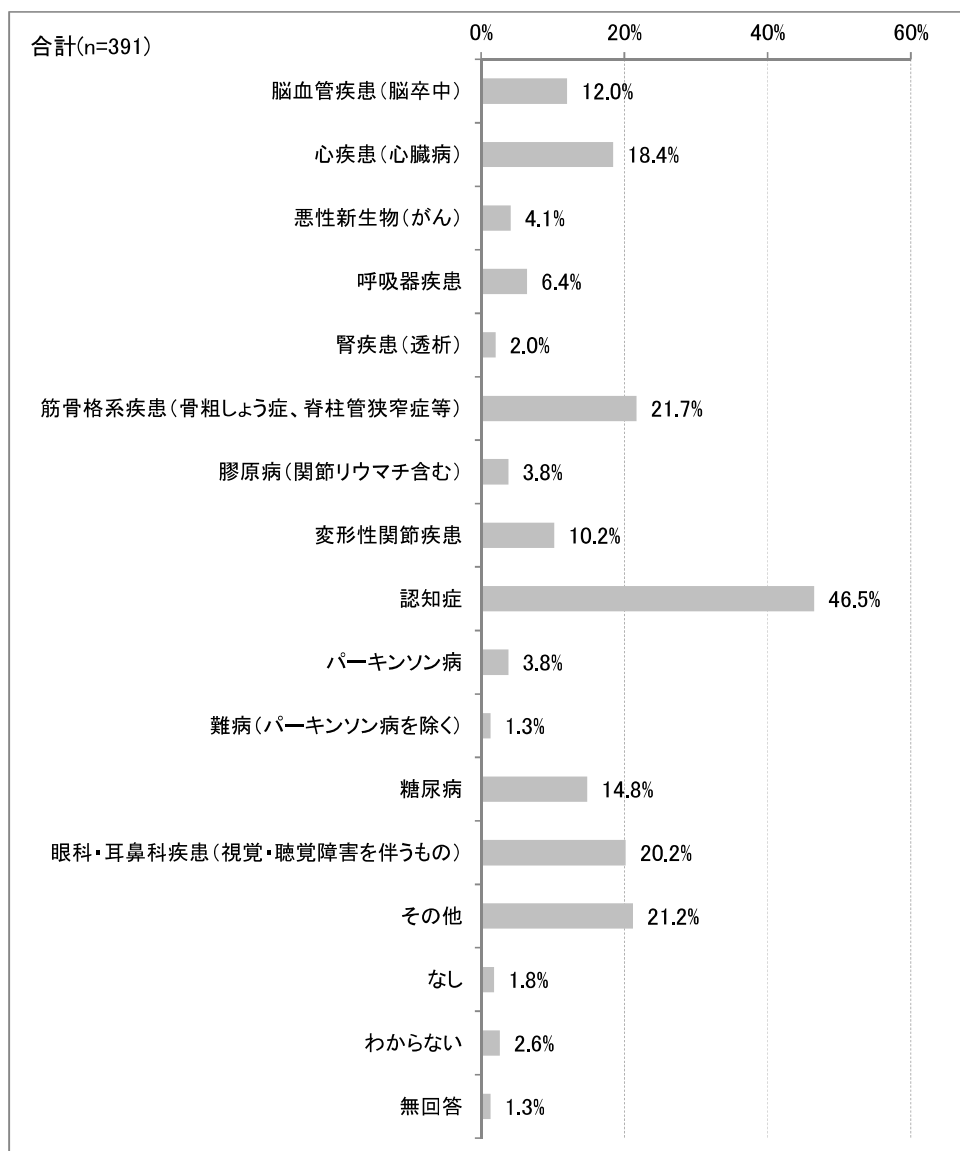
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「認知症」の割合が最も高く 46.5%となっている。次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）（21.7%）」、「その他（21.2%）」となっている。

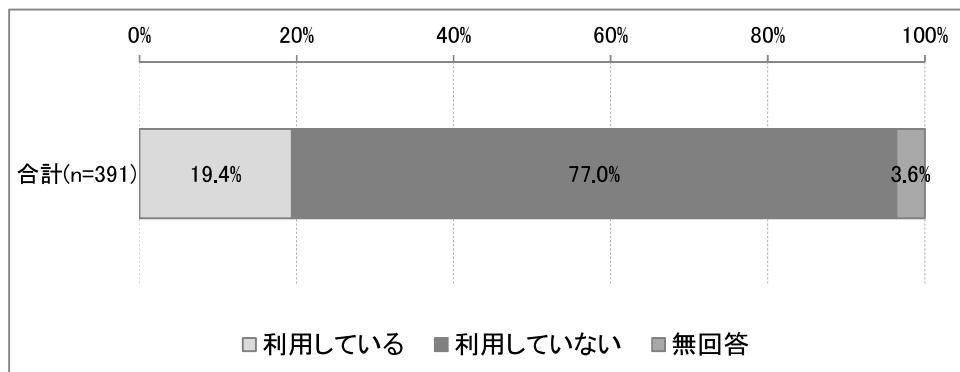
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」が77.0%、「利用している」が19.4%となっている。

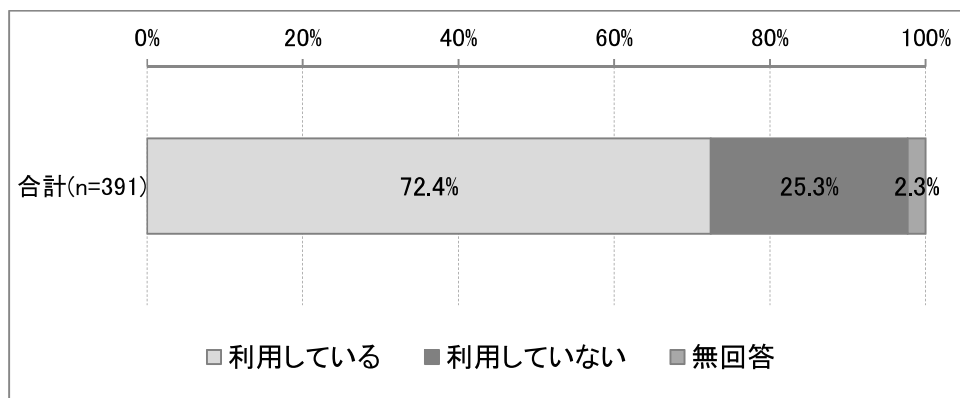
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」が72.4%、「利用していない」が25.3%となっている。

図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 45.5%となっている。次いで、「家族が介護をするため必要ない (27.3%)」、「本人にサービス利用の希望がない (26.3%)」となっている。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

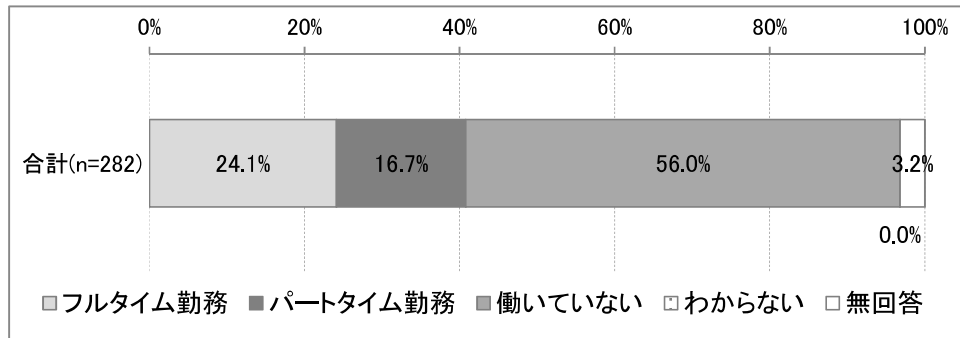


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 56.0%となっている。次いで、「フルタイム勤務 (24.1%)」、「パートタイム勤務 (16.7%)」となっている。

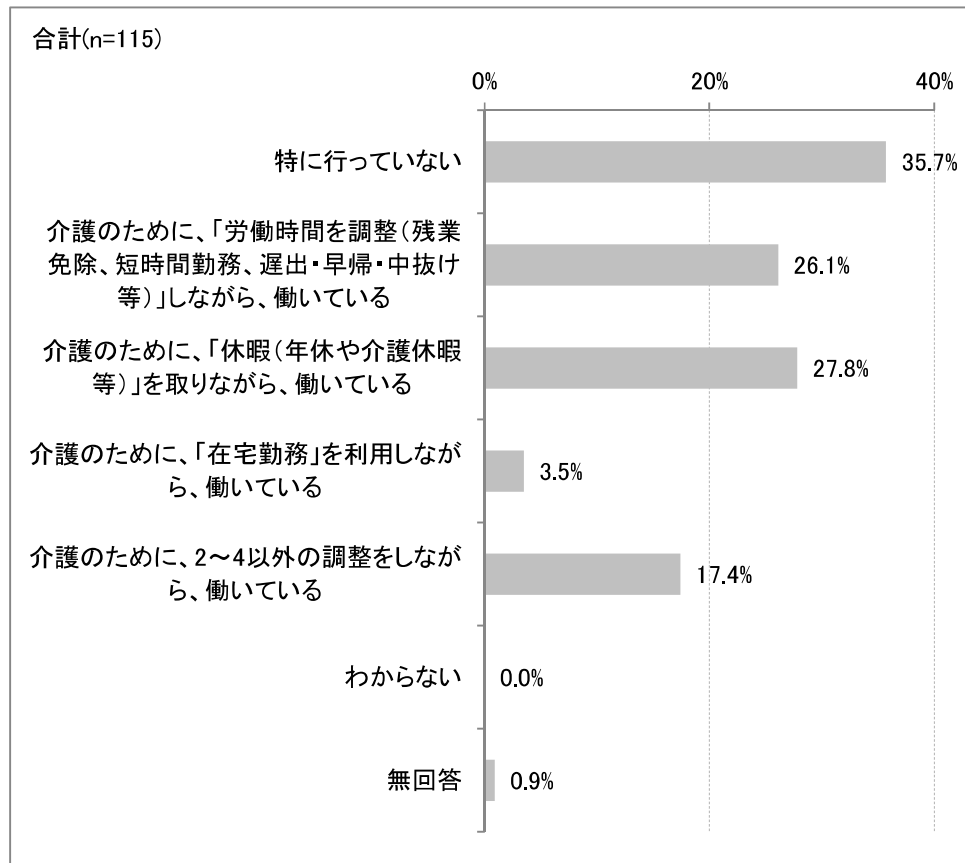
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 35.7%となっている。次いで、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（27.8%）」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（26.1%）」となっている。

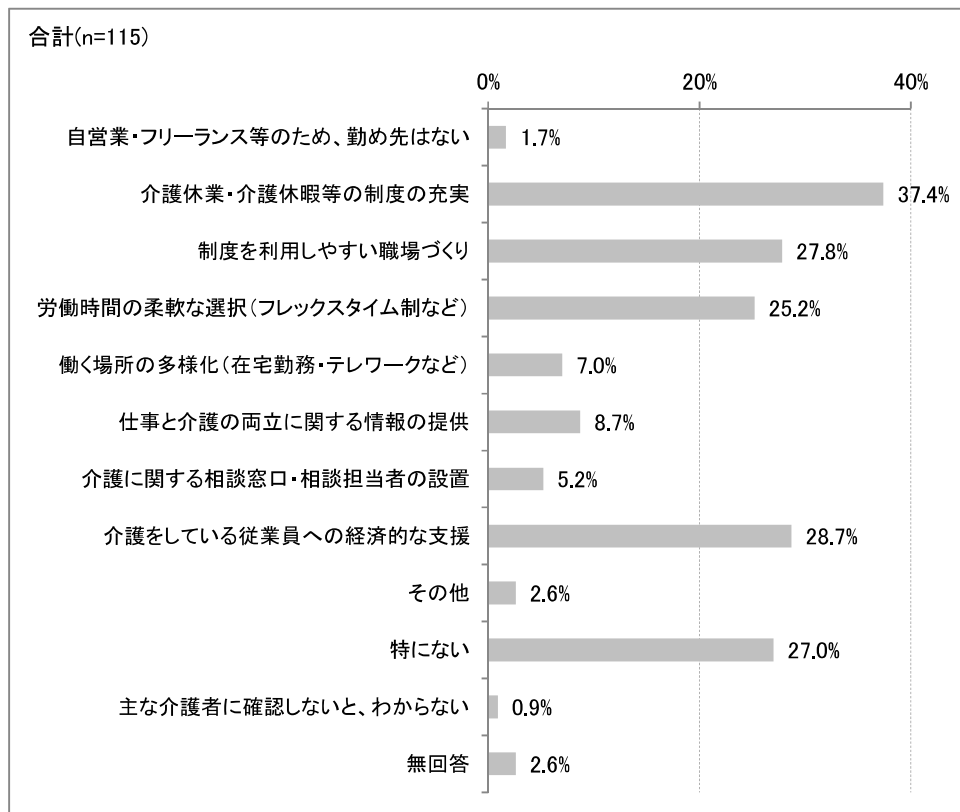
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く 37.4%となっている。次いで、「介護をしている従業員への経済的な支援 (28.7%)」、「制度を利用しやすい職場づくり (27.8%)」となっている。

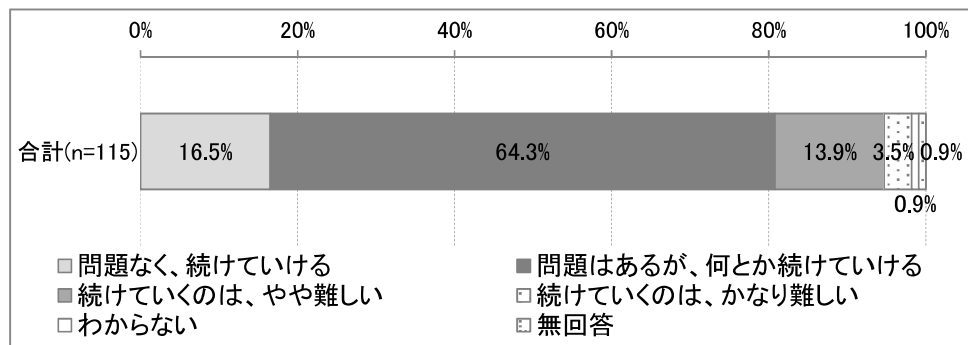
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 64.3%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (16.5%)」、「続けていくのは、やや難しい (13.9%)」となっている。

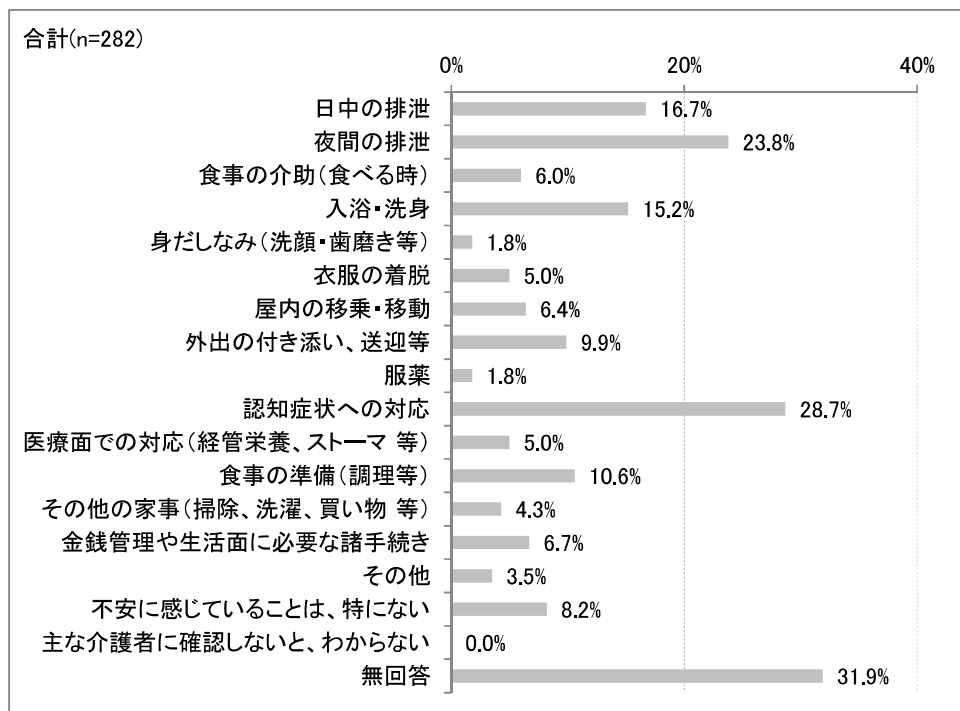
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 28.7%となっている。次いで、「夜間の排泄 (23.8%)」、「日中の排泄 (16.7%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

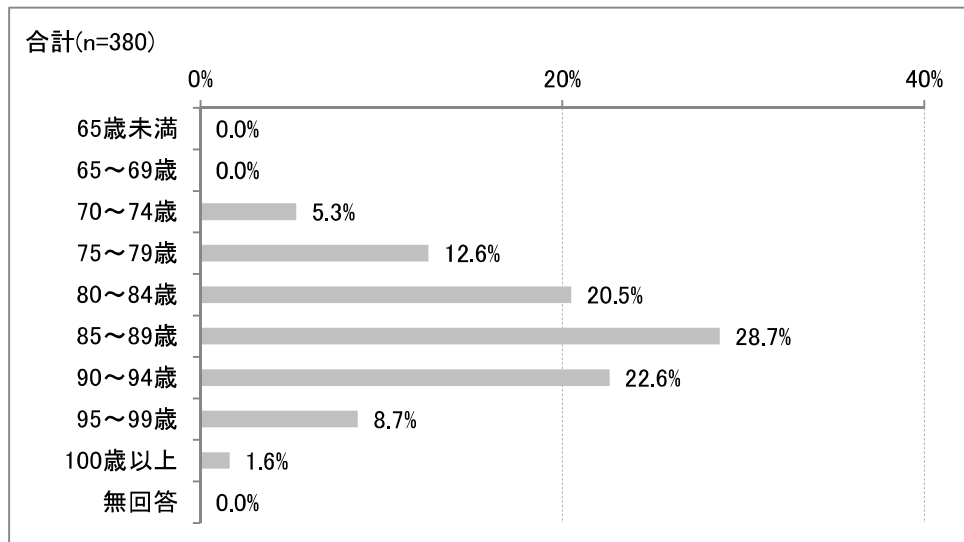


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く28.7%となっている。次いで、「90～94歳（22.6%）」、「80～84歳（20.5%）」となっている。

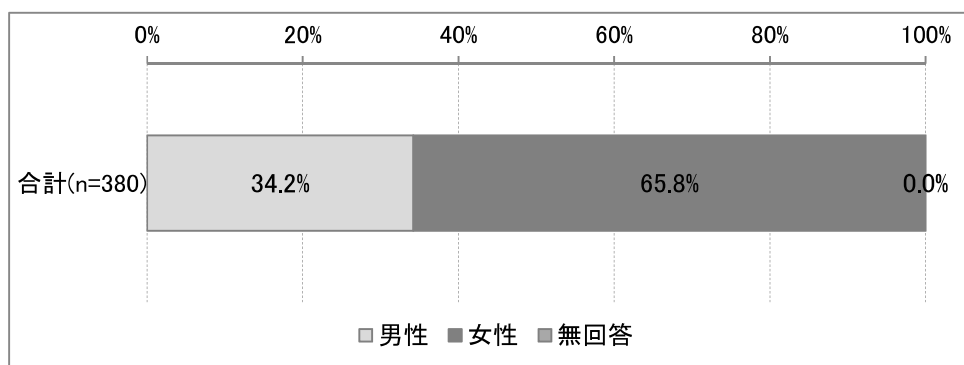
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」が65.8%、「男性」が34.2%となっている。

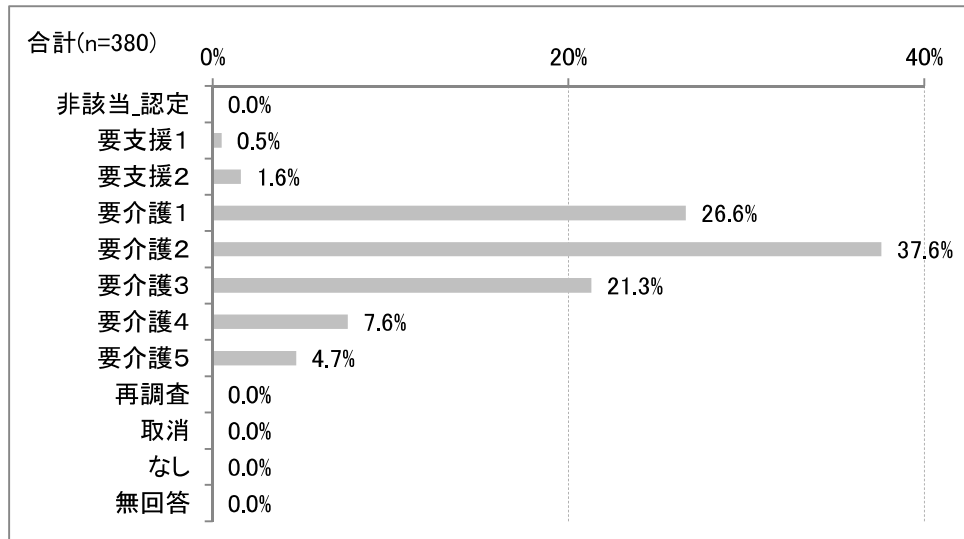
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護2」の割合が最も高く37.6%となっている。次いで、「要介護1（26.6%）」、「要介護3（21.3%）」となっている。

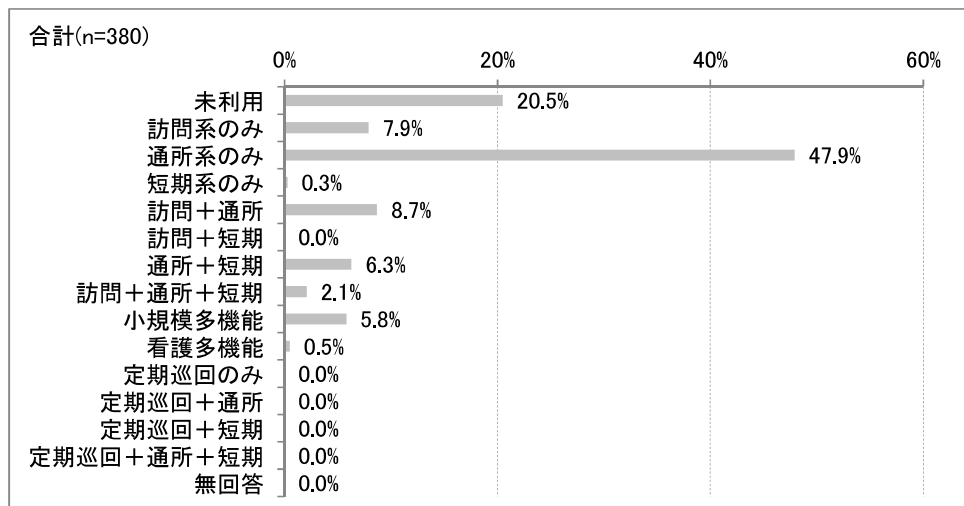
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く47.9%となっている。次いで、「未利用（20.5%）」、「訪問+通所（8.7%）」となっている。

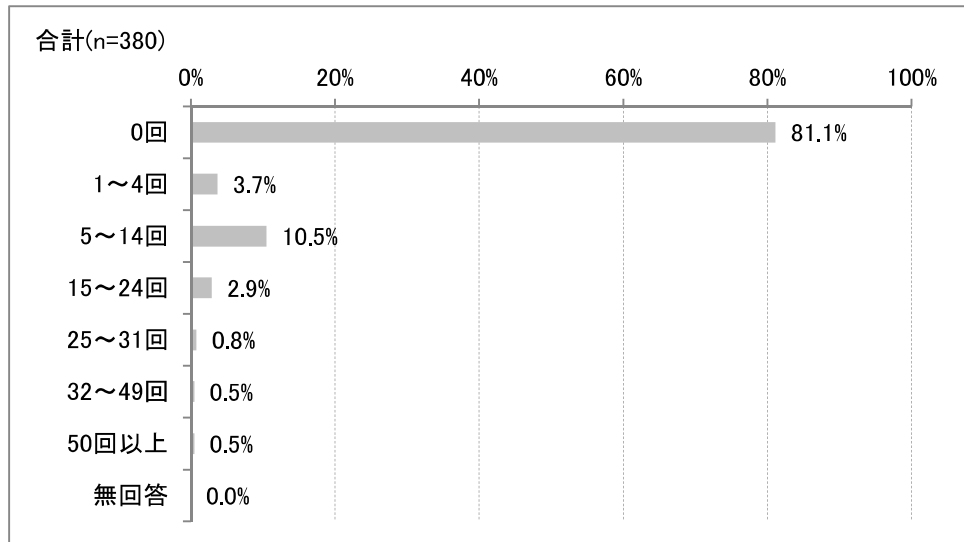
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く81.1%となっている。次いで、「5～14回（10.5%）」、「1～4回（3.7%）」となっている。

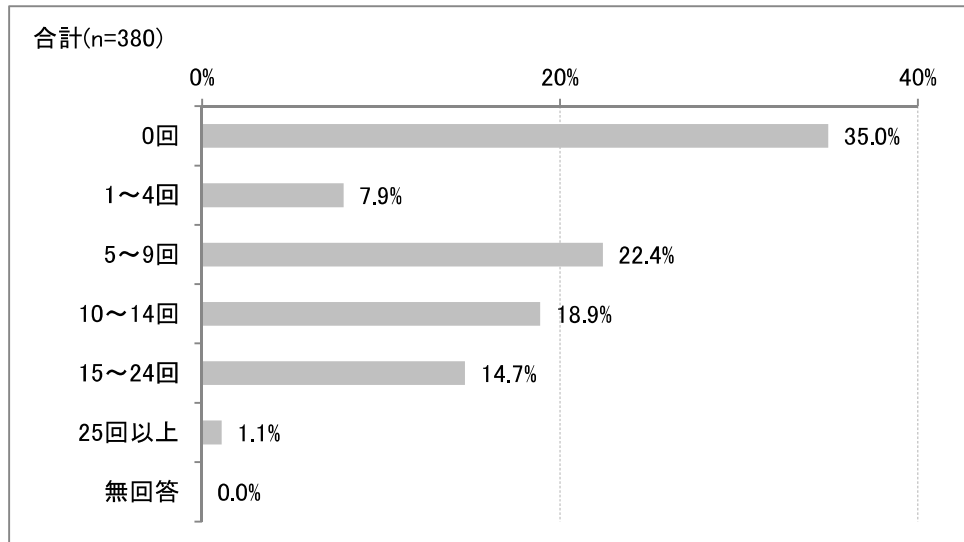
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 35.0%となっている。次いで、「5～9回（22.4%）」、「10～14回（18.9%）」となっている。

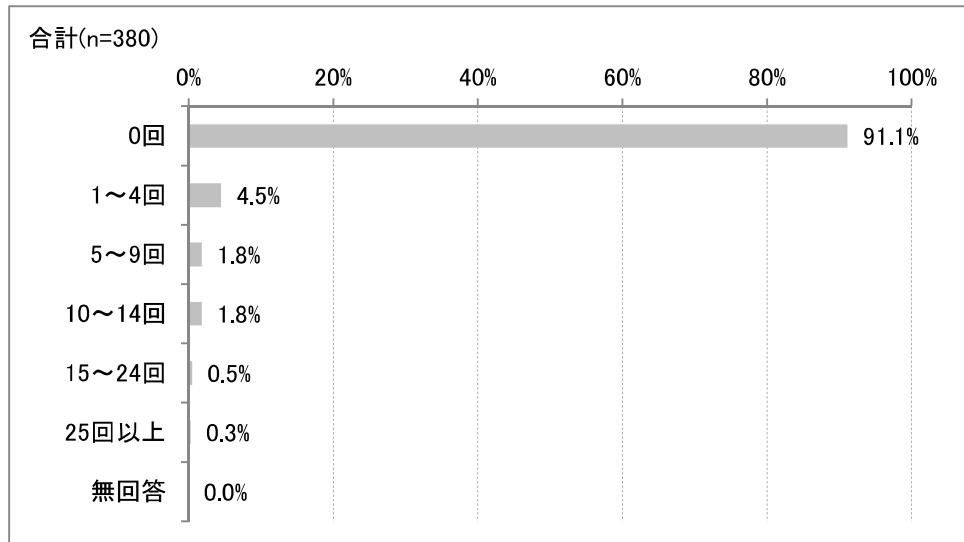
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 91.1%となっている。次いで、「1～4回 (4.5%)」、「5～9回 (1.8%)」、「10～14回 (1.8%)」となっている。

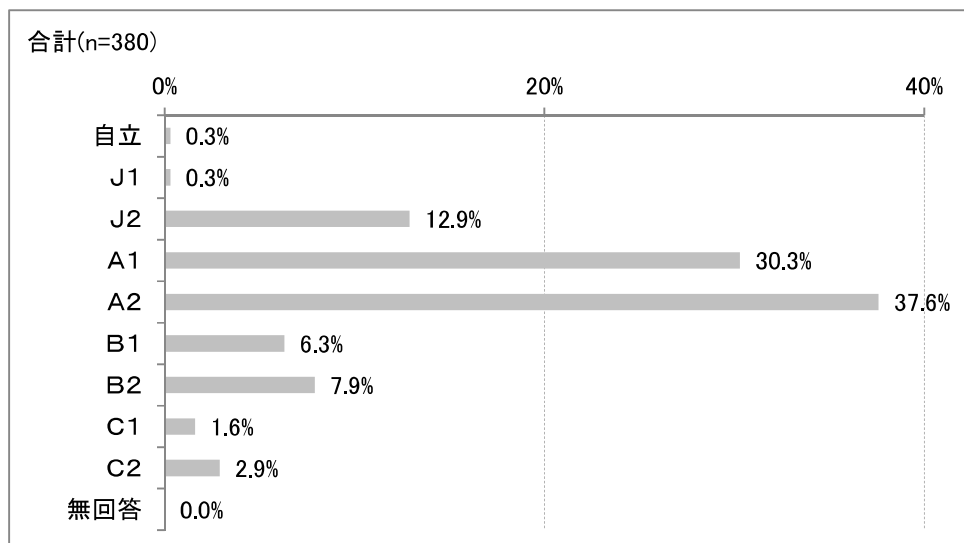
図表 3-7 サービスの利用回数 (短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 2」の割合が最も高く 37.6%となっている。次いで、「A 1 (30.3%)」、「J 2 (12.9%)」となっている。

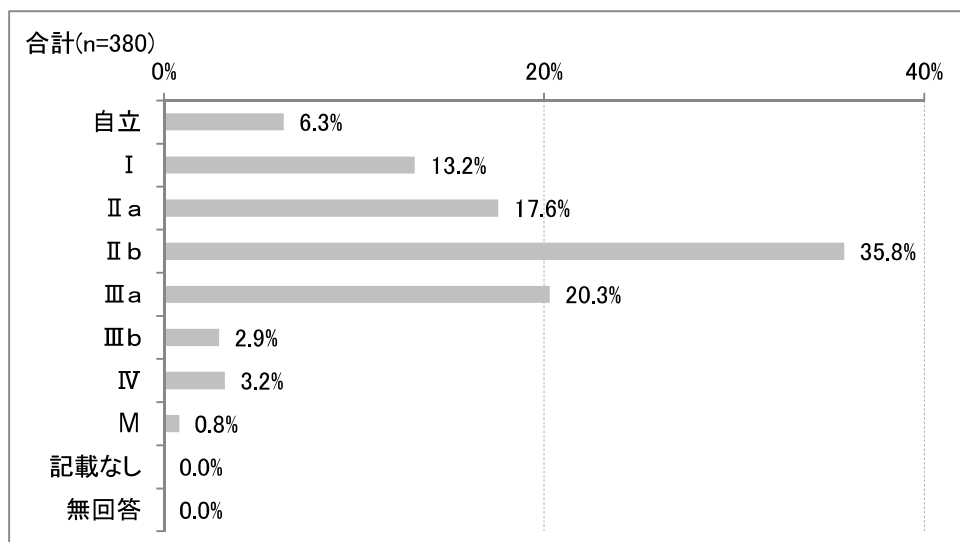
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅱ b」の割合が最も高く 35.8%となっている。次いで、「Ⅲ a (20.3%)」、「Ⅱ a (17.6%)」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



第3章

クロス集計

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

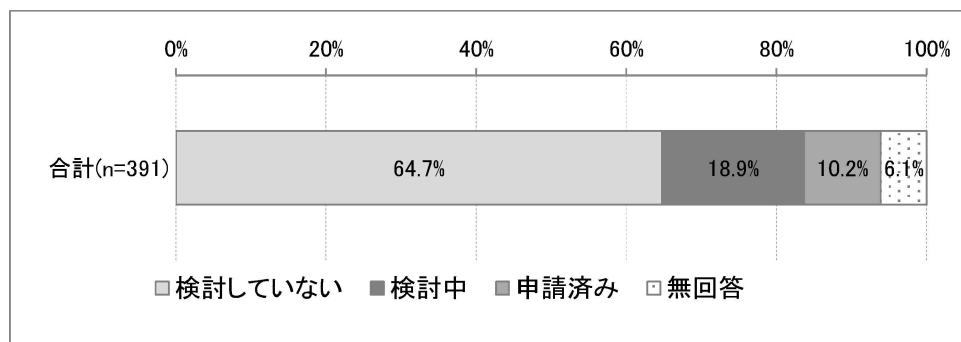
(1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 64.7%となっている。次いで、「検討中（18.9%）」、「申請済み（10.2%）」となっている。

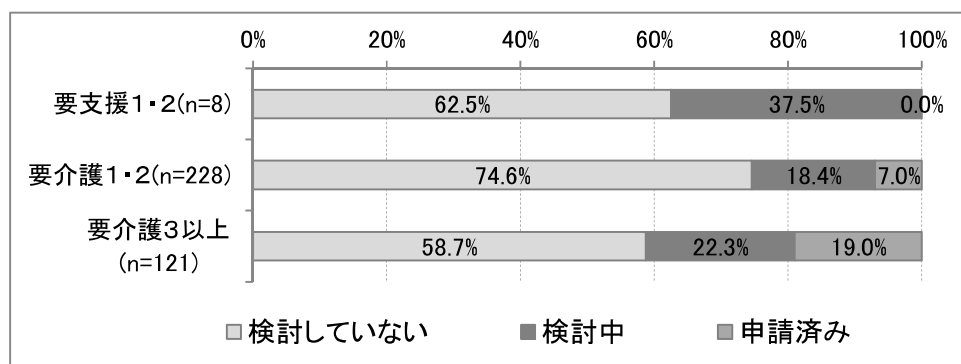
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.5%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が74.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.4%、「申請済み」が7.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が58.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.3%、「申請済み」が19.0%となっている。

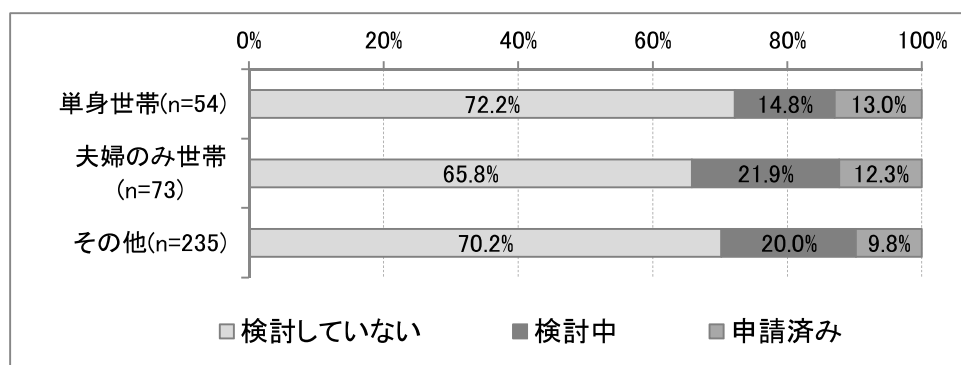
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<**>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が72.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.8%、「申請済み」が13.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が65.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.9%、「申請済み」が12.3%となっている。「その他」では「検討していない」が70.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が9.8%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安を感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安を感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えると考えられる「主な介護者が不安を感じる介護」を推測することも可能になります。

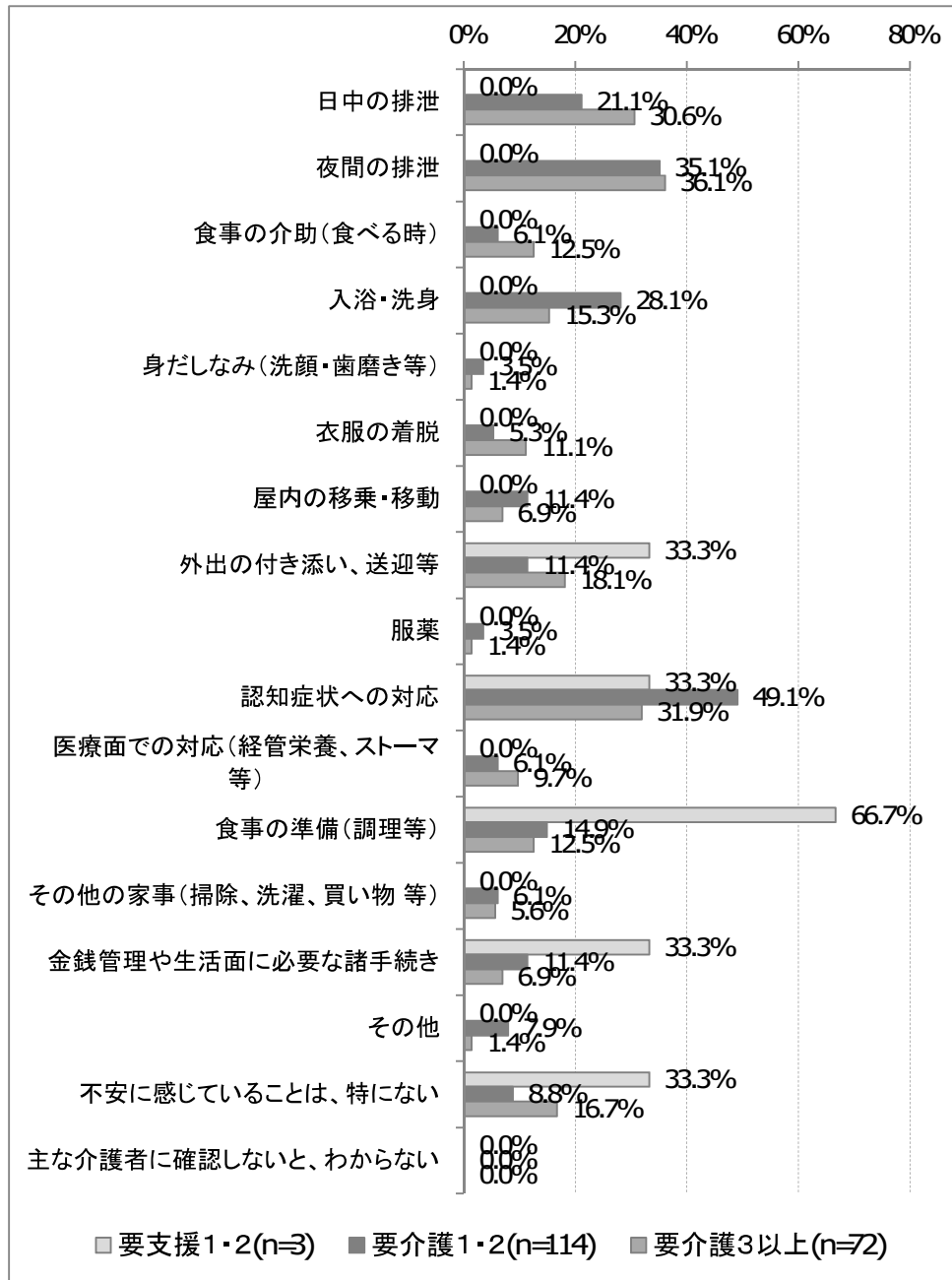
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「食事の準備（調理等）」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」が33.3%となっている。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が49.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.1%、「入浴・洗身」が28.1%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が36.1%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が31.9%、「日中の排泄」が30.6%となっている。

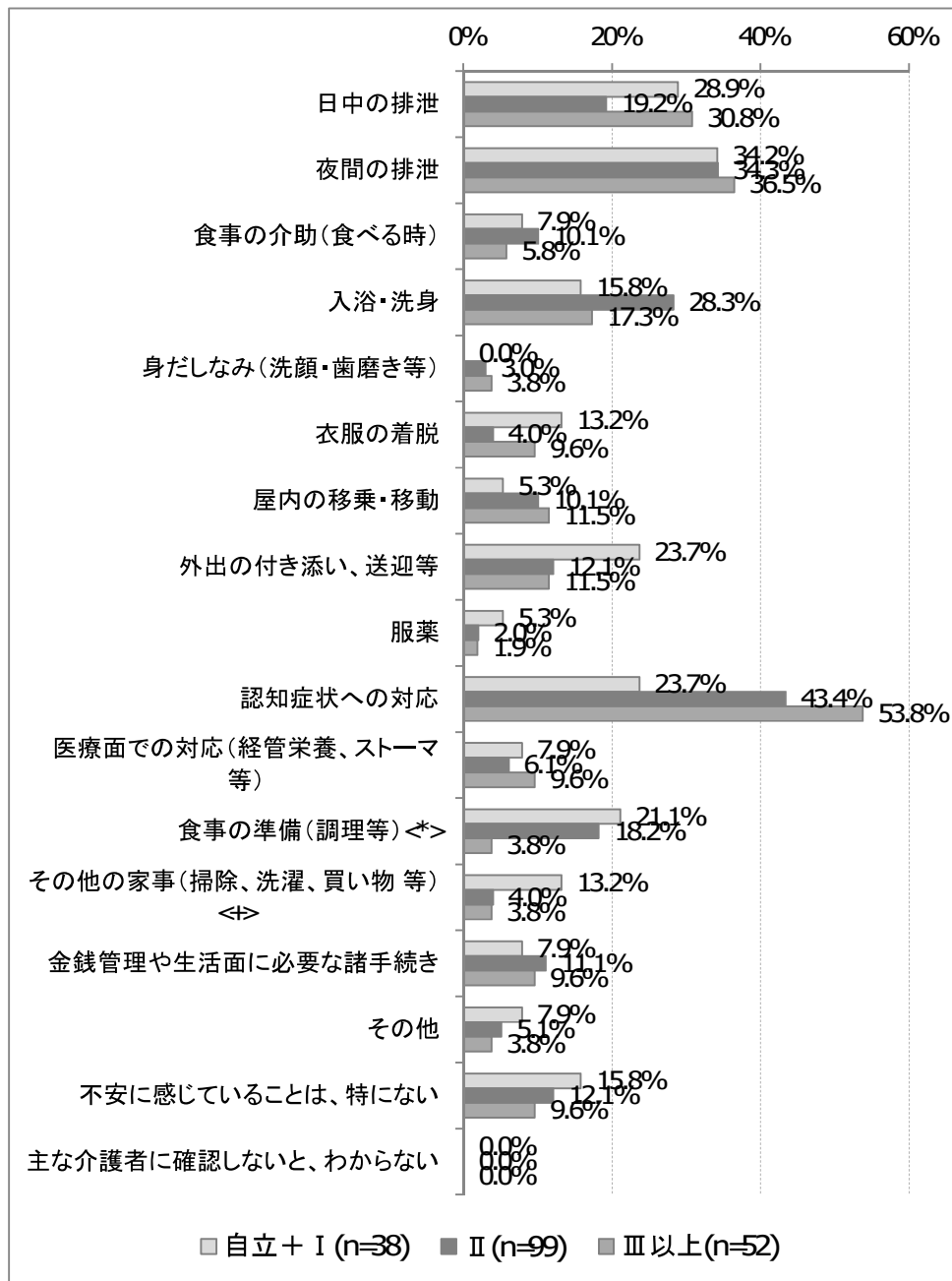
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「夜間の排泄」が34.2%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が28.9%、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が23.7%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が43.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.3%、「入浴・洗身」が28.3%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が36.5%、「日中の排泄」が30.8%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

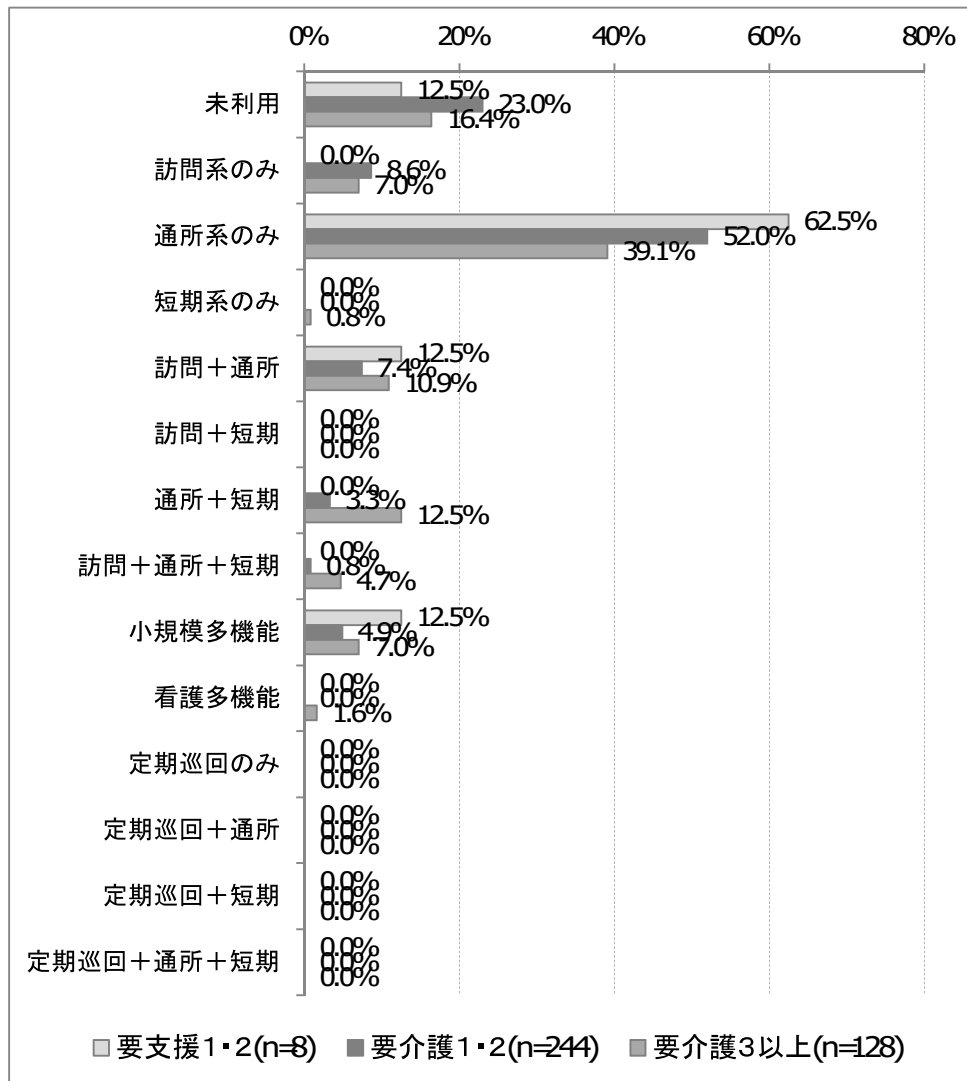
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「通所系のみ」が62.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」、 「訪問+通所」、「小規模多機能」が12.5%となっている。「要介護1・2」では「通所系のみ」が52.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.0%、「訪問系のみ」が8.6%となっている。「要介護3以上」では「通所系のみ」が39.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が16.4%、「通所+短期」が12.5%となっている。

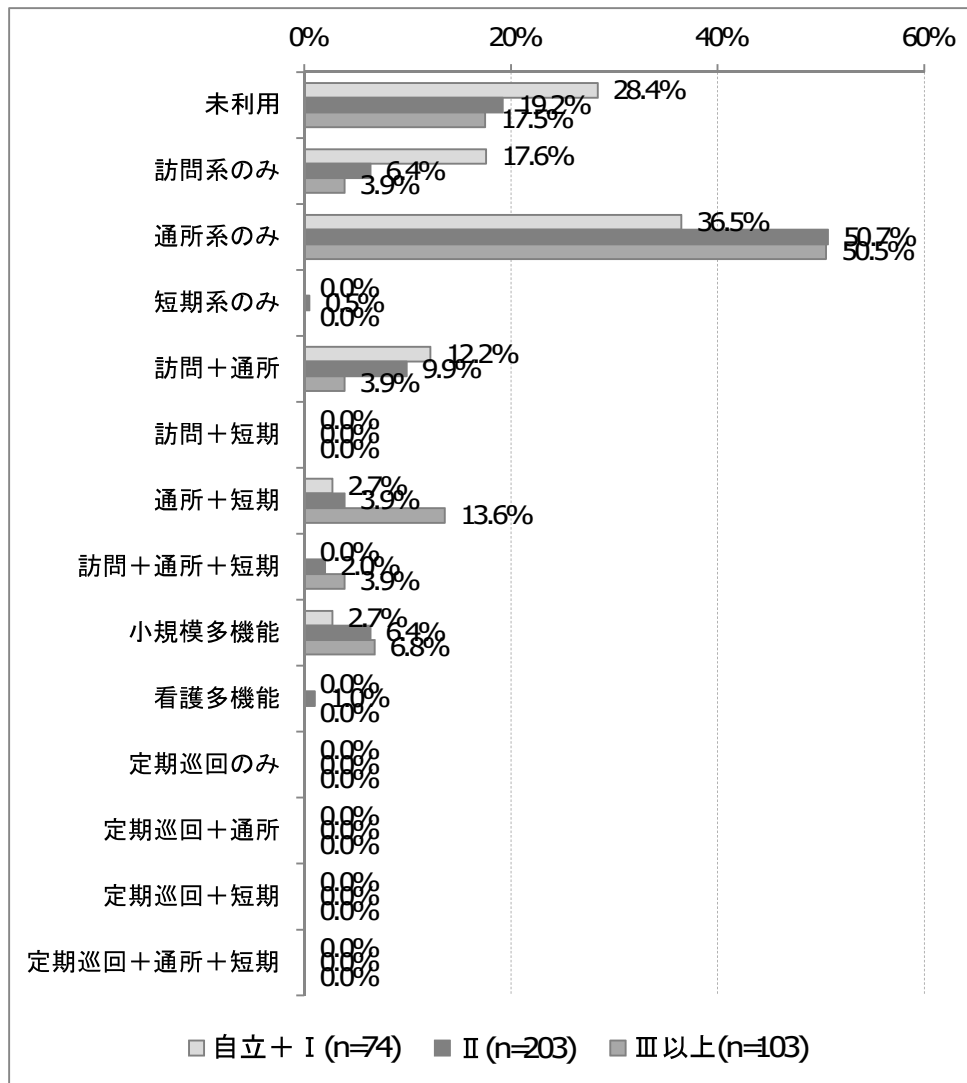
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<**>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系のみ」が36.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が28.4%、「訪問系のみ」が17.6%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が50.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が19.2%、「訪問+通所」が9.9%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が50.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が17.5%、「通所+短期」が13.6%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



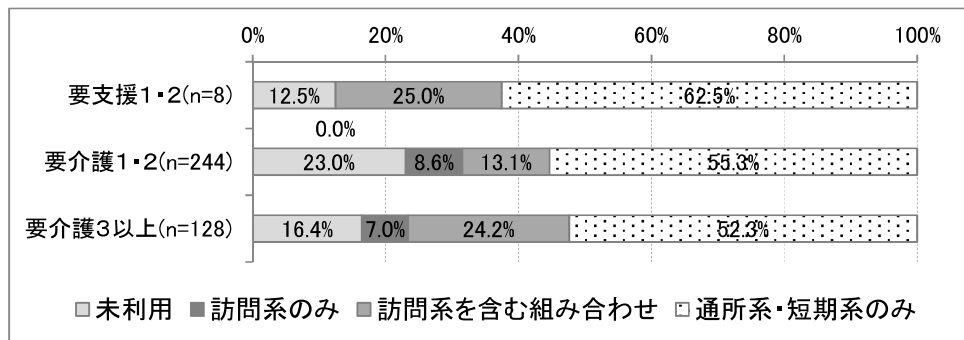
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「未利用」が12.5%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が55.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.1%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が52.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.2%、「未利用」が16.4%となっている。

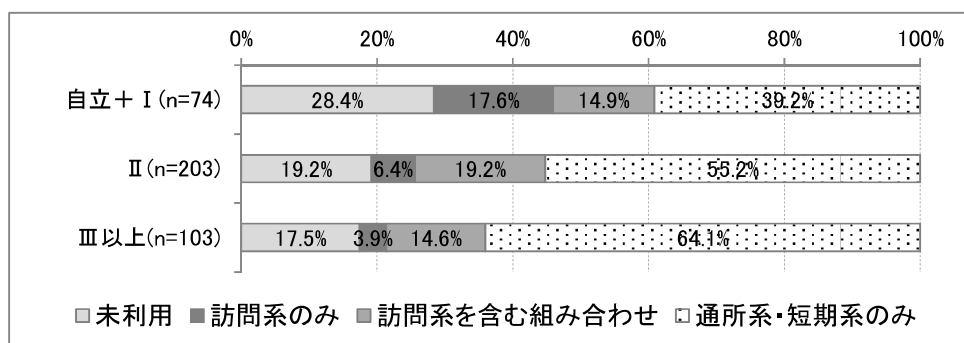
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が39.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が28.4%、「訪問系のみ」が17.6%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が55.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が19.2%、「訪問系のみ」が6.4%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が64.1%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が17.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が14.6%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<**>



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- 図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

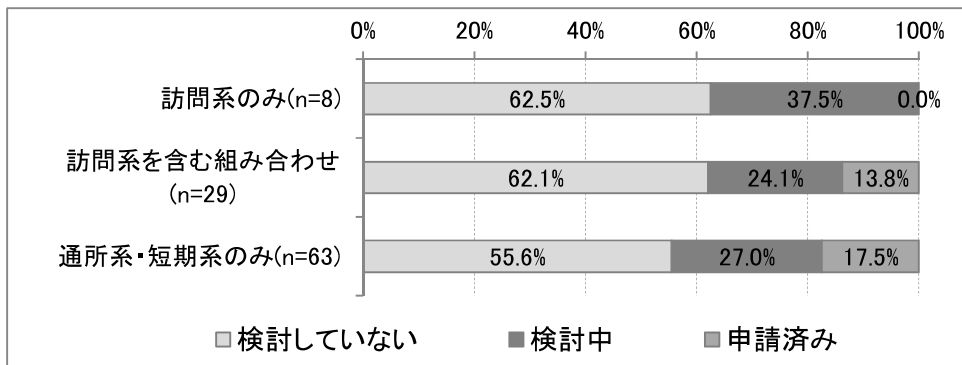
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.5%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が62.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.1%、「申請済み」が13.8%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.0%、「申請済み」が17.5%となっている。

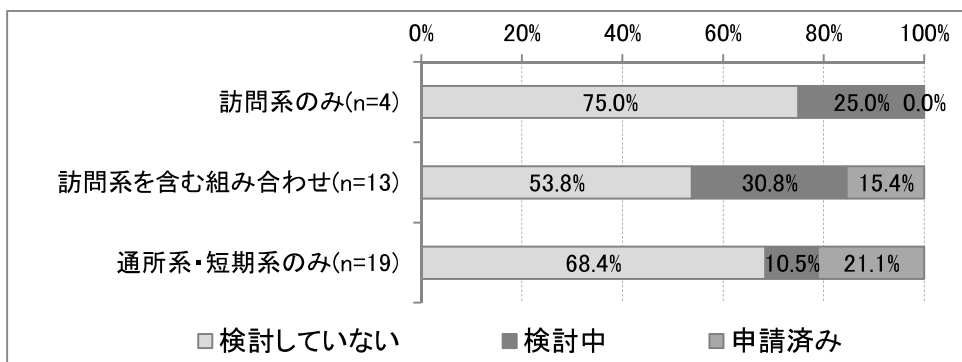
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.8%、「申請済み」が15.4%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が68.4%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が21.1%、「検討中」が10.5%となっている。

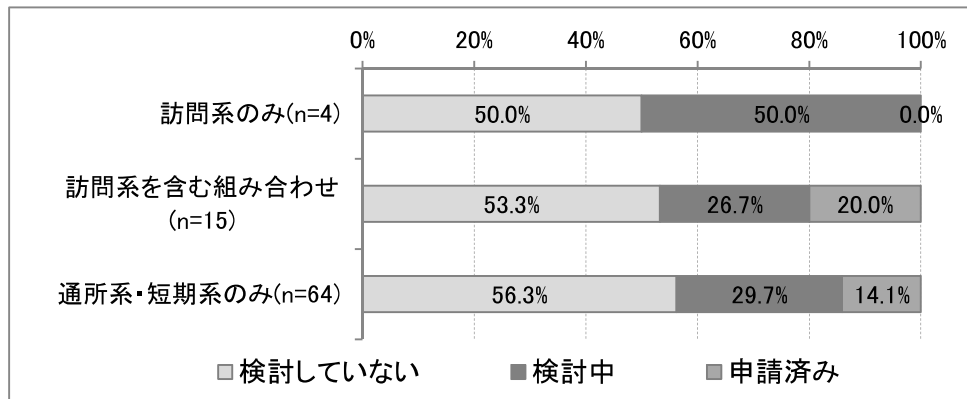
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」、「検討中」が50.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が53.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.7%、「申請済み」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が56.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が29.7%、「申請済み」が14.1%となっている。

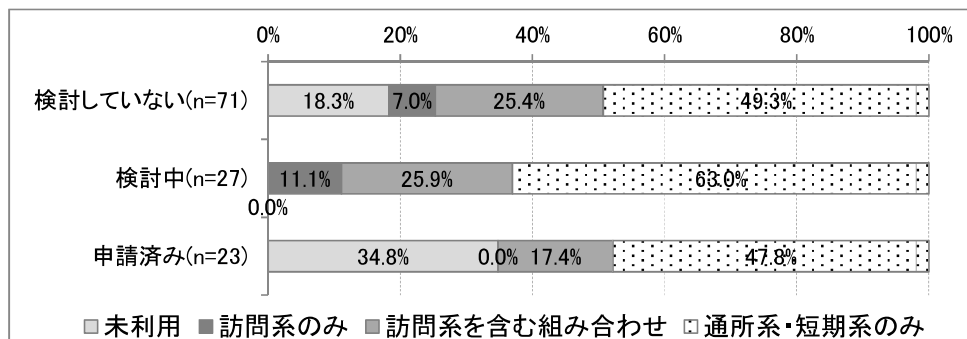
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が49.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.4%、「未利用」が18.3%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が63.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.9%、「訪問系のみ」が11.1%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が47.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が34.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.4%となっている。

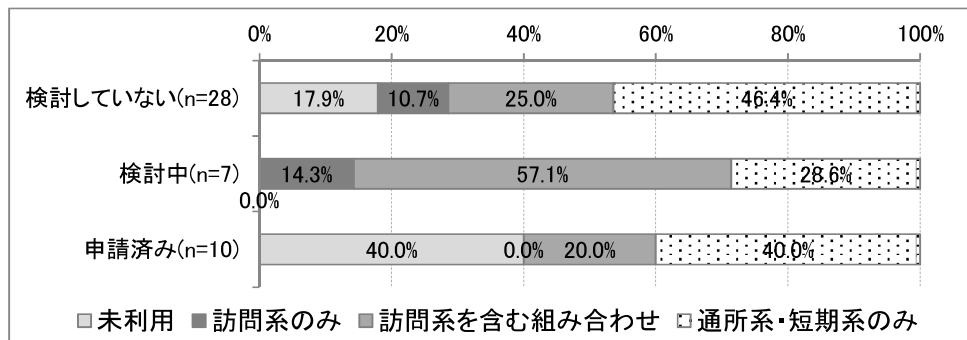
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）<+>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が46.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「未利用」が17.9%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.6%、「訪問系のみ」が14.3%となっている。「申請済み」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が20.0%となっている。

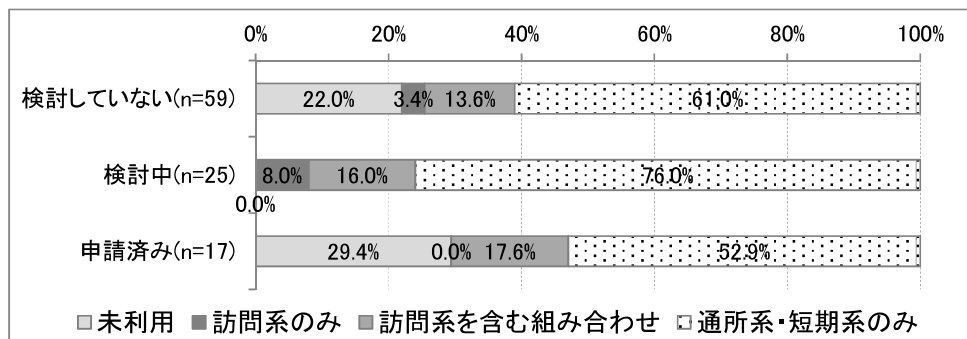
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が61.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.6%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が76.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が16.0%、「訪問系のみ」が8.0%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が52.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が29.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.6%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

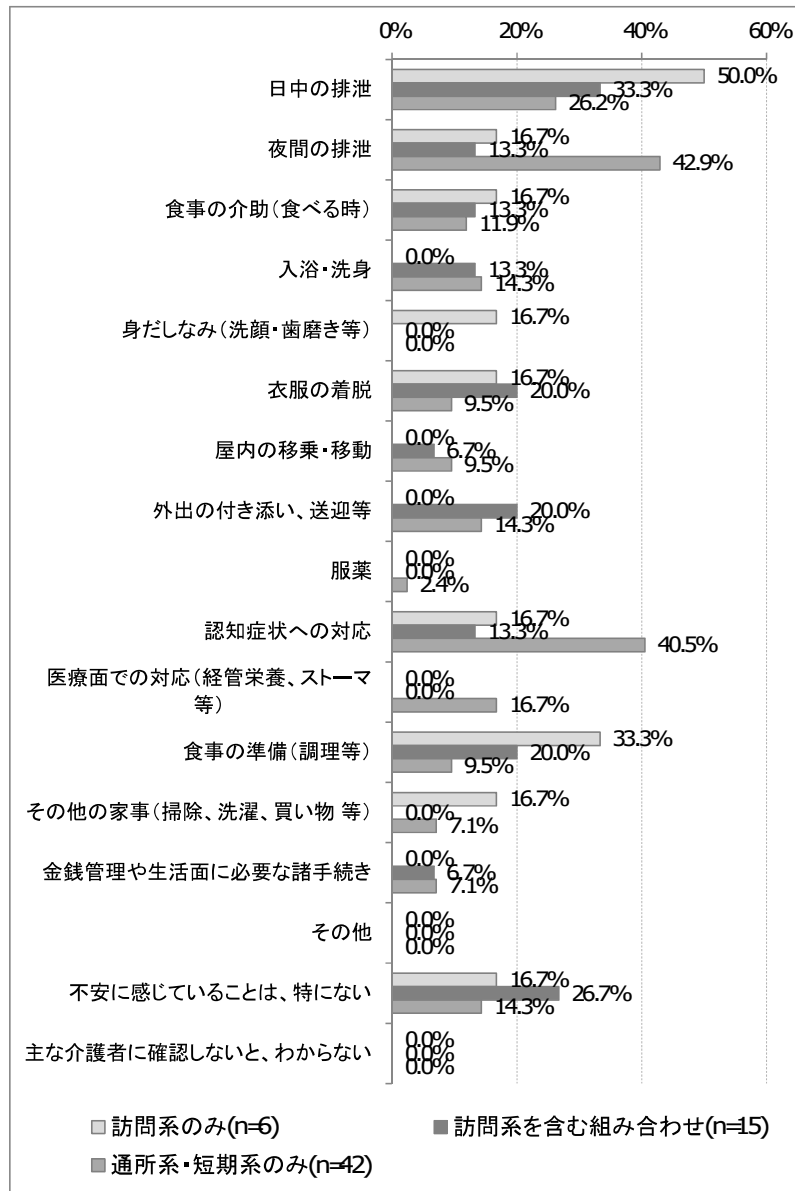
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、○○の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、○○の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」が33.3%、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」、「不安に感じていることは、特にない」が16.7%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「日中の排泄」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「不安に感じていることは、特にない」が26.7%、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備(調理等)」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が40.5%、「日中の排泄」が26.2%となっている。

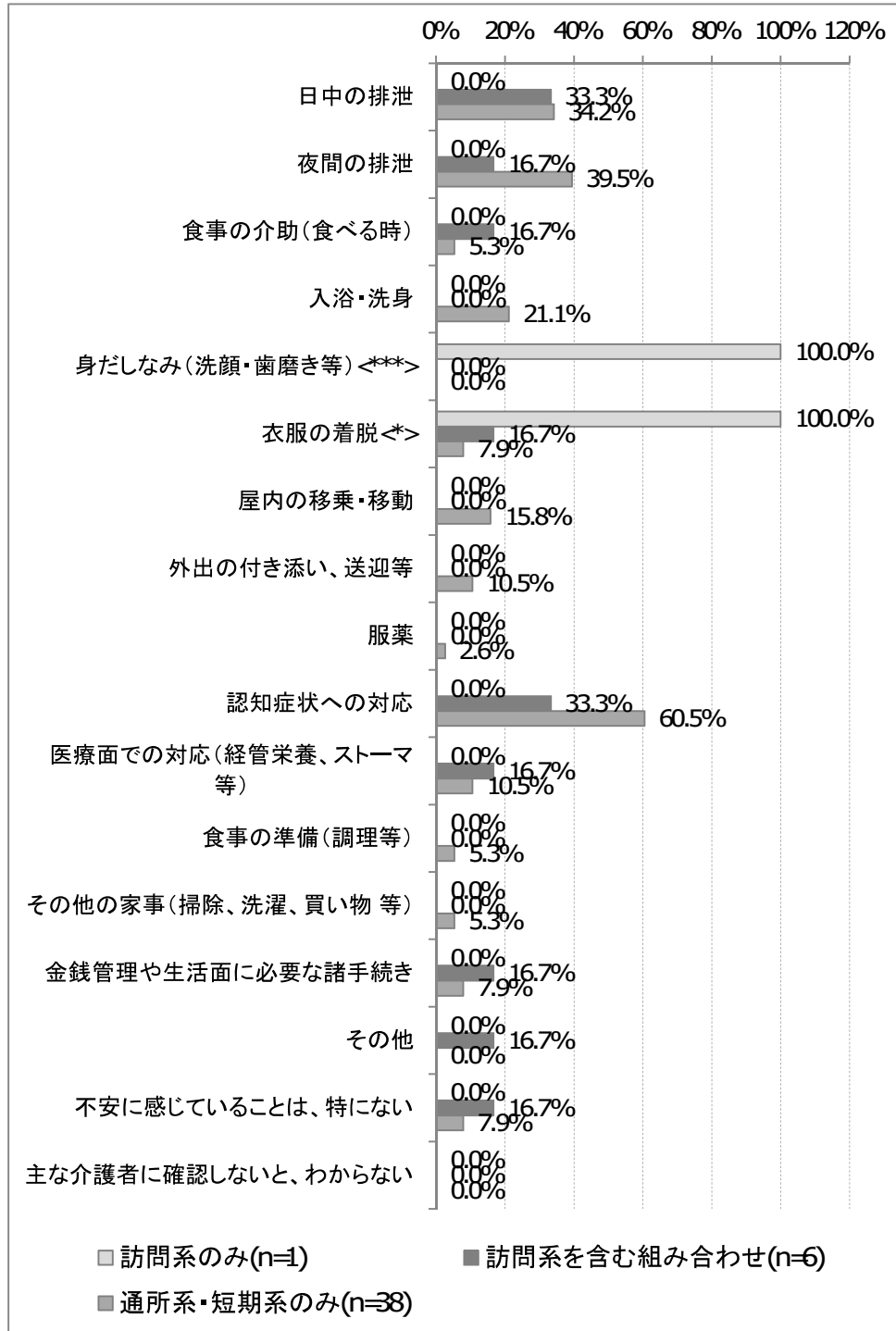
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系を含む組み合わせ」では「日中の排泄」、「認知症状への対応」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「衣服の着脱」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安を感じていることは、特にない」が16.7%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が60.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が39.5%、「日中の排泄」が34.2%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

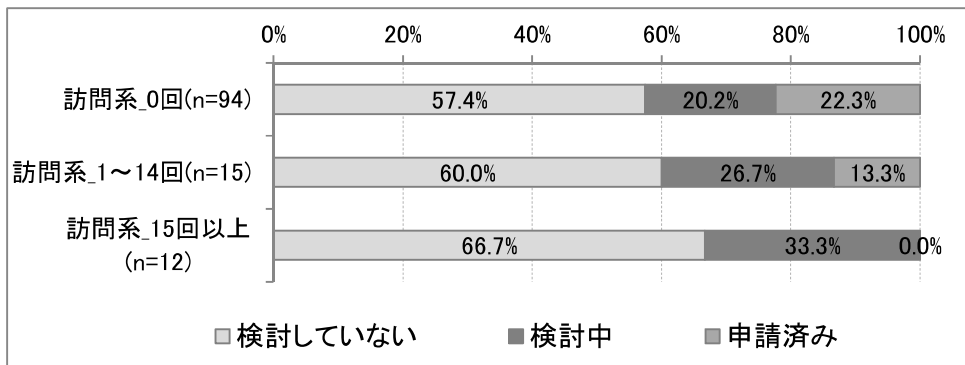
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が57.4%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が22.3%、「検討中」が20.2%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.7%、「申請済み」が13.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%となっている。

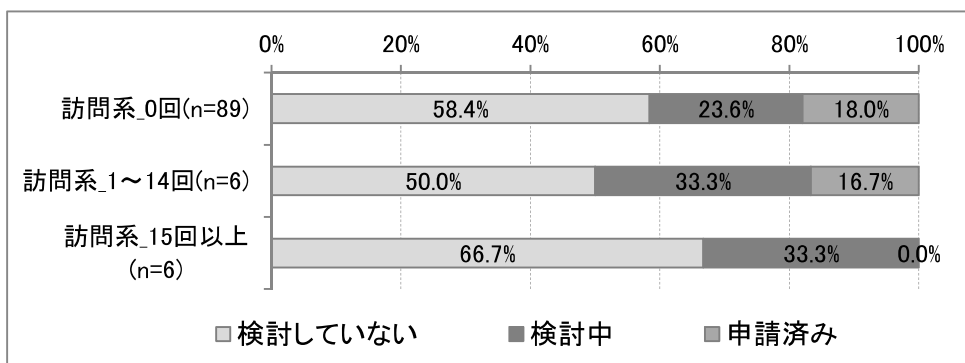
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況 (訪問系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が58.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.6%、「申請済み」が18.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が16.7%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%となっている。

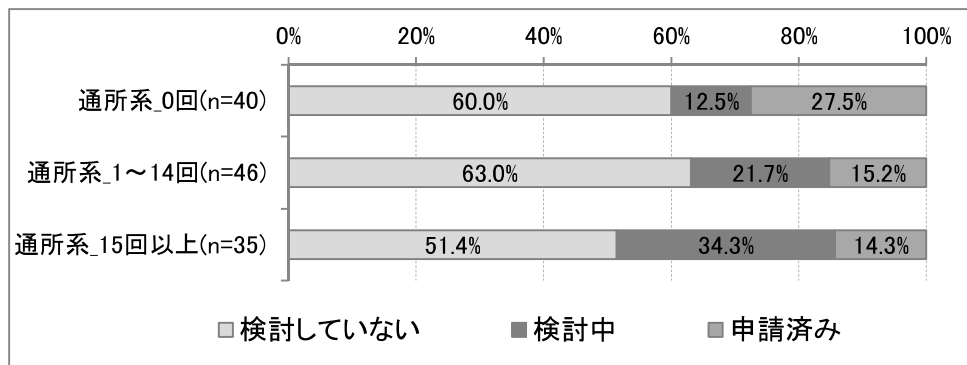
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況 (訪問系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.5%、「検討中」が12.5%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が63.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.7%、「申請済み」が15.2%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が51.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が34.3%、「申請済み」が14.3%となっている。

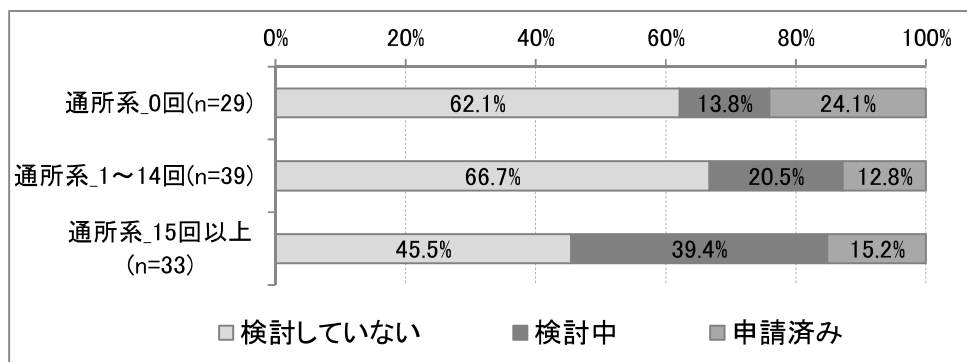
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況 (通所系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が62.1%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が24.1%、「検討中」が13.8%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.5%、「申請済み」が12.8%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が39.4%、「申請済み」が15.2%となっている。

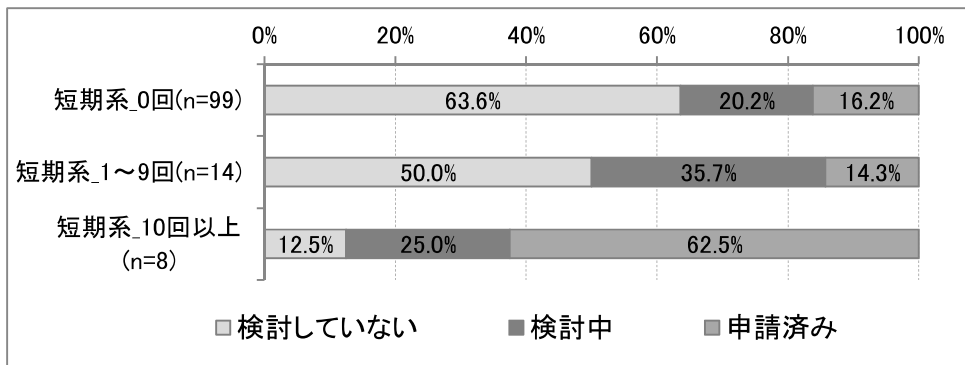
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況 (通所系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が63.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.2%、「申請済み」が16.2%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が35.7%、「申請済み」が14.3%となっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「検討していない」が12.5%となっている。

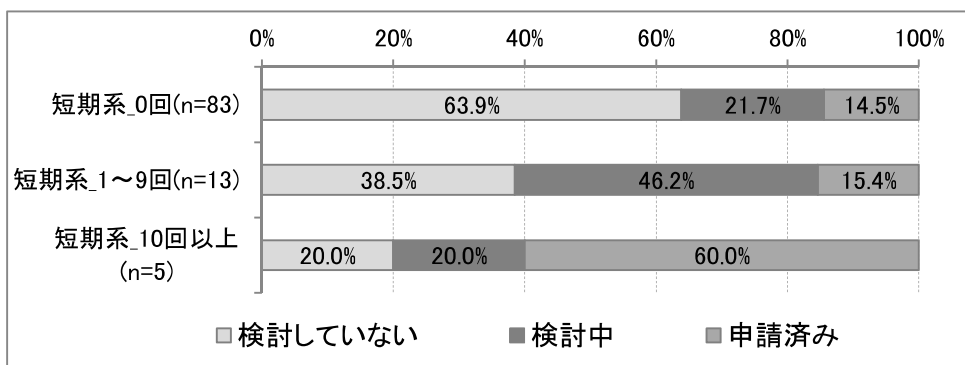
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）<**>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が63.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.7%、「申請済み」が14.5%となっている。「短期系_1～9回」では「検討中」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が38.5%、「申請済み」が15.4%となっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「検討中」が20.0%となっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）<*>



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

【留意事項】

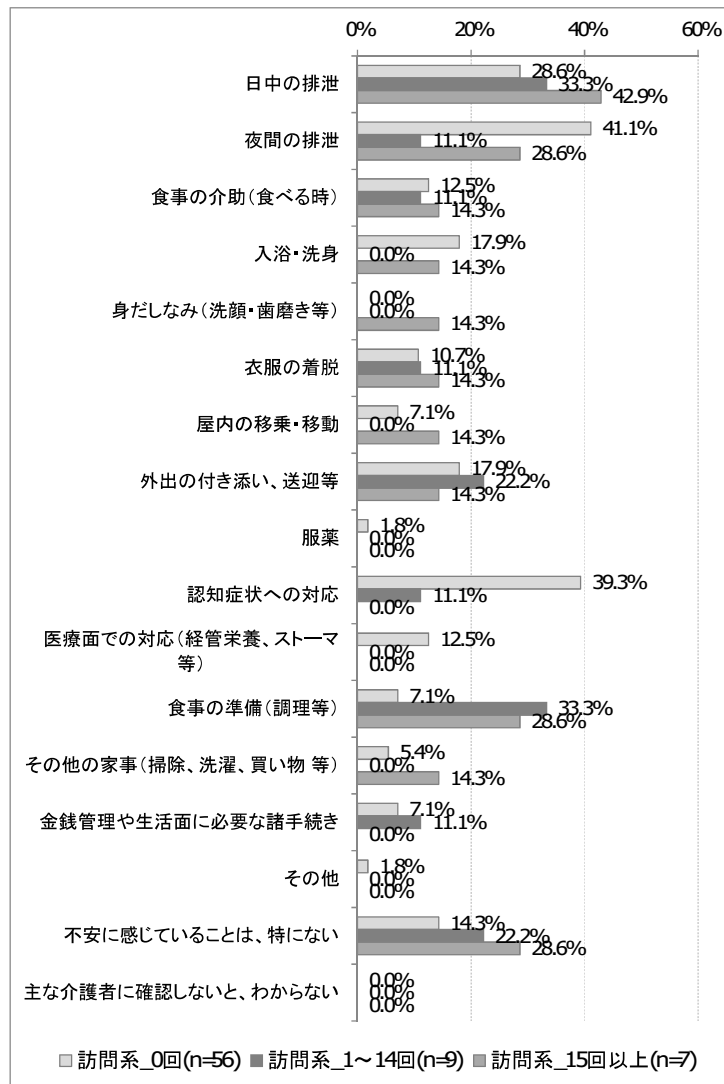
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が41.1%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が39.3%、「日中の排泄」が28.6%となっている。「訪問系_1～14回」では「日中の排泄」、「食事の準備(調理等)」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「不安を感じていることは、特にない」が22.2%、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が11.1%となっている。

「訪問系_15回以上」では「日中の排泄」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の準備(調理等)」、「不安を感じていることは、特にない」が28.6%、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が14.3%となっている。

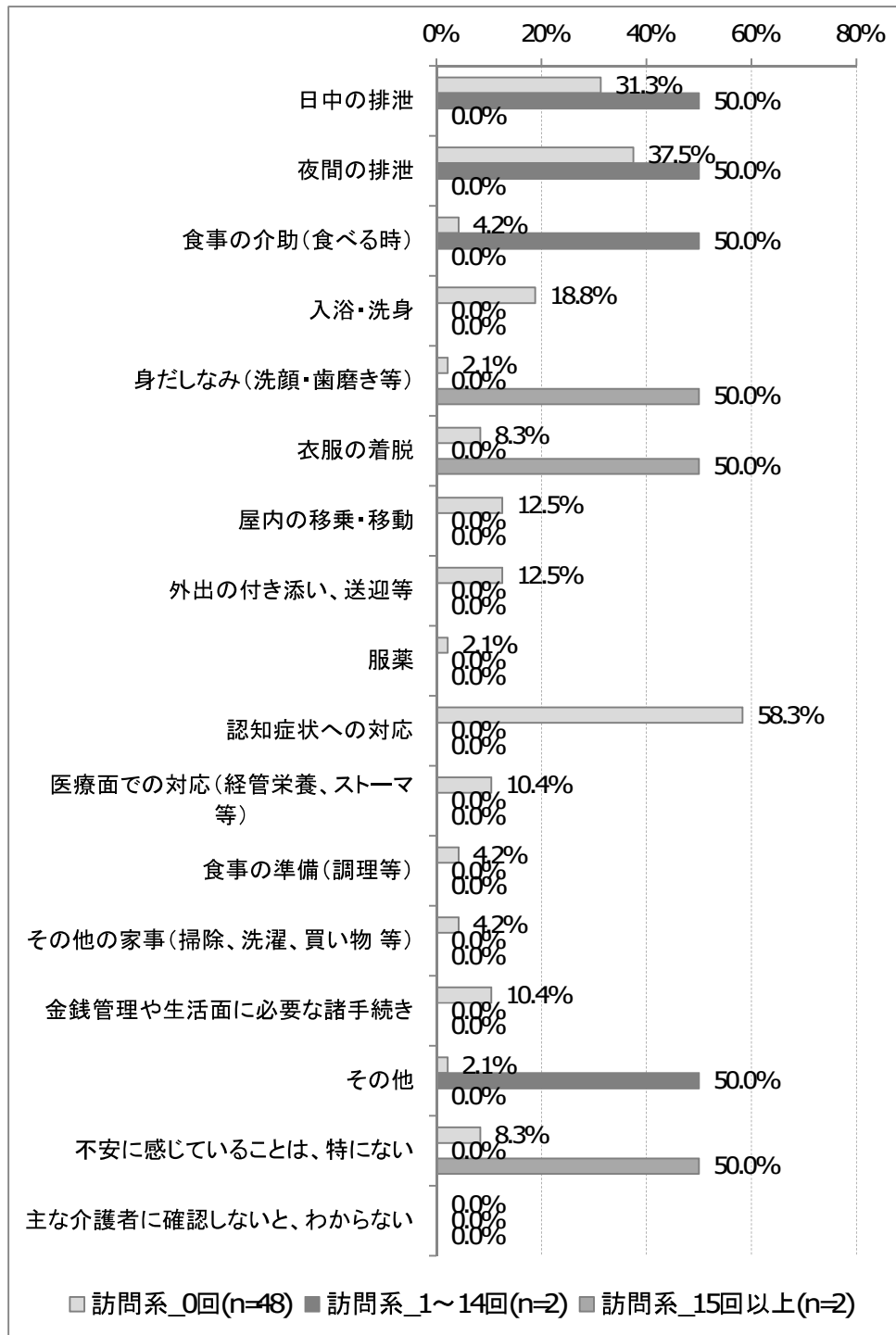
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症
状への対応」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.5%、「日中の排
泄」が31.3%となっている。「訪問系_1～14回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事
の介助(食べる時)」、「その他」が50.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「身だし
なみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「不安に感じていることは、特にない」が50.0%
となっている。

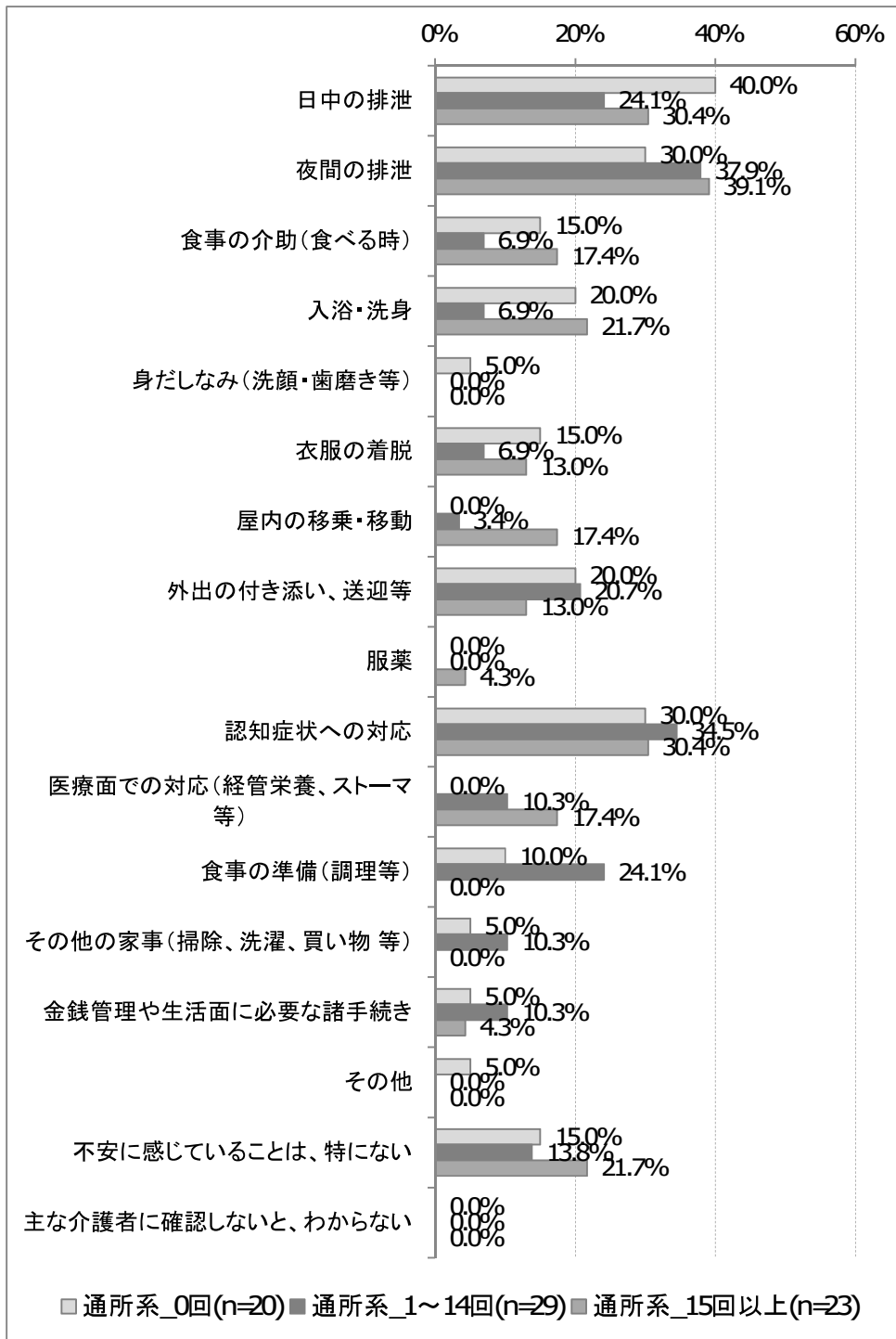
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「日中の排泄」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が30.0%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が20.0%となっている。「通所系_1～14回」では「夜間の排泄」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が34.5%、「日中の排泄」、「食事の準備(調理等)」が24.1%となっている。「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が30.4%、「入浴・洗身」、「不安に感じていることは、特にない」が21.7%となっている。

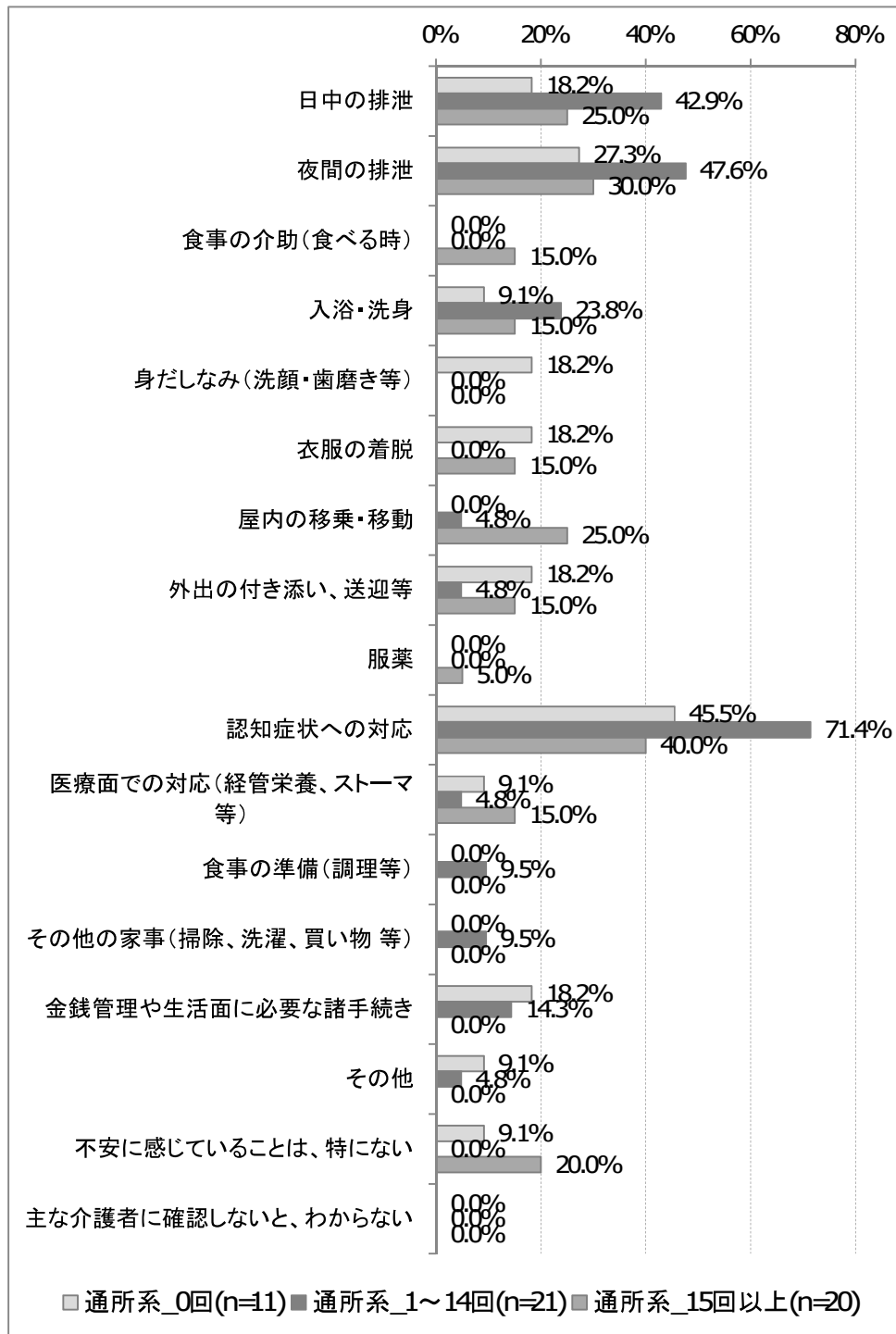
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「認知症状への対応」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が27.3%、「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が18.2%となっている。「通所系_1~14回」では「認知症状への対応」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が47.6%、「日中の排泄」が42.9%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.0%、「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が25.0%となっている。

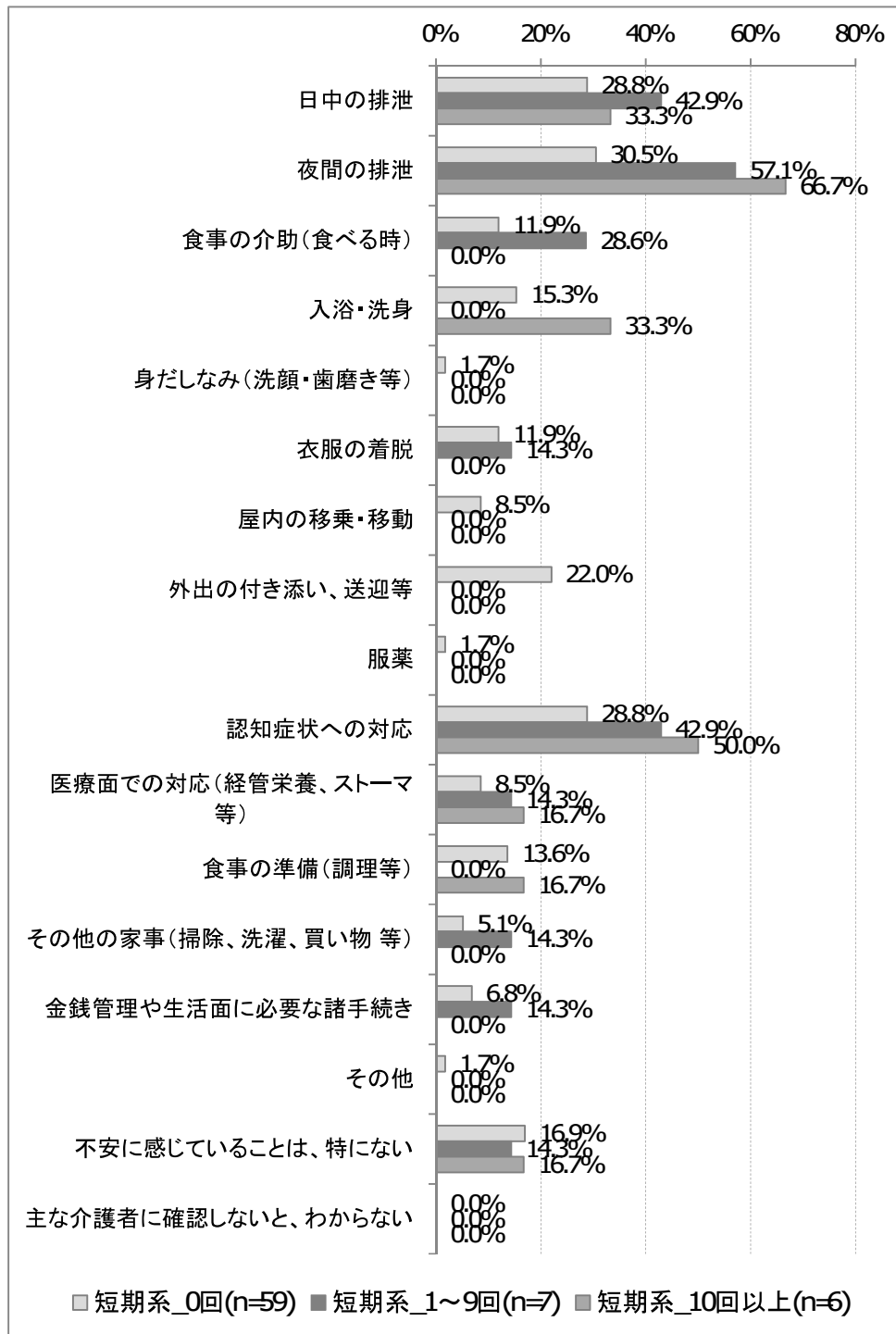
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「夜間の排泄」が30.5%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が28.8%、「外出の付き添い、送迎等」が22.0%となっている。「短期系_1～9回」では「夜間の排泄」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が42.9%、「食事の介助(食べる時)」が28.6%となっている。「短期系_10回以上」では「夜間の排泄」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が50.0%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が33.3%となっている。

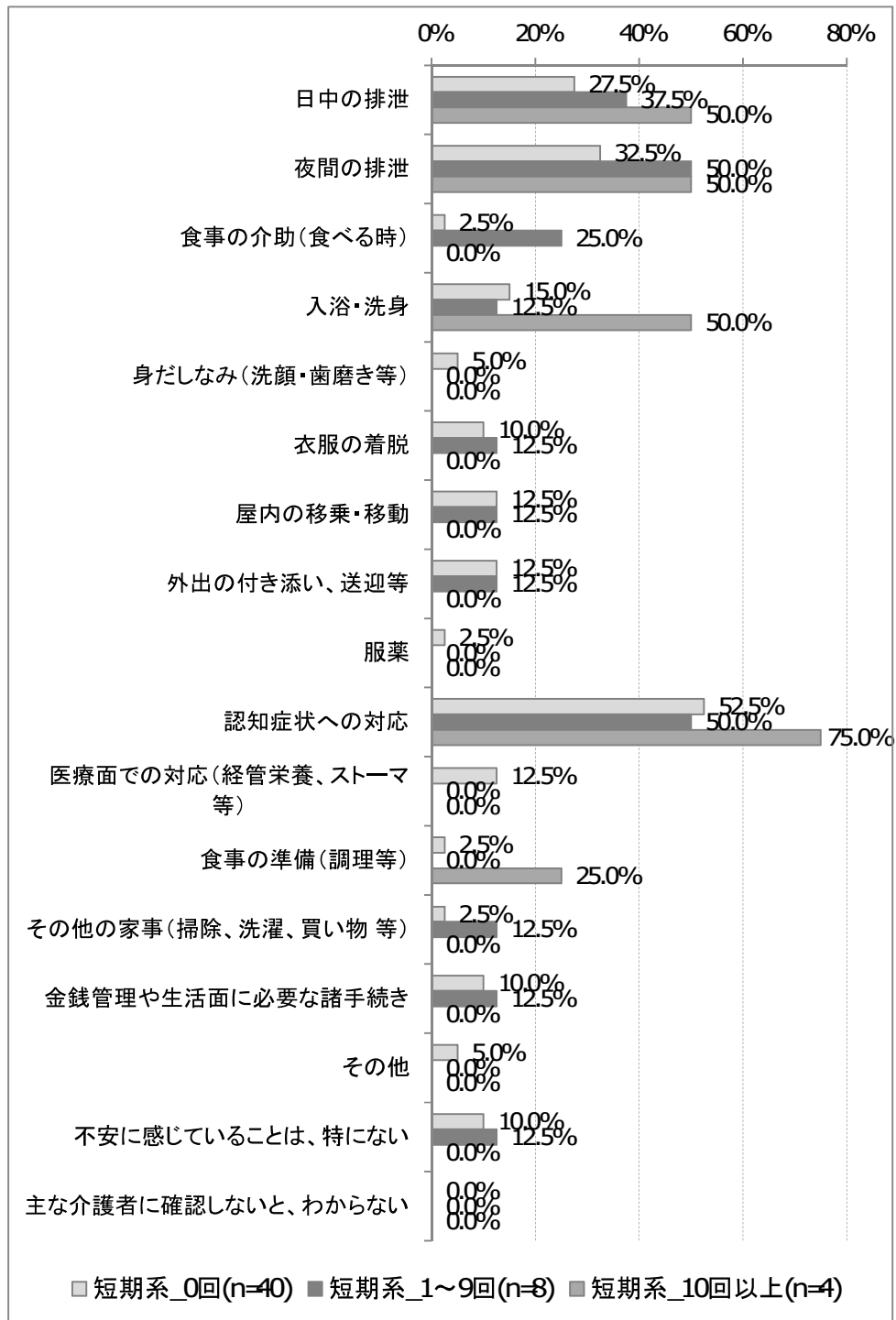
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が52.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が32.5%、「日中の排泄」が27.5%となっている。「短期系_1～9回」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が37.5%、「食事の介助(食べる時)」が25.0%となっている。「短期系_10回以上」では「認知症状への対応」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が50.0%、「食事の準備(調理等)」が25.0%となっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

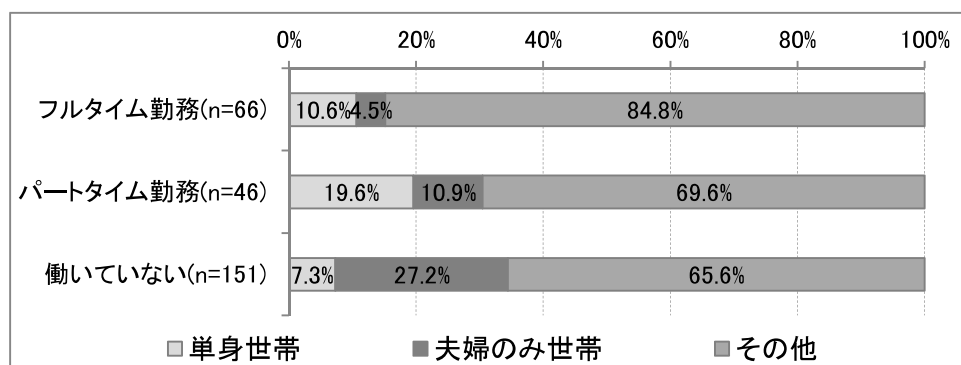
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が84.8%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が10.6%、「夫婦のみ世帯」が4.5%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が69.6%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が19.6%、「夫婦のみ世帯」が10.9%となっている。「働いていない」では「その他」が65.6%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が27.2%、「単身世帯」が7.3%となっている。

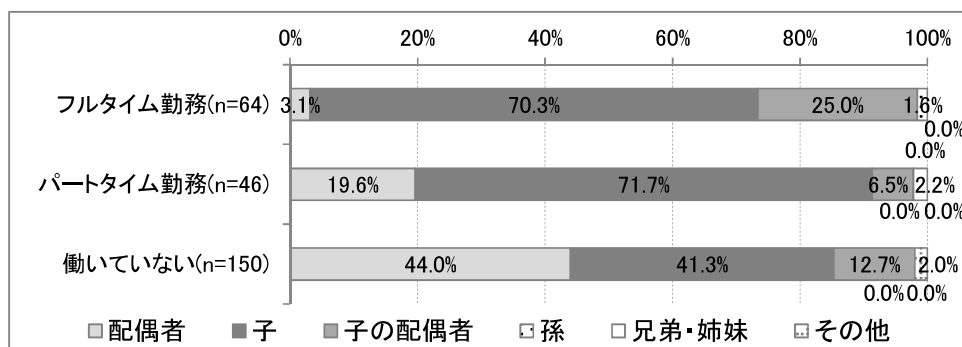
図表 2-1 就労状況別・世帯類型<***>



【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が70.3%ともっとも割合が高く、次いで「子の配偶者」が25.0%、「配偶者」が3.1%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が71.7%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が19.6%、「子の配偶者」が6.5%となっている。「働いていない」では「配偶者」が44.0%ともっとも割合が高く、次いで「子」が41.3%、「子の配偶者」が12.7%となっている。

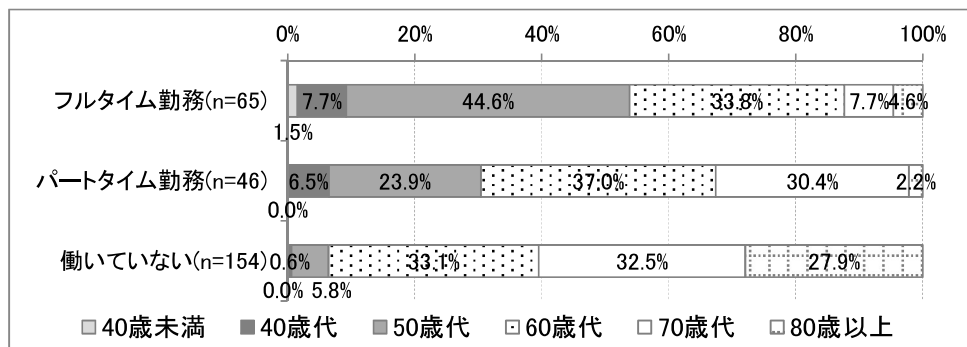
図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<***>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が44.6%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が33.8%、「40歳代」、「70歳代」が7.7%となっている。「パートタイム勤務」では「60歳代」が37.0%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が30.4%、「50歳代」が23.9%となっている。「働いていない」では「60歳代」が33.1%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が32.5%、「80歳以上」が27.9%となっている。

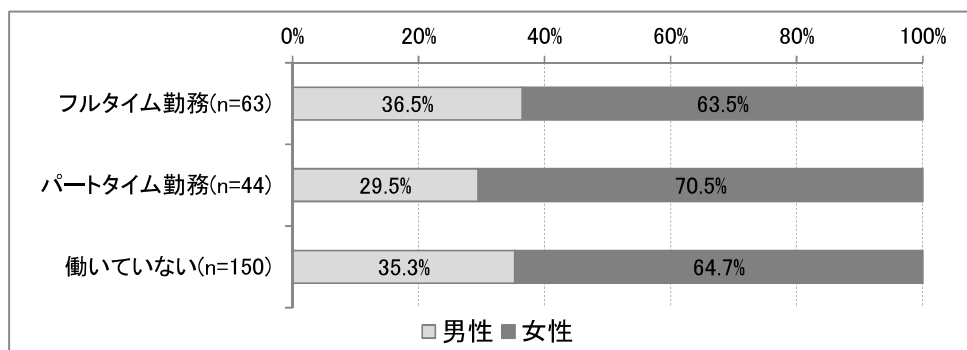
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢<***>



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が63.5%、「男性」が36.5%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が70.5%、「男性」が29.5%となっている。「働いていない」では「女性」が64.7%、「男性」が35.3%となっている。

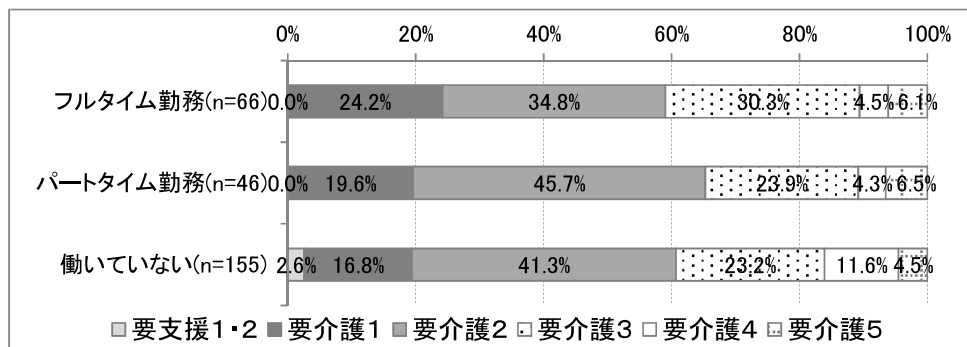
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護2」が34.8%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3」が30.3%、「要介護1」が24.2%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護2」が45.7%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3」が23.9%、「要介護1」が19.6%となっている。「働いていない」では「要介護2」が41.3%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3」が23.2%、「要介護1」が16.8%となっている。

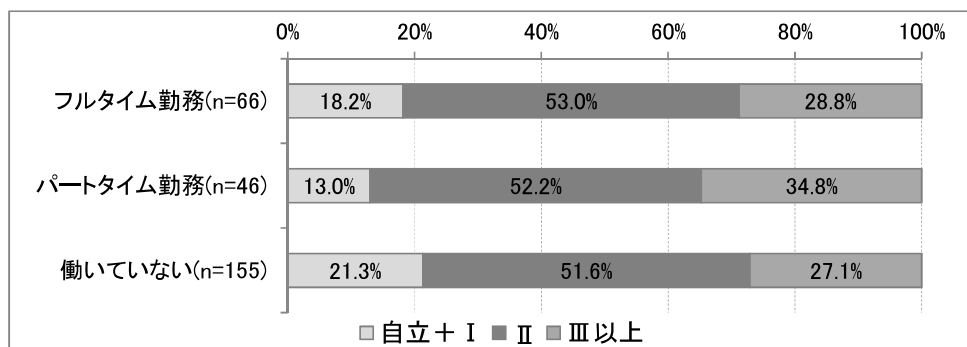
図表 2-5 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「Ⅱ」が53.0%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が28.8%、「自立+Ⅰ」が18.2%となっている。「パートタイム勤務」では「Ⅱ」が52.2%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が34.8%、「自立+Ⅰ」が13.0%となっている。「働いていない」では「Ⅱ」が51.6%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が27.1%、「自立+Ⅰ」が21.3%となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

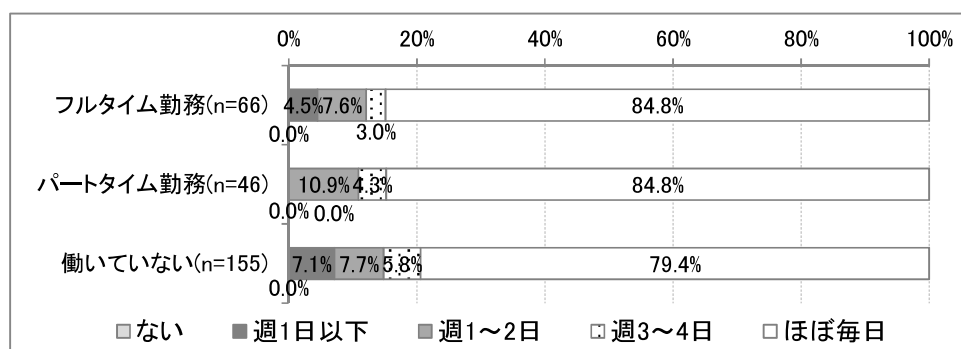
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が84.8%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が7.6%、「週1日以下」が4.5%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が84.8%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が10.9%、「週3～4日」が4.3%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が79.4%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が7.7%、「週1日以下」が7.1%となっている。

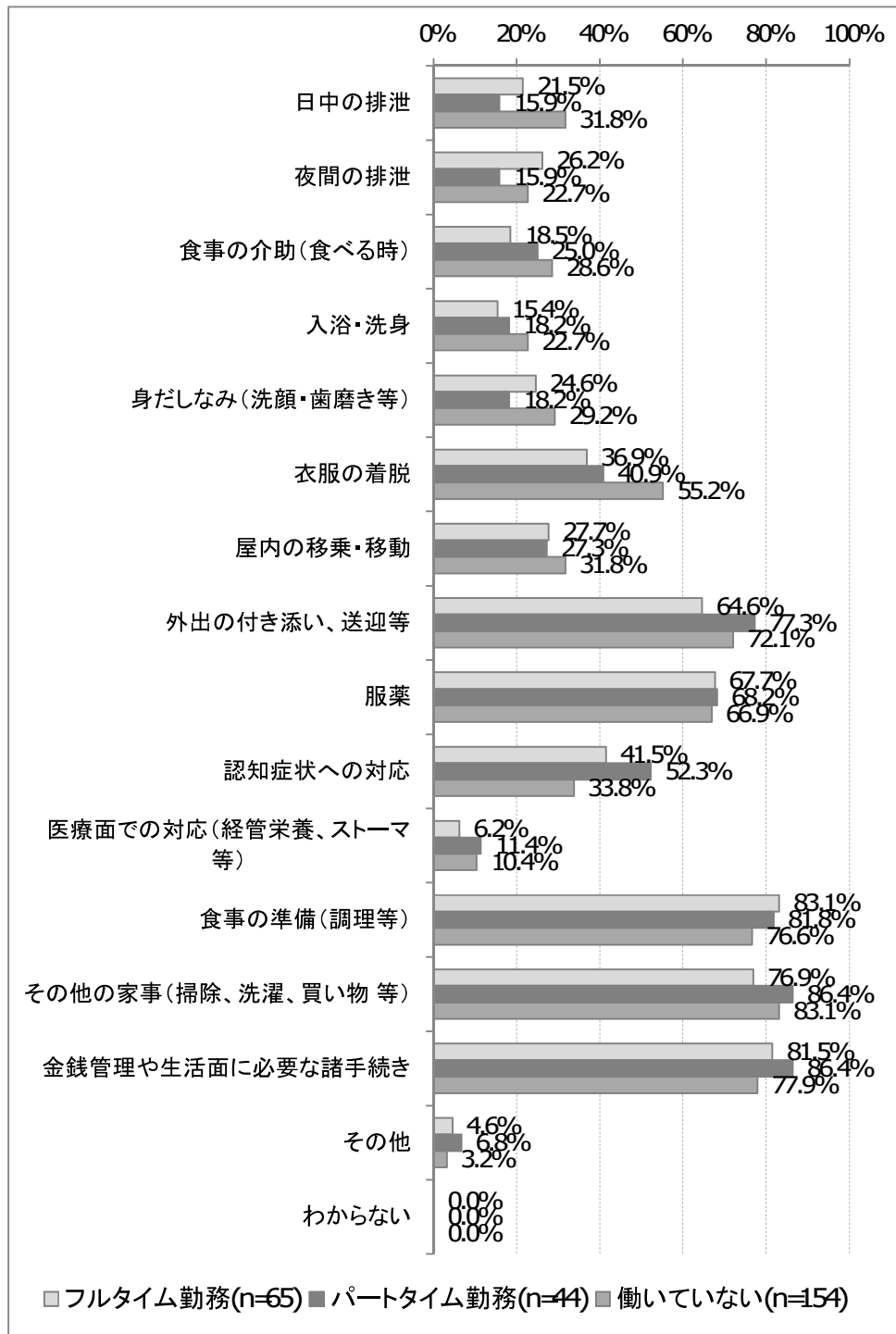
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「食事の準備（調理等）」が83.1%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が81.5%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が76.9%となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が86.4%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が81.8%、「外出の付き添い、送迎等」が77.3%となっている。「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が83.1%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が77.9%、「食事の準備（調理等）」が76.6%となっている。

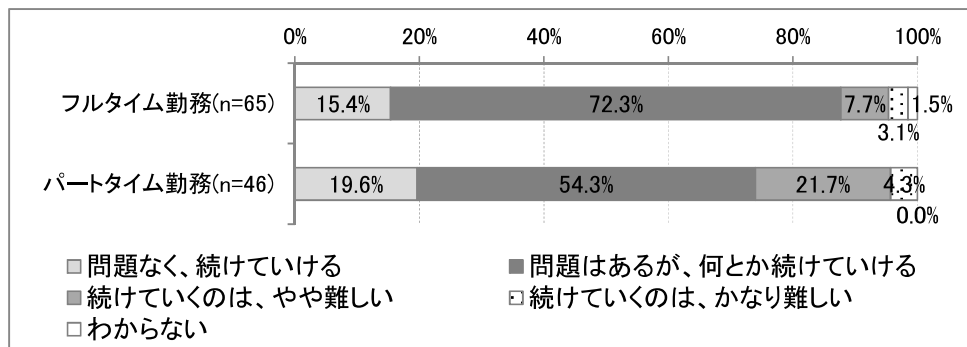
図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が72.3%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.4%、「続けていくのは、やや難しい」が7.7%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が54.3%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が21.7%、「問題なく、続けていける」が19.6%となっている。

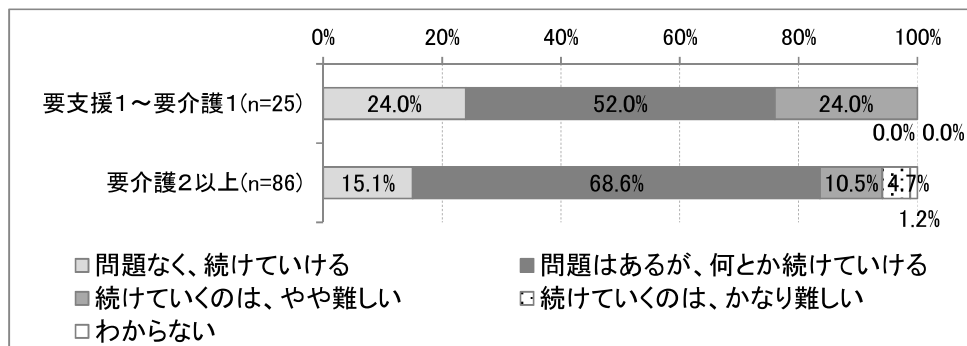
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が52.0%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が24.0%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が68.6%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.1%、「続けていくのは、やや難しい」が10.5%となっている。

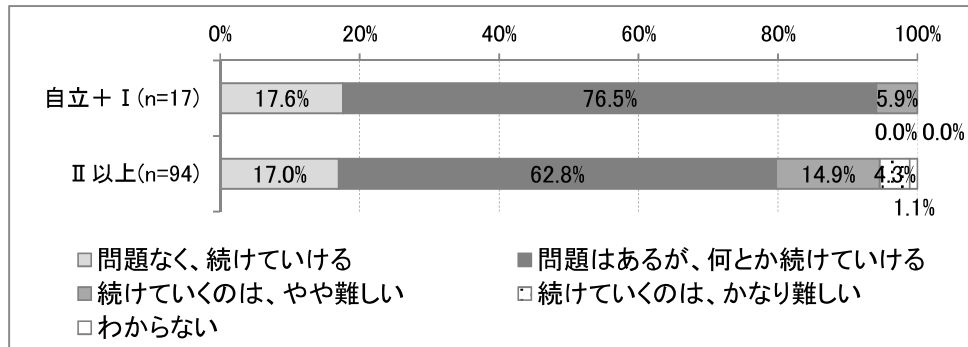
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「問題はあるが、何とか続けていける」が76.5%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.6%、「続けていくのは、やや難しい」が5.9%となっている。「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.0%、「続けていくのは、やや難しい」が14.9%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み (フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

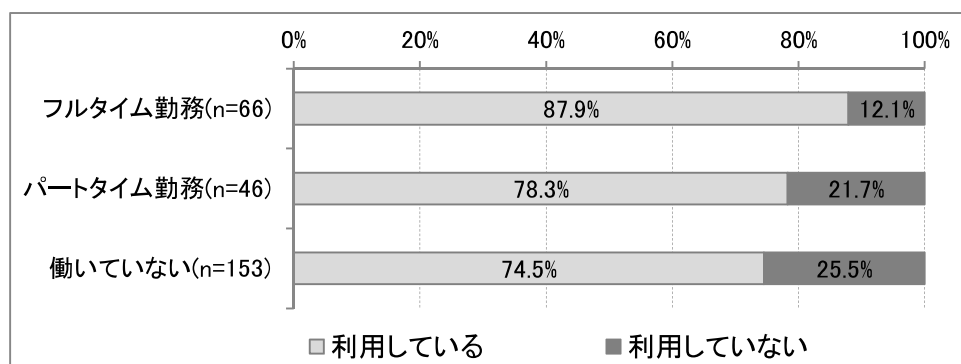
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります（図表 2-13、図表 2-14）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が 87.9%、「利用していない」が 12.1%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が 78.3%、「利用していない」が 21.7%となっている。「働いていない」では「利用している」が 74.5%、「利用していない」が 25.5%となっている。

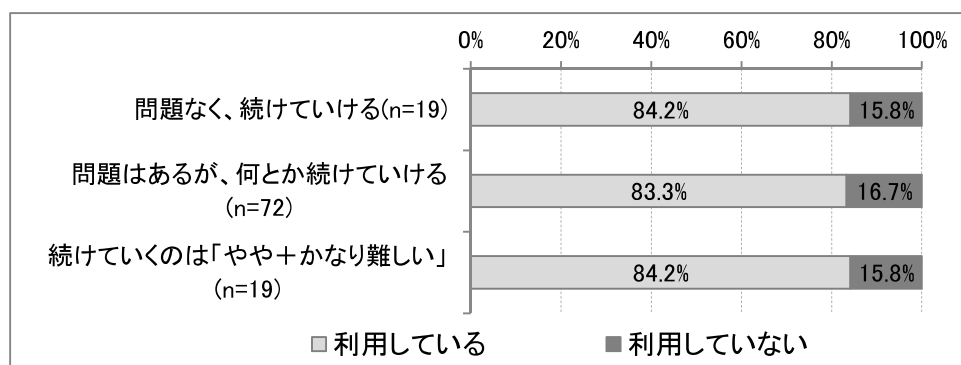
図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無<+>



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が84.2%、「利用していない」が15.8%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が83.3%、「利用していない」が16.7%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」では「利用している」が84.2%、「利用していない」が15.8%となっている。

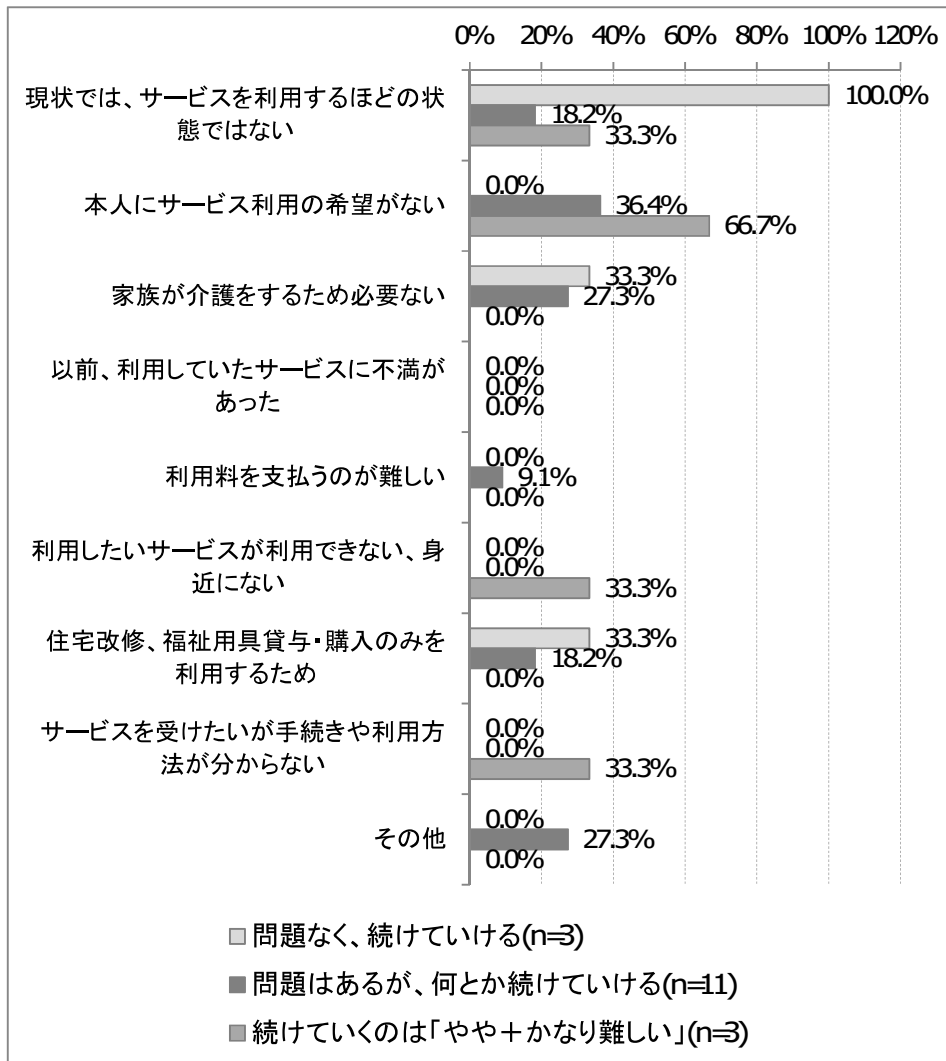
図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が33.3%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が36.4%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が27.3%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.2%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が33.3%となっている。

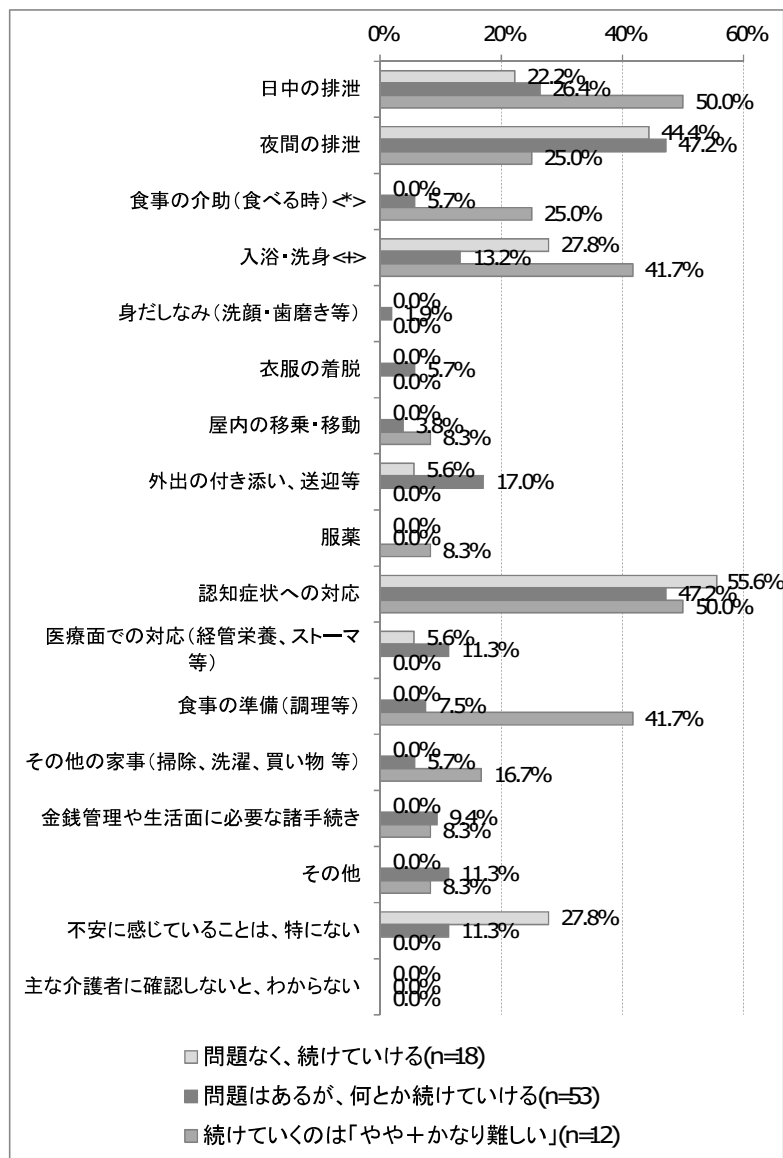
図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「認知症状への対応」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が44.4%、「入浴・洗身」、「不安に感じていることは、特にない」が27.8%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が47.2%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が26.4%、「外出の付き添い、送迎等」が17.0%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「日中の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「食事の準備(調理等)」が41.7%、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」が25.0%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

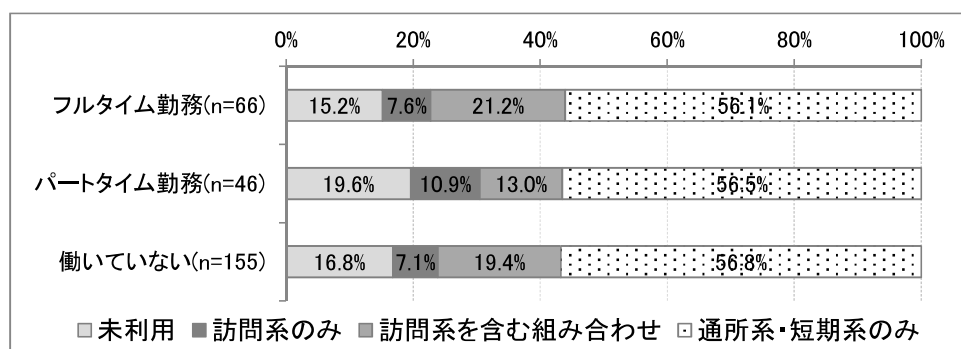
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が 56.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 21.2%、「未利用」が 15.2%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が 56.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 19.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が 13.0%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が 56.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 19.4%、「未利用」が 16.8%となっている。

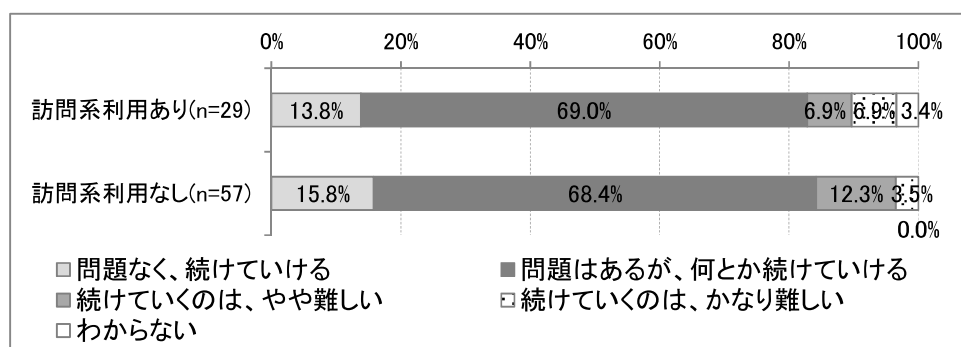
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が69.0%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が13.8%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が6.9%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が68.4%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.8%、「続けていくのは、やや難しい」が12.3%となっている。

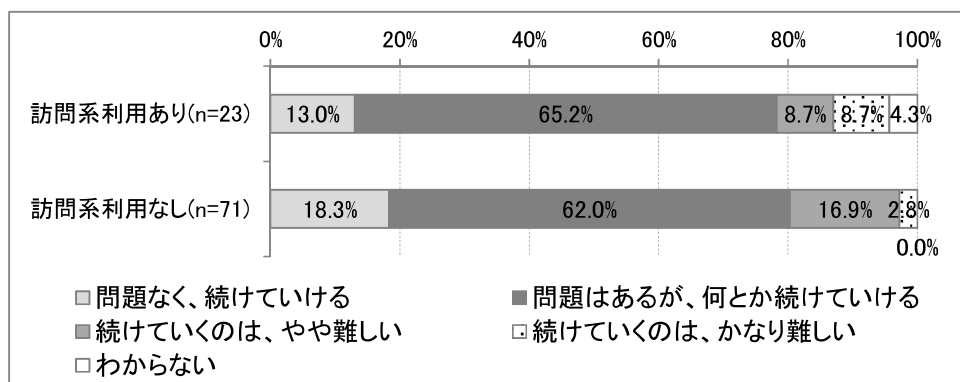
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
 (認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.2%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が13.0%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が8.7%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.0%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が18.3%、「続けていくのは、やや難しい」が16.9%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
 (認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

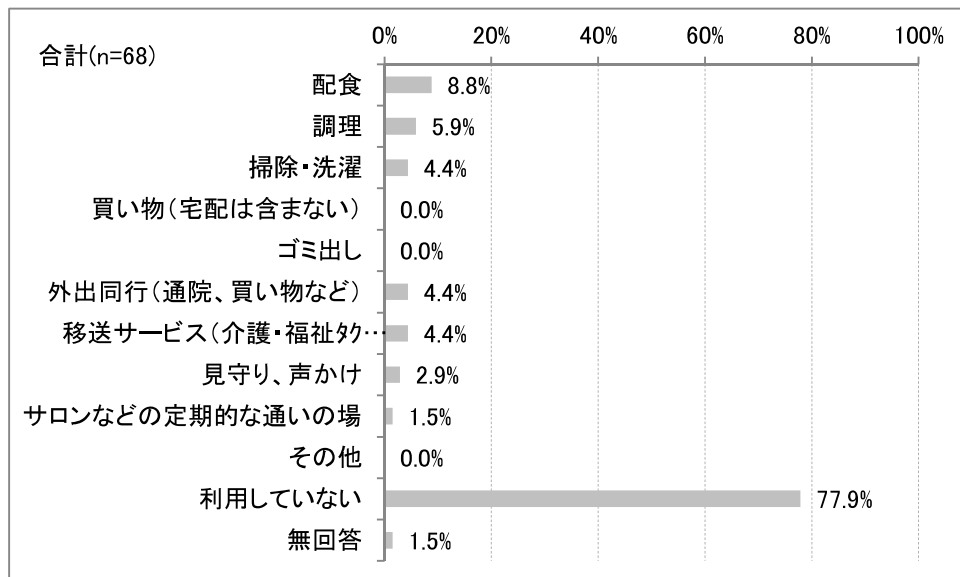
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く77.9%となっている。次いで、「配食(8.8%)」、「調理(5.9%)」となっている。

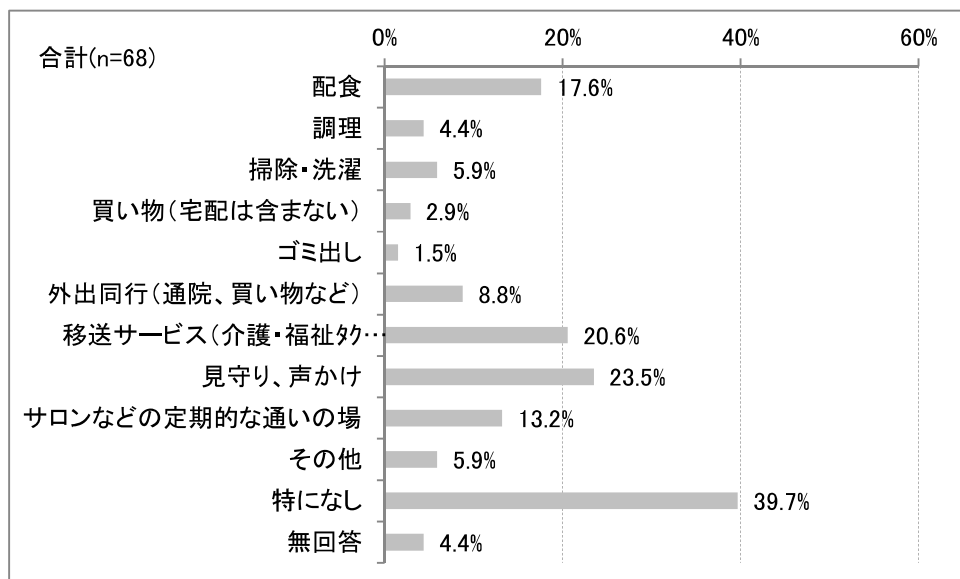
図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「特になし」の割合が最も高く39.7%となっている。次いで、「見守り、声かけ(23.5%)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(20.6%)」となっている。

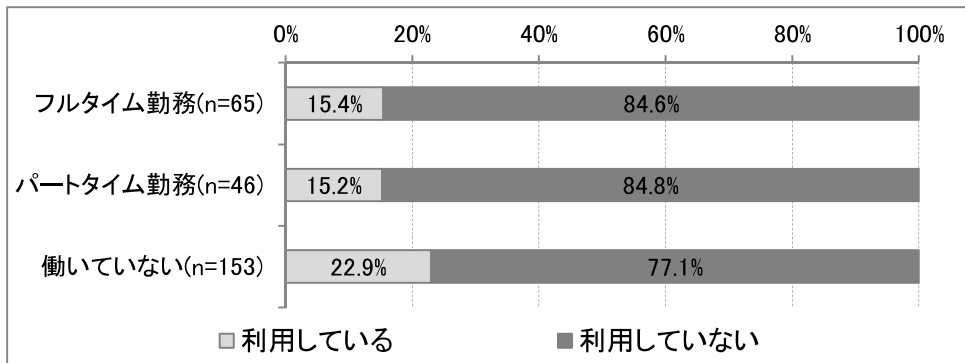
図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)



【就労状況別・★訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が84.6%、「利用している」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が84.8%、「利用している」が15.2%となっている。「働いていない」では「利用していない」が77.1%、「利用している」が22.9%となっている。

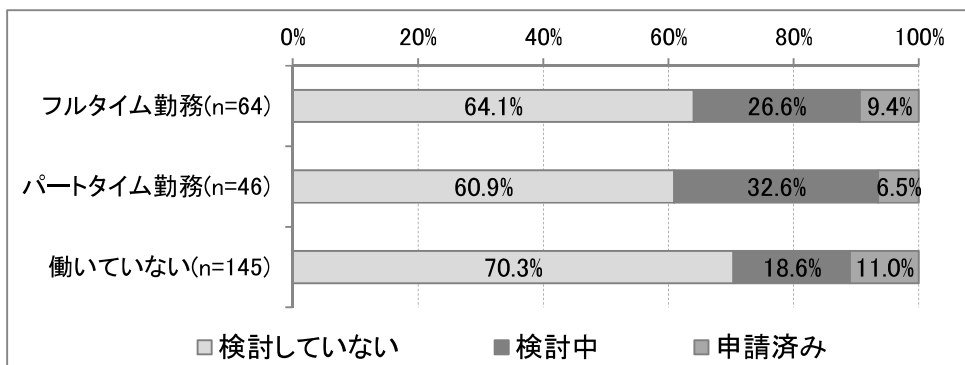
図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が64.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.6%、「申請済み」が9.4%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が60.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が32.6%、「申請済み」が6.5%となっている。「働いていない」では「検討していない」が70.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.6%、「申請済み」が11.0%となっている。

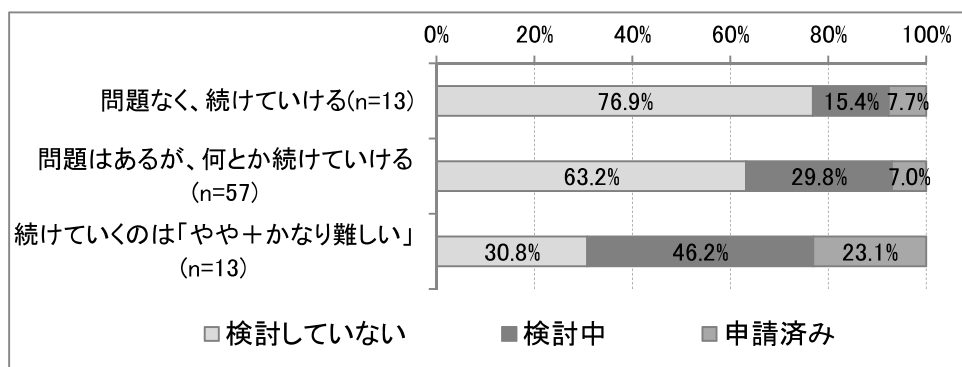
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が76.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.4%、「申請済み」が7.7%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が29.8%、「申請済み」が7.0%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討中」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が30.8%、「申請済み」が23.1%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

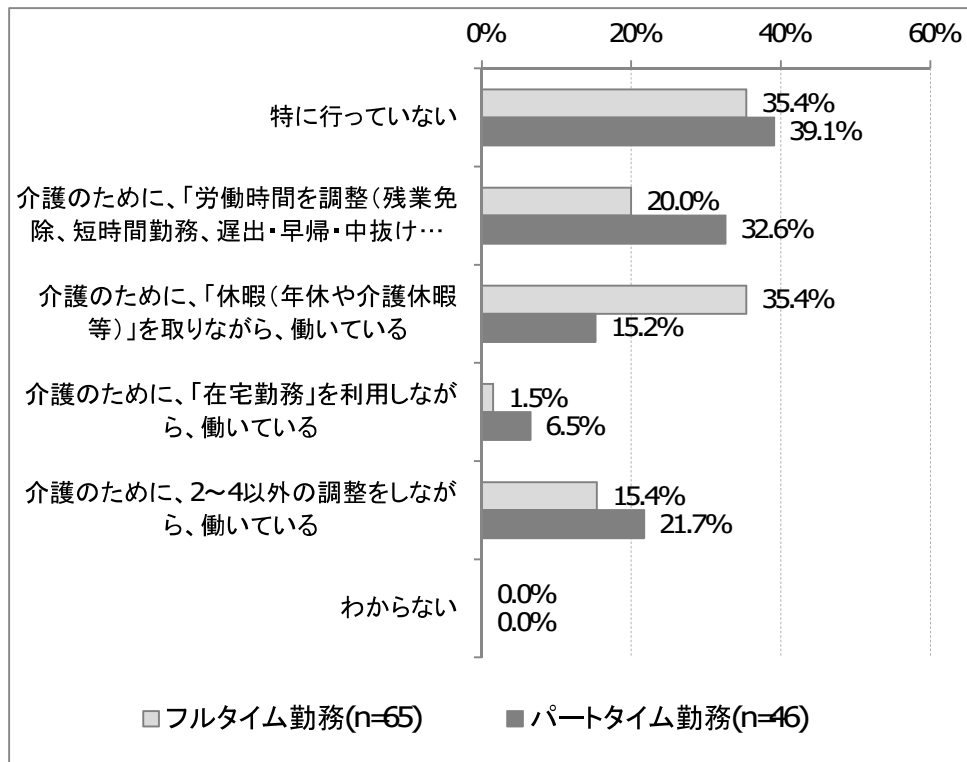
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が35.4%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が20.0%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が32.6%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が21.7%となっている。

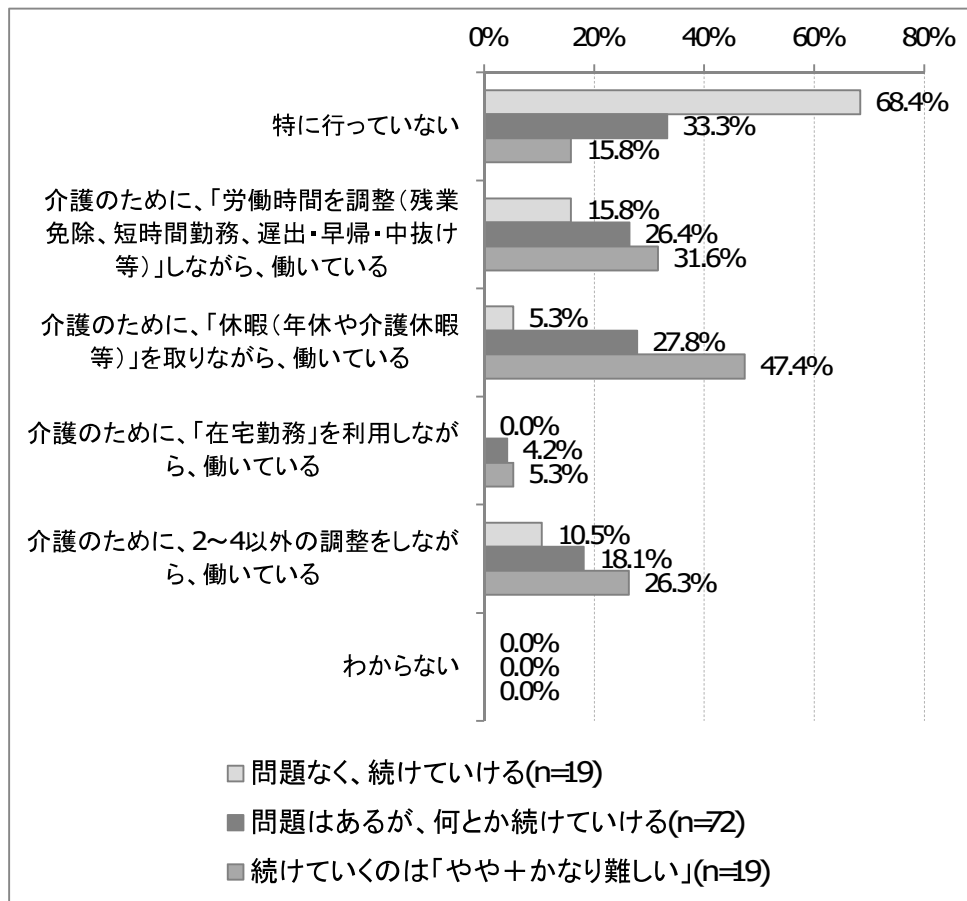
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が68.4%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が15.8%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が10.5%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が27.8%、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が26.4%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」では「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が47.4%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が31.6%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が26.3%となっている。

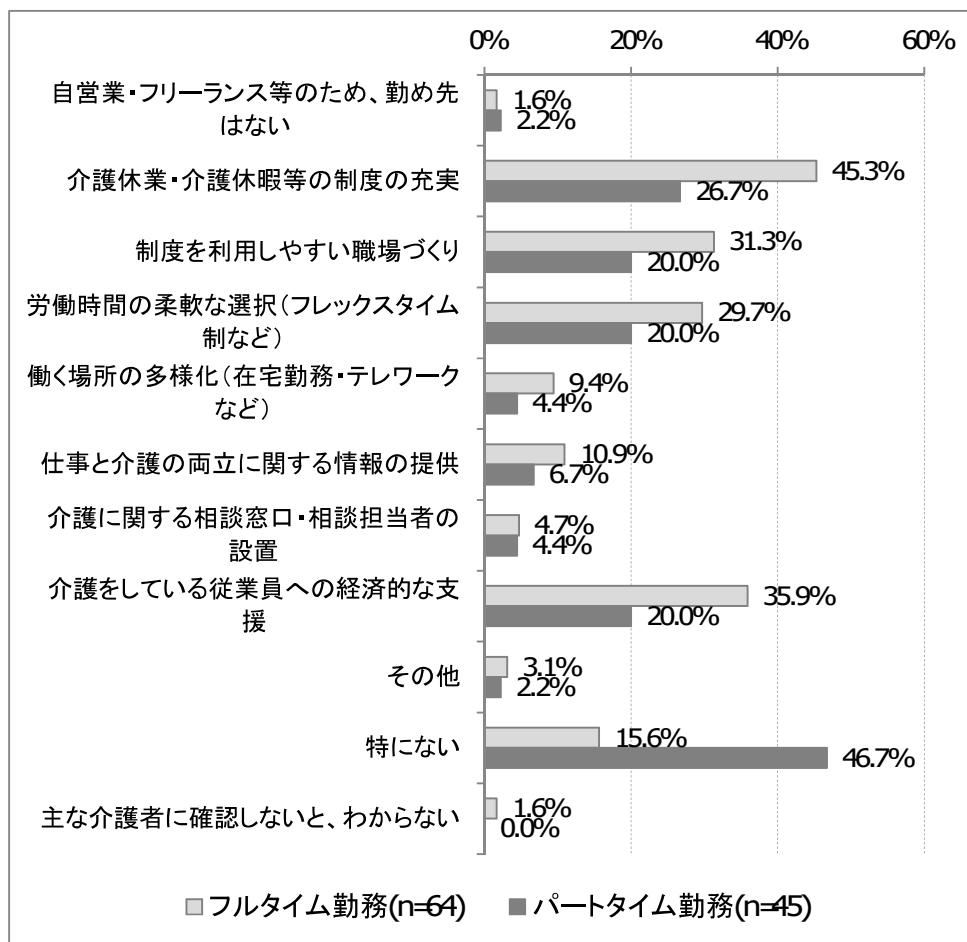
図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労状況別・★効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が35.9%、「制度を利用しやすい職場づくり」が31.3%となっている。「パートタイム勤務」では「特にない」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.7%、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「介護をしている従業員への経済的な支援」が20.0%となっている。

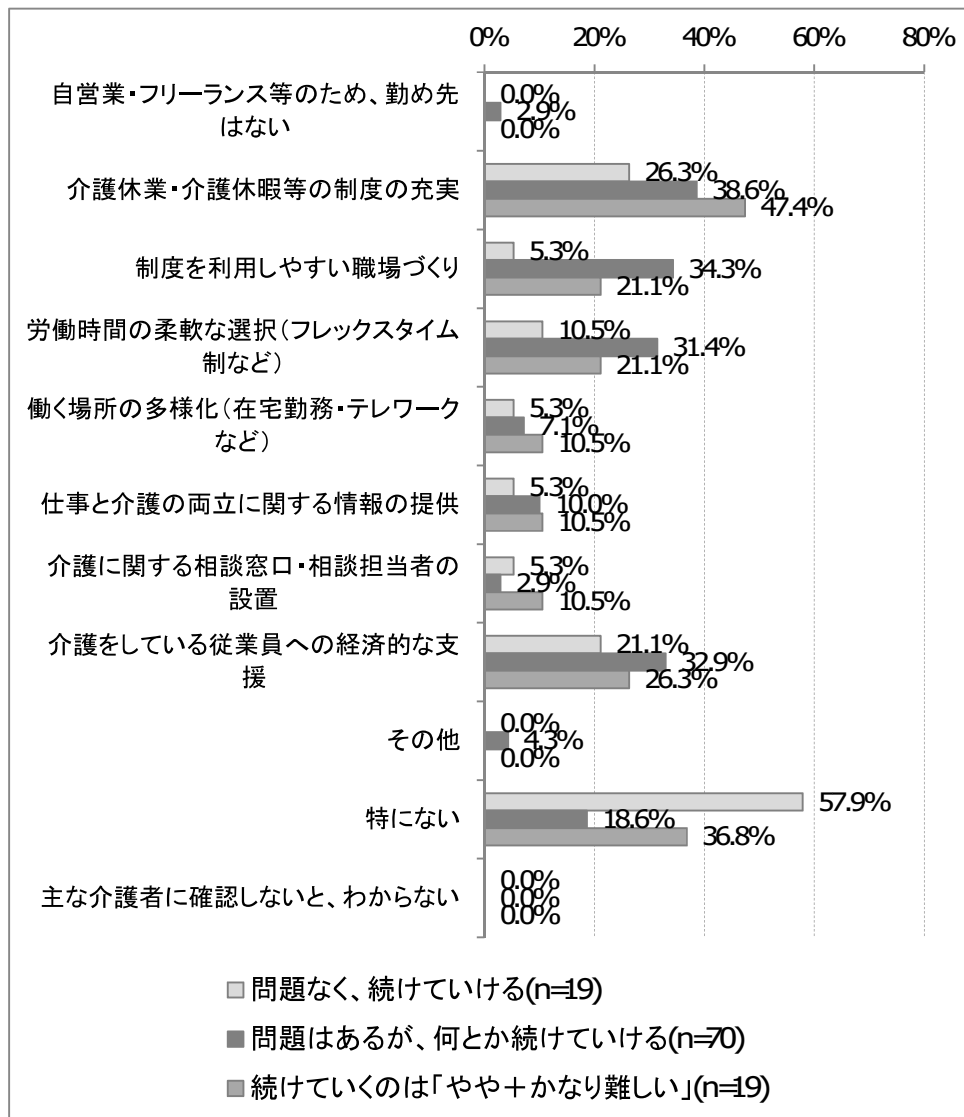
図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が38.6%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が34.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が32.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が47.4%ともっとも割合が高く、次いで「特にない」が36.8%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.3%となっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

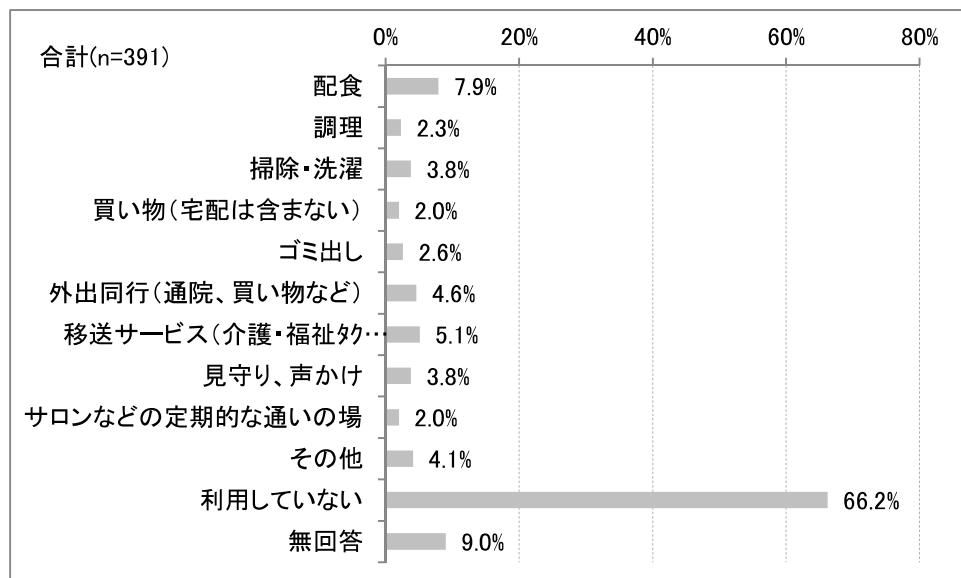
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 66.2%となっている。次いで、「配食（7.9%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（5.1%）」となっている。

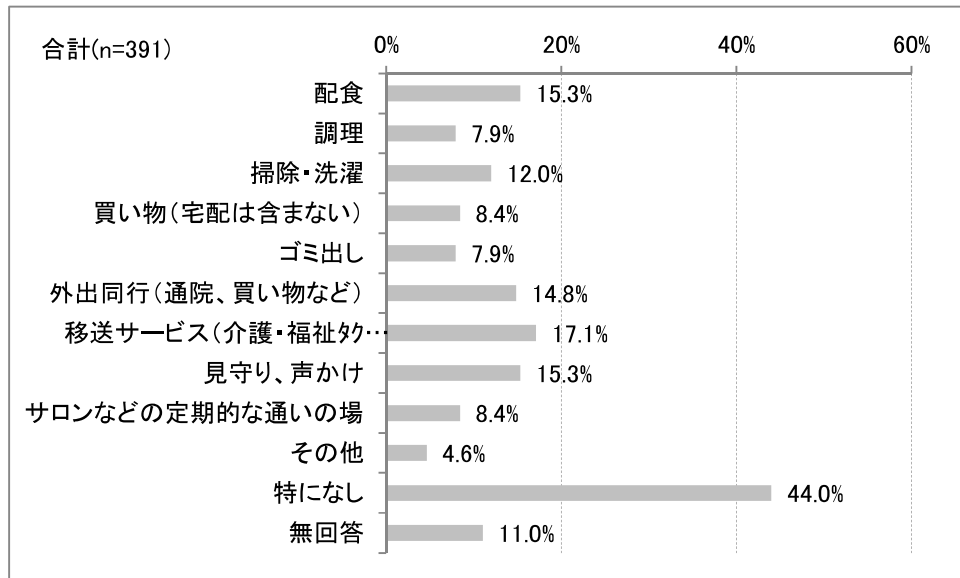
図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く44.0%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（17.1%）」、「配食（15.3%）」、「見守り、声かけ（15.3%）」となっている。

図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

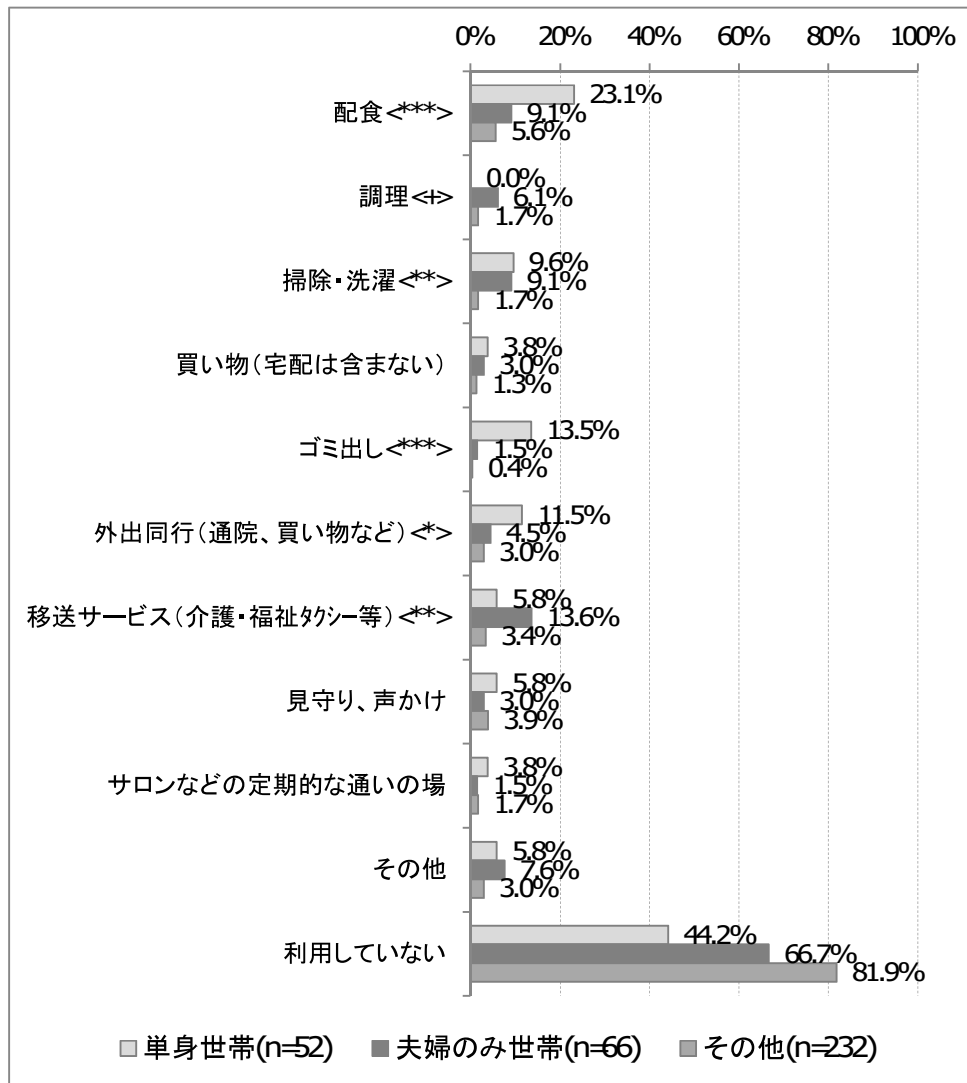
【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が44.2%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が23.1%、「ゴミ出し」が13.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が13.6%、「配食」、「掃除・洗濯」が9.1%となっている。「その他」では「利用していない」が81.9%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が5.6%、「見守り、声かけ」が3.9%となっている。

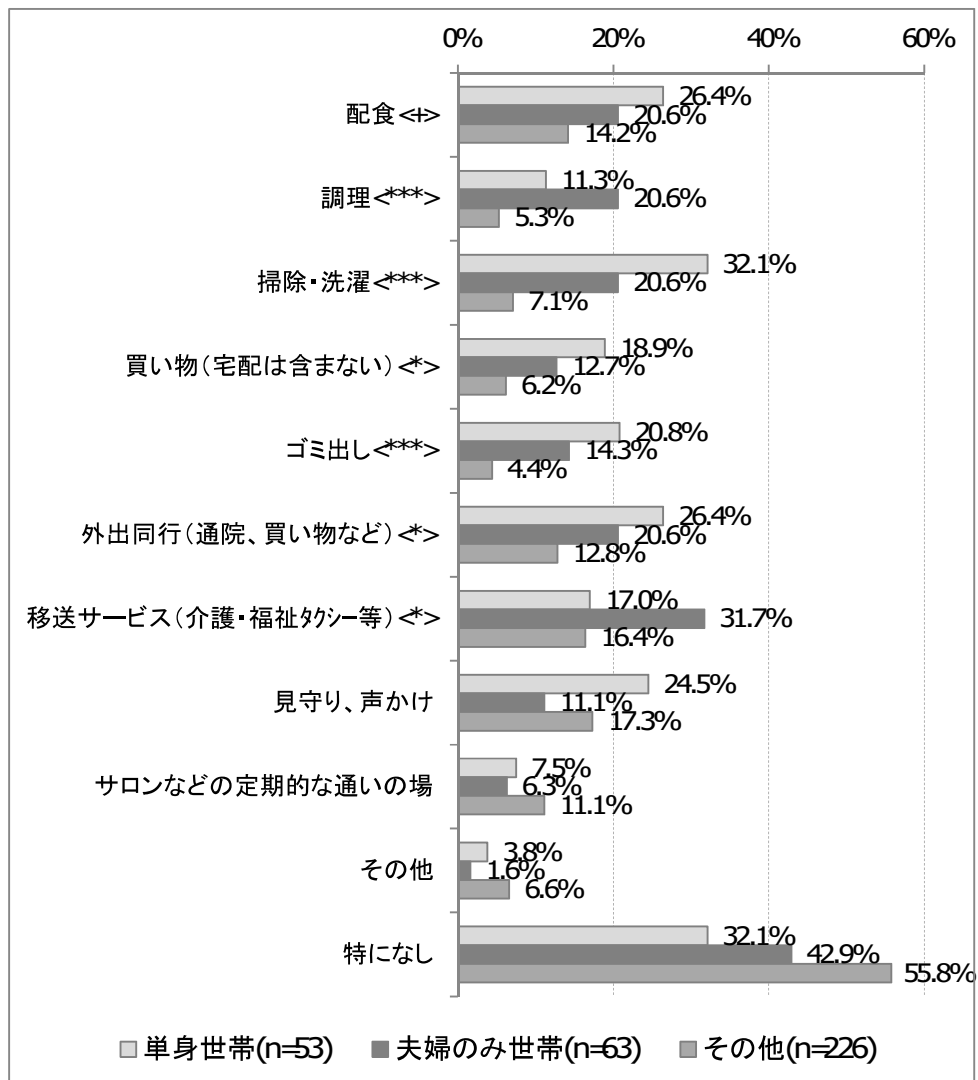
図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを世帯類型別にみると、「単身世帯」では「掃除・洗濯」、「特になし」が32.1%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が26.4%、「見守り、声かけ」が24.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.7%、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が20.6%となっている。「その他」では「特になし」が55.8%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が17.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.4%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

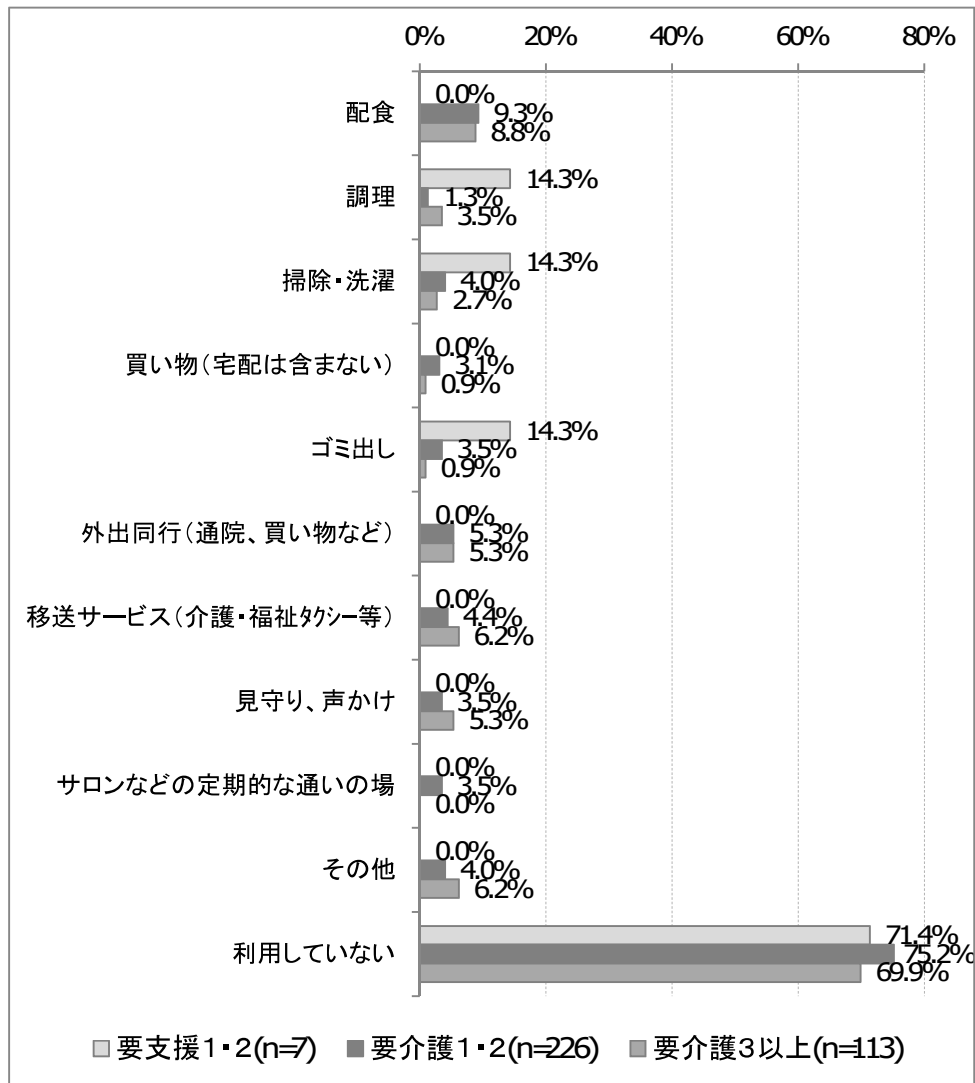
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「調理」、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」が14.3%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が75.2%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が9.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が5.3%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が69.9%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が8.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が6.2%となっている。

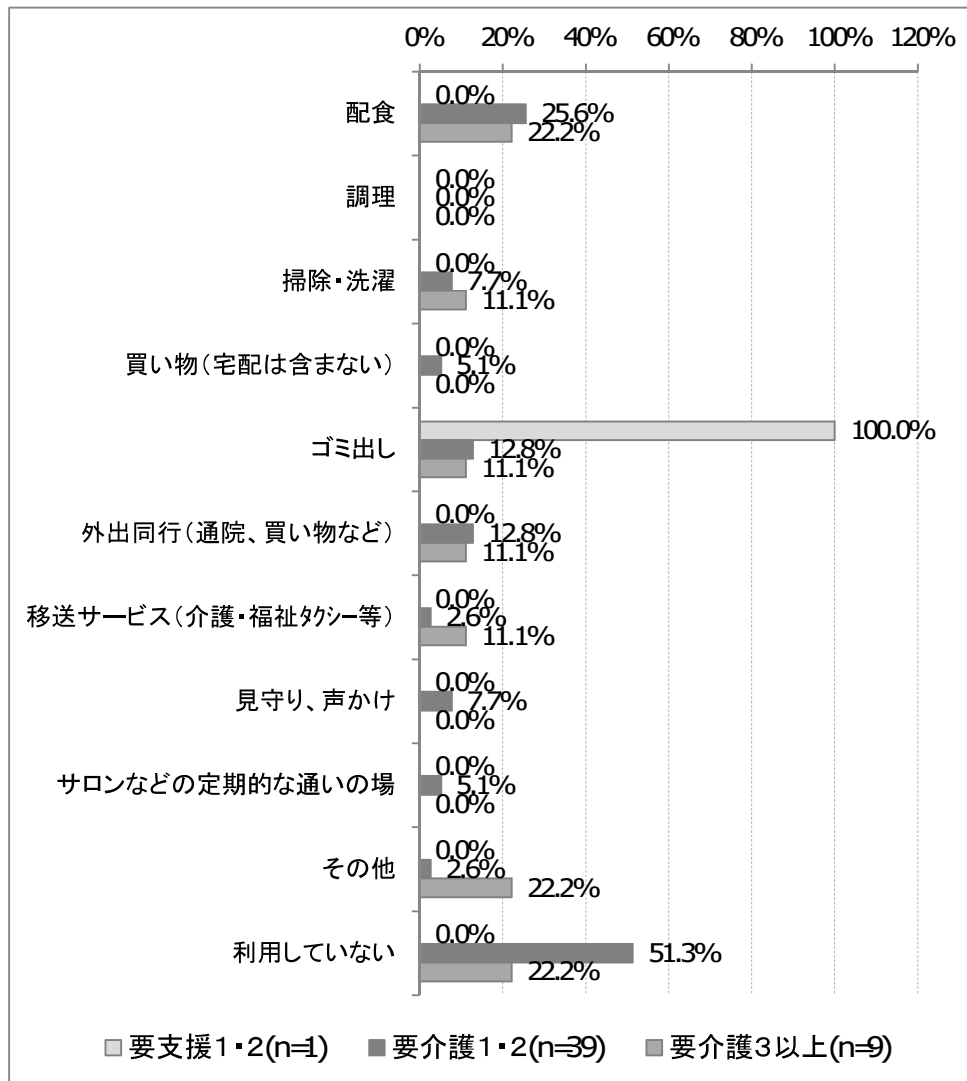
図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が51.3%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が25.6%、「ゴミ出し」、「外出同行(通院、買い物など)」が12.8%となっている。「要介護3以上」では「配食」、「その他」、「利用していない」が22.2%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が11.1%となっている。

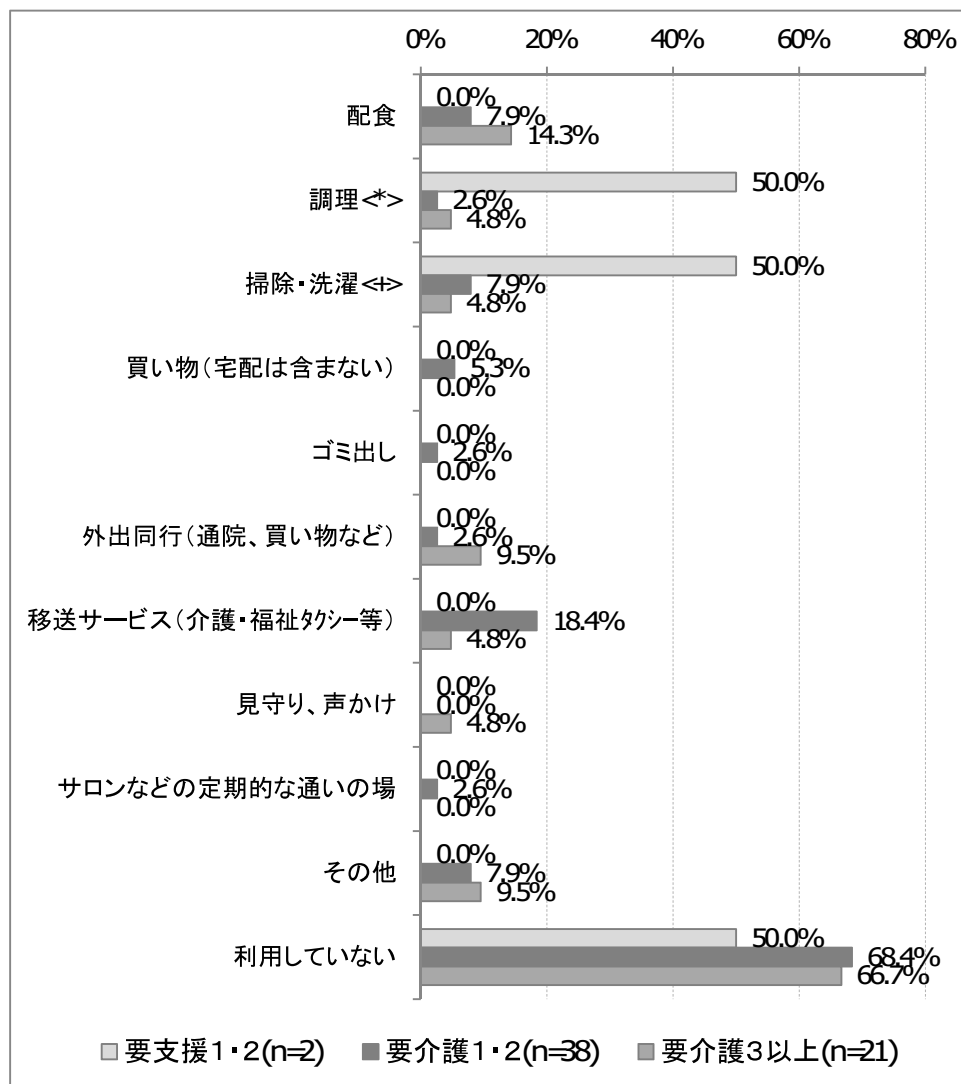
図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「調理」、「掃除・洗濯」、「利用していない」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が68.4%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.4%、「配食」、「掃除・洗濯」、「その他」が7.9%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が14.3%、「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」が9.5%となっている。

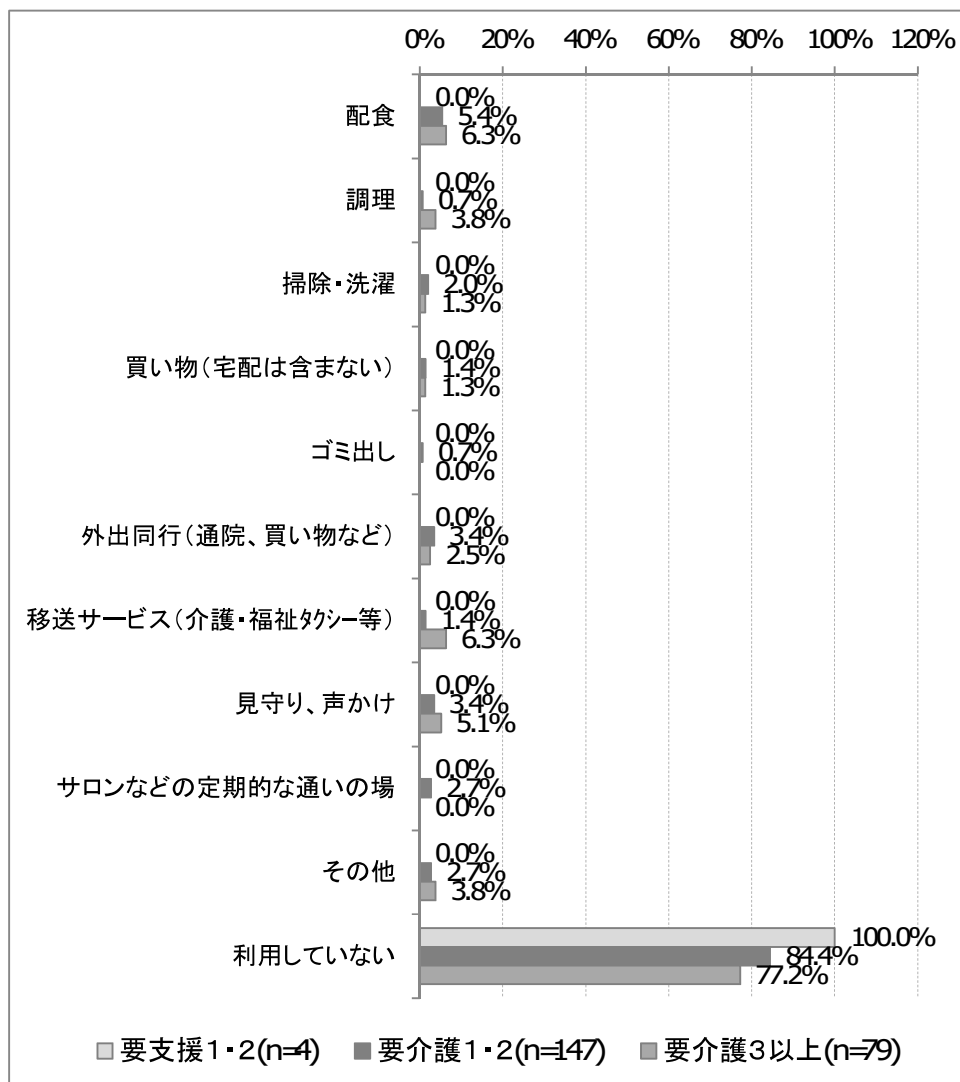
図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が100.0%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が84.4%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が5.4%、「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」が3.4%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が77.2%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が6.3%、「見守り、声かけ」が5.1%となっている。

図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

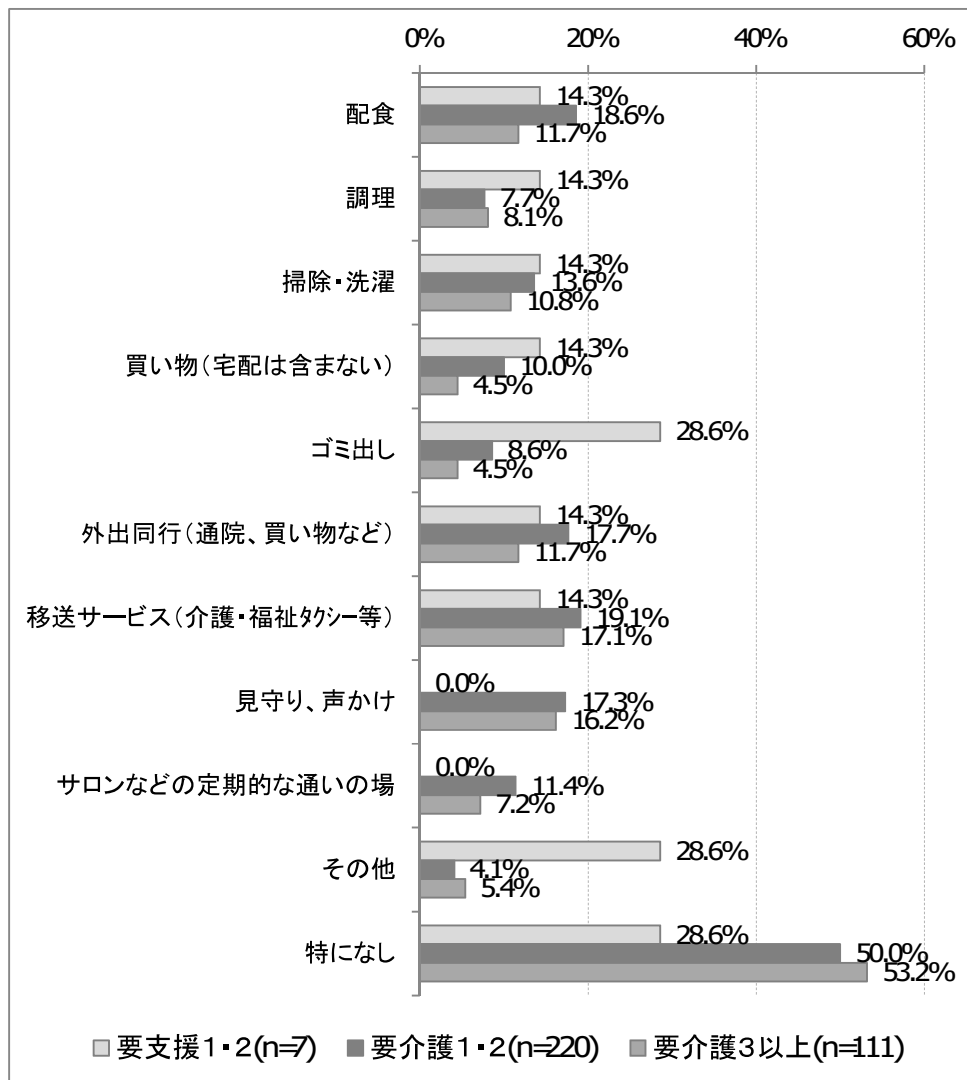
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ゴミ出し」、「その他」、「特になし」が28.6%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.3%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.1%、「配食」が18.6%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が17.1%、「見守り、声かけ」が16.2%となっている。

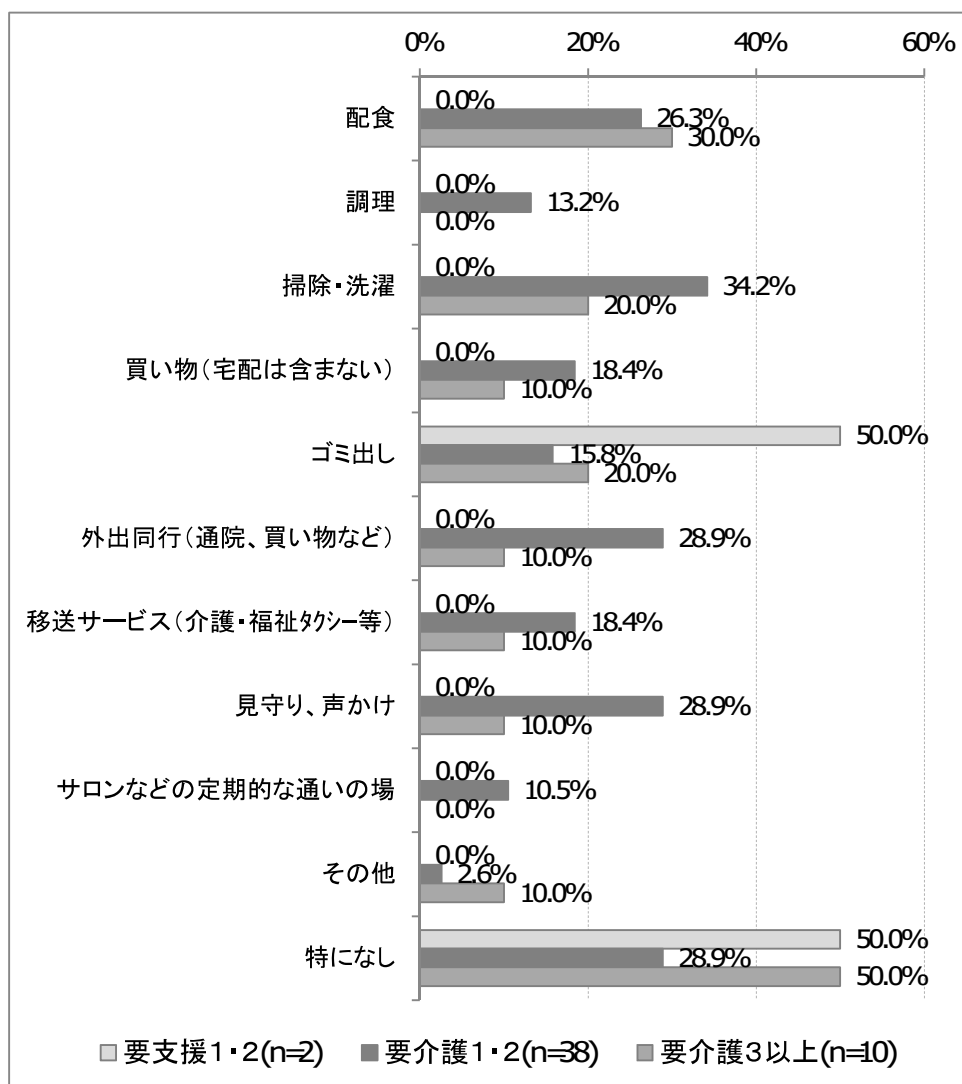
図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ゴミ出し」、「特になし」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「掃除・洗濯」が34.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」、「特になし」が28.9%、「配食」が26.3%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が30.0%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」が20.0%となっている。

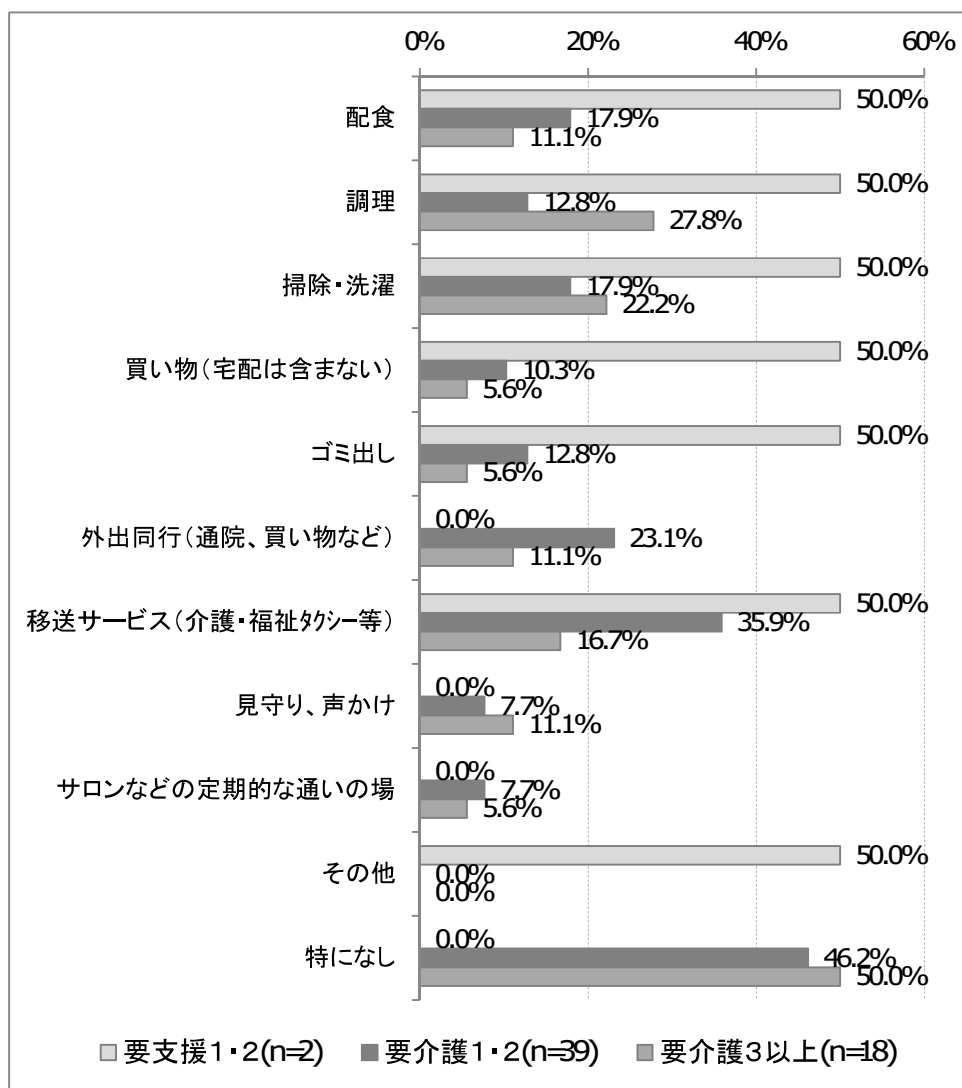
図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」、「ゴミ出し」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「その他」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が35.9%、「外出同行(通院、買い物など)」が23.1%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「調理」が27.8%、「掃除・洗濯」が22.2%となっている。

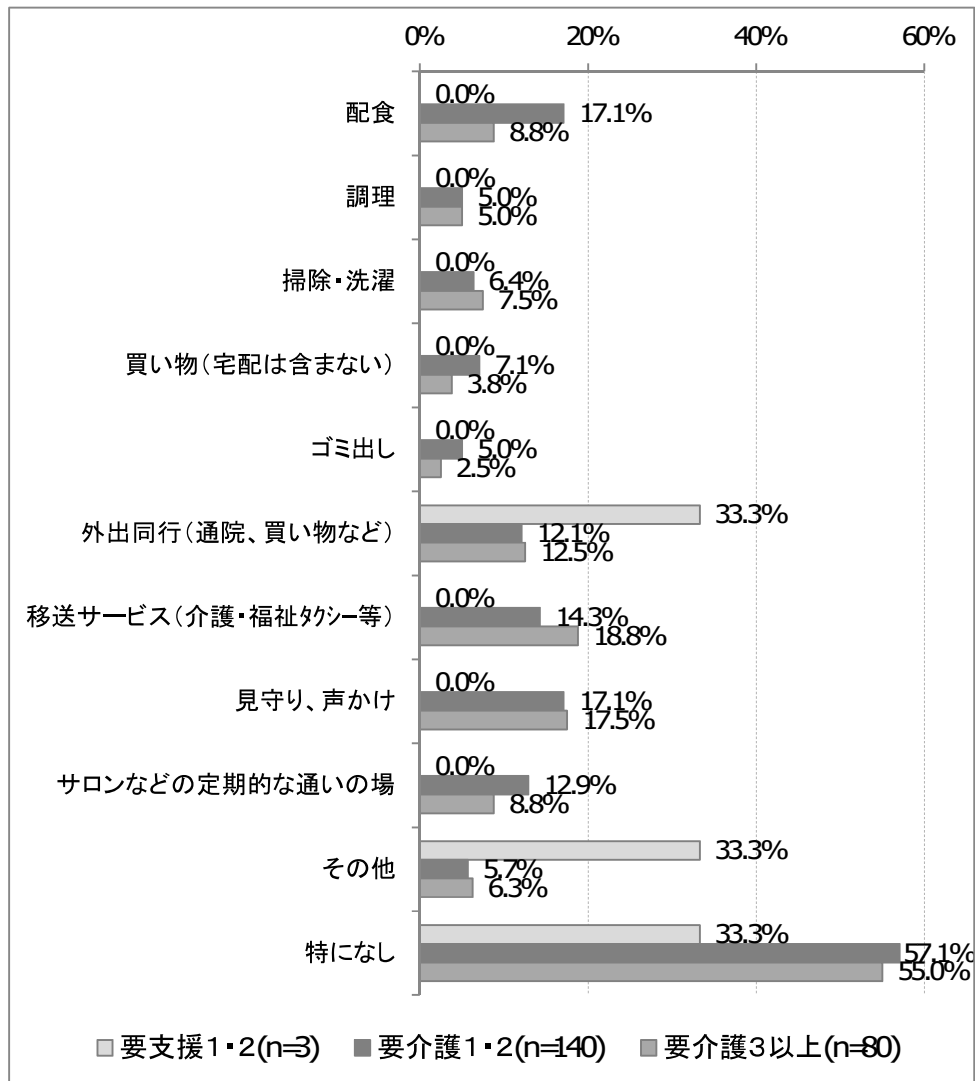
図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」、「特になし」が33.3%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「見守り、声かけ」が17.1%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が14.3%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が55.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.8%、「見守り、声かけ」が17.5%となっている。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

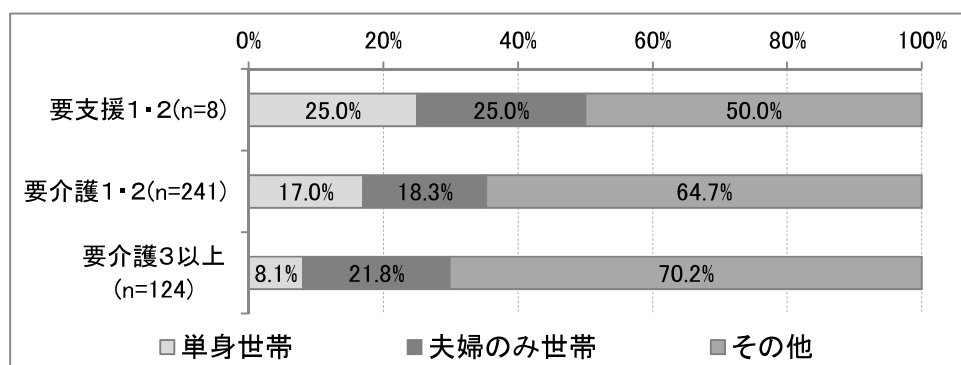
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています(図表 4-1、図表 4-2)。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「その他」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」が25.0%となっている。「要介護1・2」では「その他」が64.7%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が18.3%、「単身世帯」が17.0%となっている。「要介護3以上」では「その他」が70.2%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が21.8%、「単身世帯」が8.1%となっている。

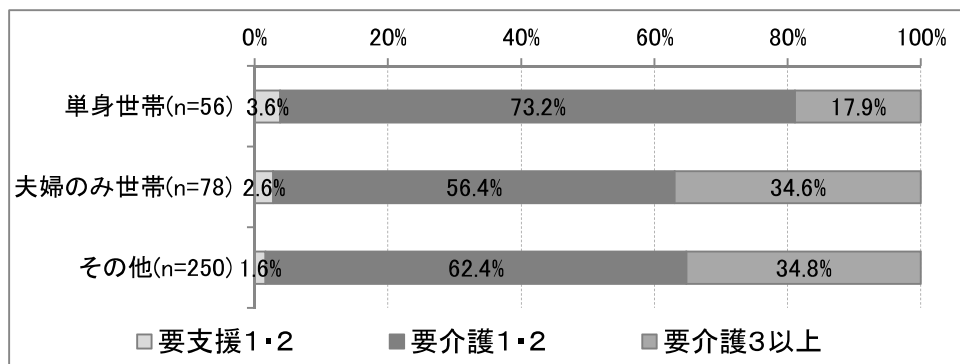
図表 4-1 要介護度別・世帯類型



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護1・2」が73.2%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が17.9%、「要支援1・2」が3.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が56.4%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が34.6%、「要支援1・2」が2.6%となっている。「その他」では「要介護1・2」が62.4%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が34.8%、「要支援1・2」が1.6%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

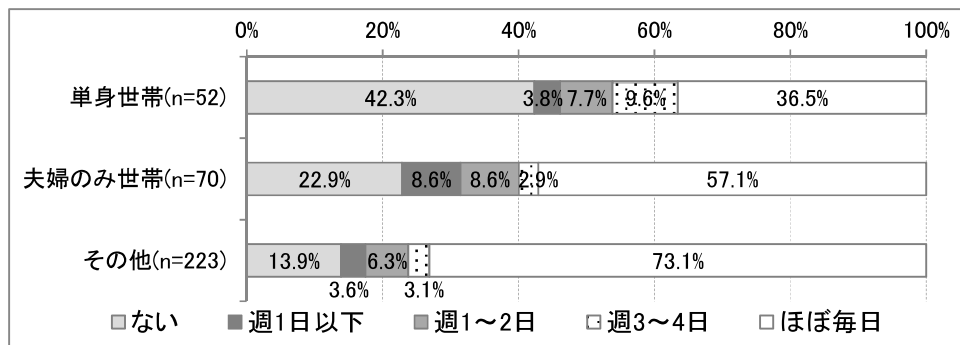
【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が42.3%ともっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が36.5%、「週3～4日」が9.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が22.9%、「週1日以下」が8.6%、「週1～2日」が8.6%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が73.1%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が13.9%、「週1～2日」が6.3%となっている。

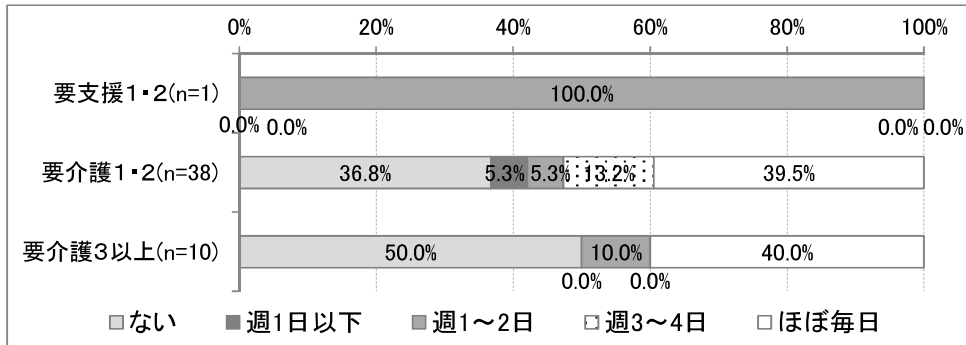
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が39.5%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が36.8%、「週3～4日」が13.2%となっている。「要介護3以上」では「ない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が40.0%、「週1～2日」が10.0%となっている。

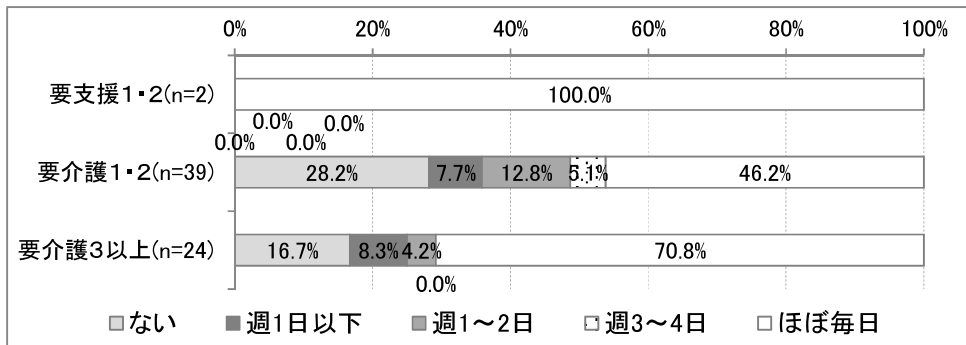
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯) <+>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が100.0%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が28.2%、「週1～2日」が12.8%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が70.8%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が16.7%、「週1日以下」が8.3%となっている。

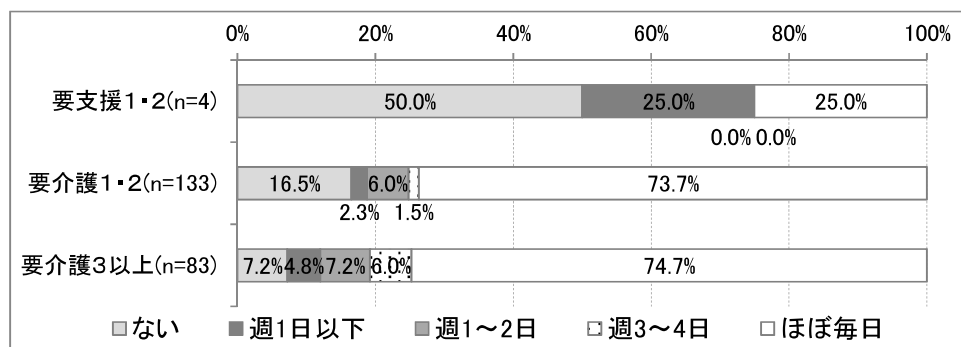
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「週1日以下」、「ほぼ毎日」が25.0%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が73.7%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が16.5%、「週1～2日」が6.0%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が74.7%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」が7.2%、「週3～4日」が6.0%となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯) <*>



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

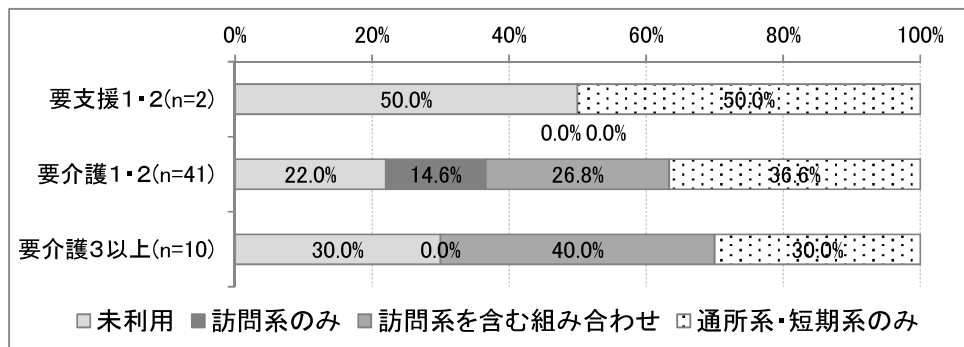
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が36.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.8%、「未利用」が22.0%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が30.0%となっている。

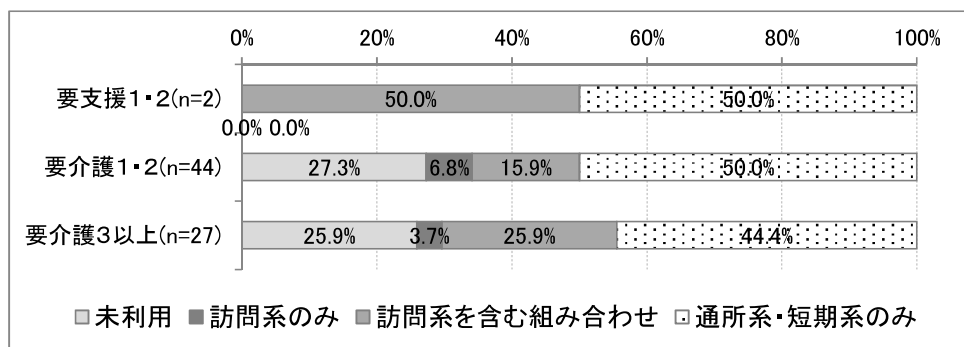
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が27.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.9%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が25.9%、「訪問系のみ」が3.7%となっている。

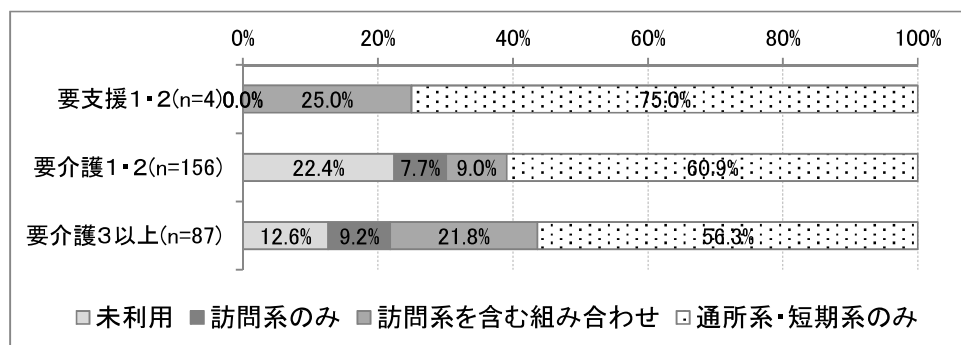
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (夫婦のみ世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が60.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が9.0%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が56.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が21.8%、「未利用」が12.6%となっている。

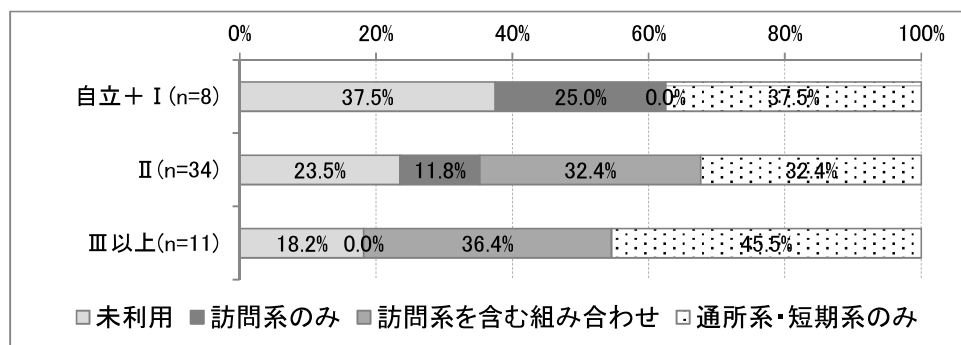
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (その他世帯) <+>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.0%となっている。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が32.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.5%、「訪問系のみ」が11.8%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が36.4%、「未利用」が18.2%となっている。

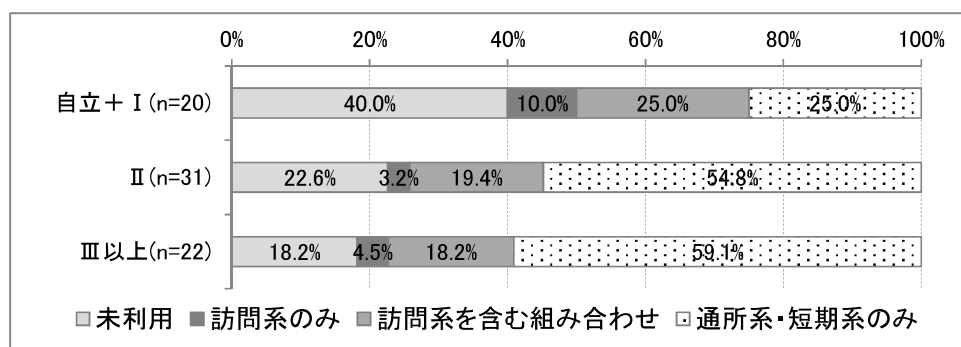
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が25.0%、「訪問系のみ」が10.0%となっている。「II」では「通所系・短期系のみ」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.4%となっている。「III以上」では「通所系・短期系のみ」が59.1%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が18.2%、「訪問系のみ」が4.5%となっている。

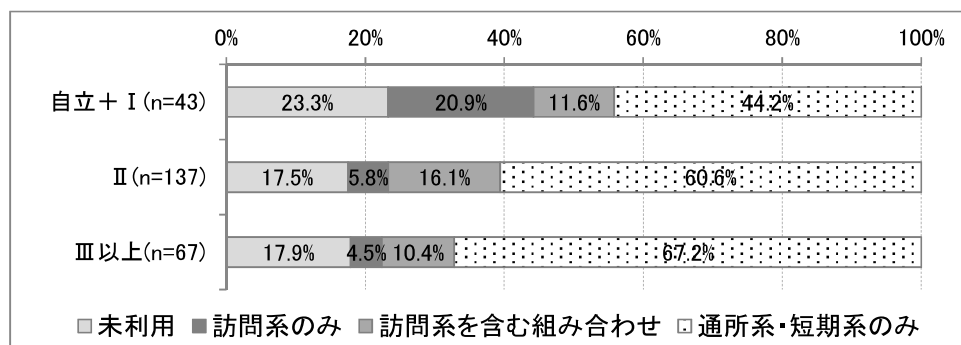
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が44.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.3%、「訪問系のみ」が20.9%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が60.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が17.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.1%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が67.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が17.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が10.4%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <*>



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

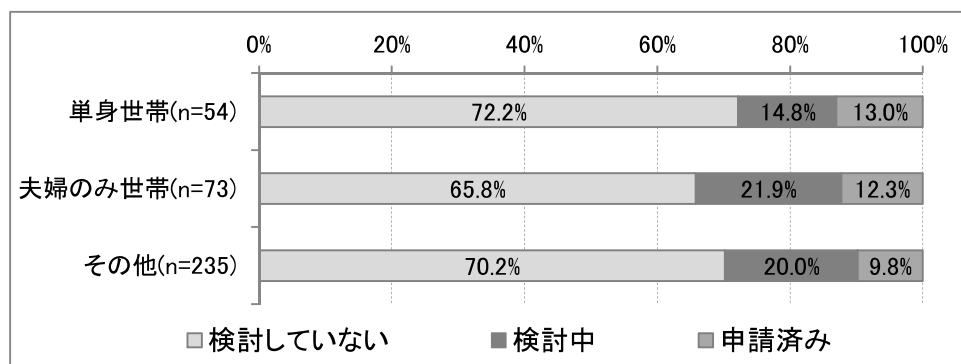
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が72.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.8%、「申請済み」が13.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が65.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.9%、「申請済み」が12.3%となっている。「その他」では「検討していない」が70.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が9.8%となっている。

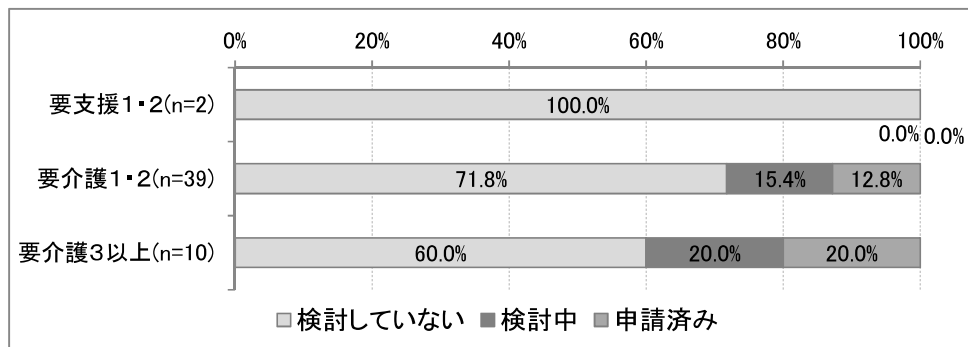
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が100.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が71.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.4%、「申請済み」が12.8%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が20.0%となっている。

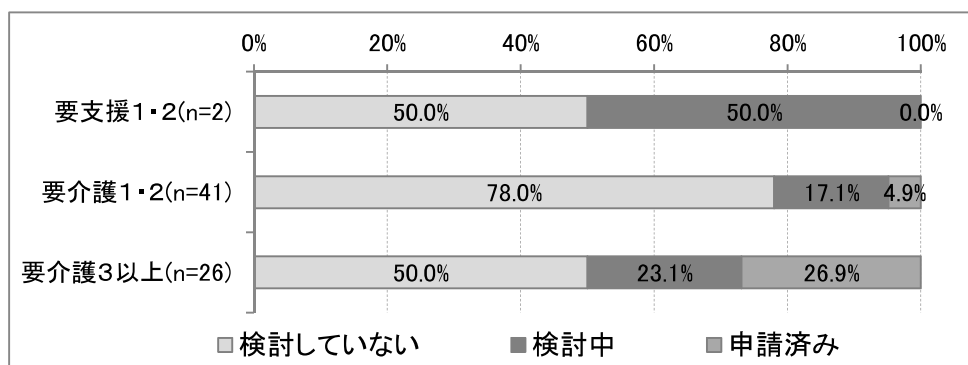
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況 (単身世帯)



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」、「検討中」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が78.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.1%、「申請済み」が4.9%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が26.9%、「検討中」が23.1%となっている。

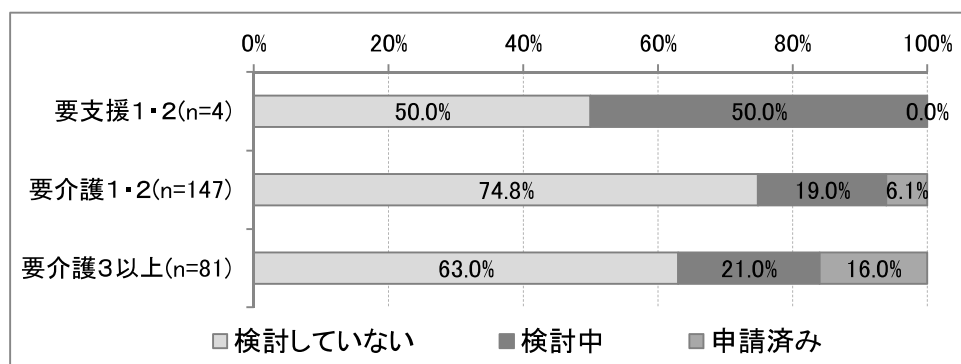
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況 (夫婦のみ世帯) <*>



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」、「検討中」が50.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が74.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.0%、「申請済み」が6.1%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が63.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.0%、「申請済み」が16.0%となっている。

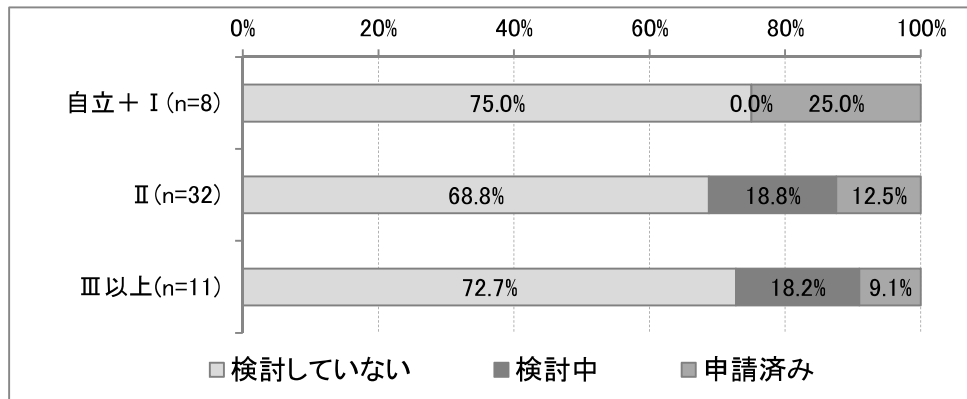
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況 (その他世帯) <+>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%となっている。「II」では「検討していない」が68.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が12.5%となっている。「III以上」では「検討していない」が72.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.2%、「申請済み」が9.1%となっている。

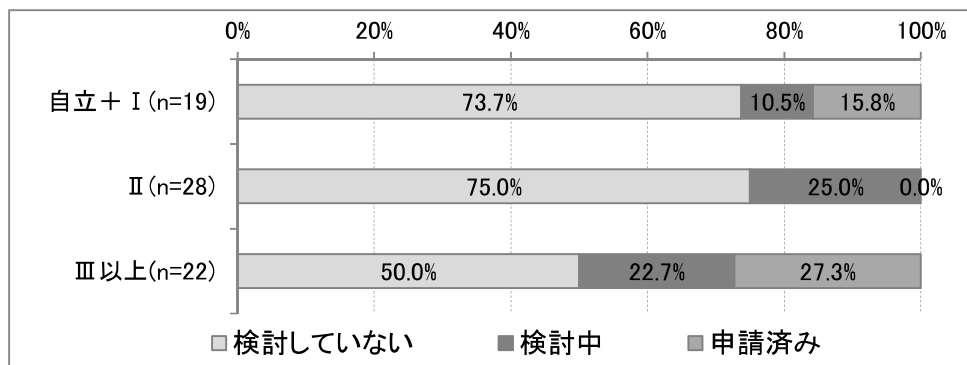
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況 (単身世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が73.7%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が15.8%、「検討中」が10.5%となっている。「II」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっている。「III以上」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.3%、「検討中」が22.7%となっている。

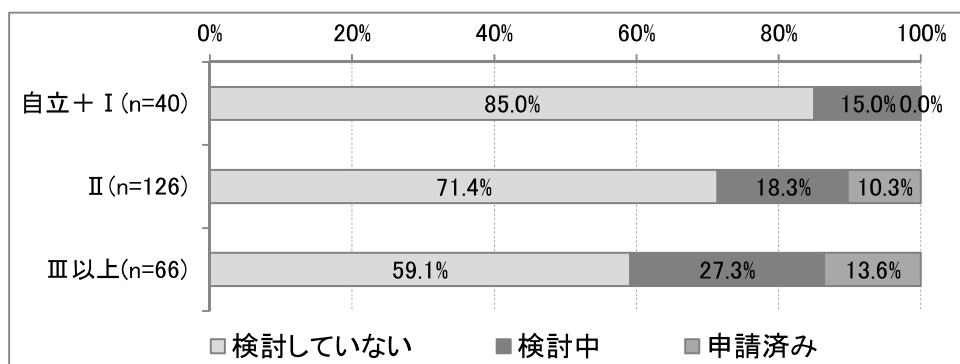
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況 (夫婦のみ世帯) <*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が85.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.0%となっている。「II」では「検討していない」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.3%、「申請済み」が10.3%となっている。「III以上」では「検討していない」が59.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が13.6%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯) <*>



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果と着目すべきポイント

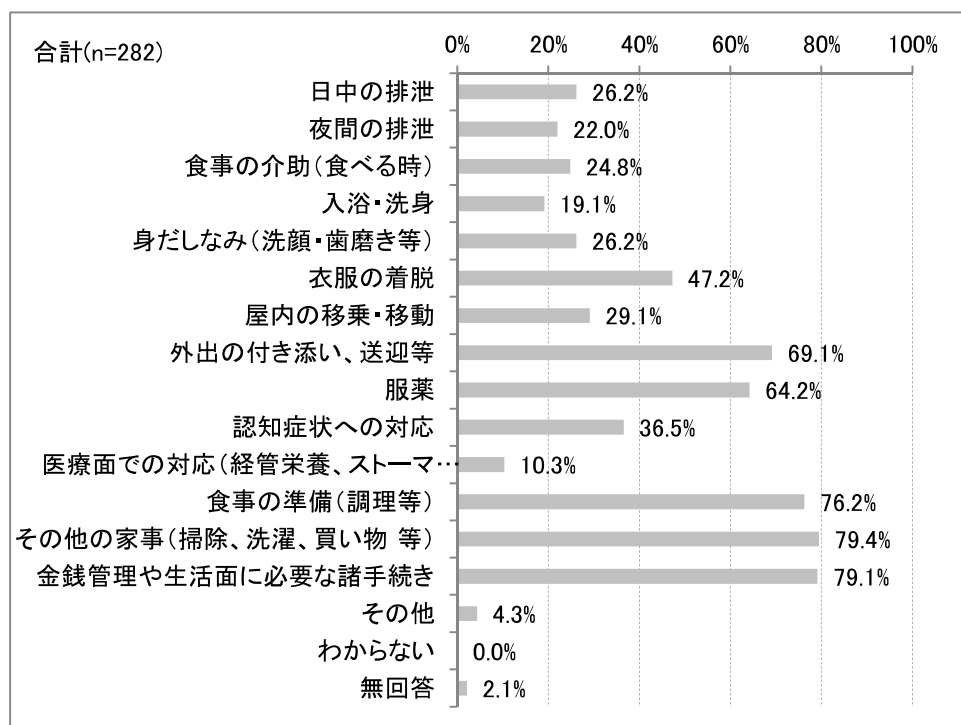
(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【★主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 79.4%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（79.1%）」、「食事の準備（調理等）（76.2%）」となっている。

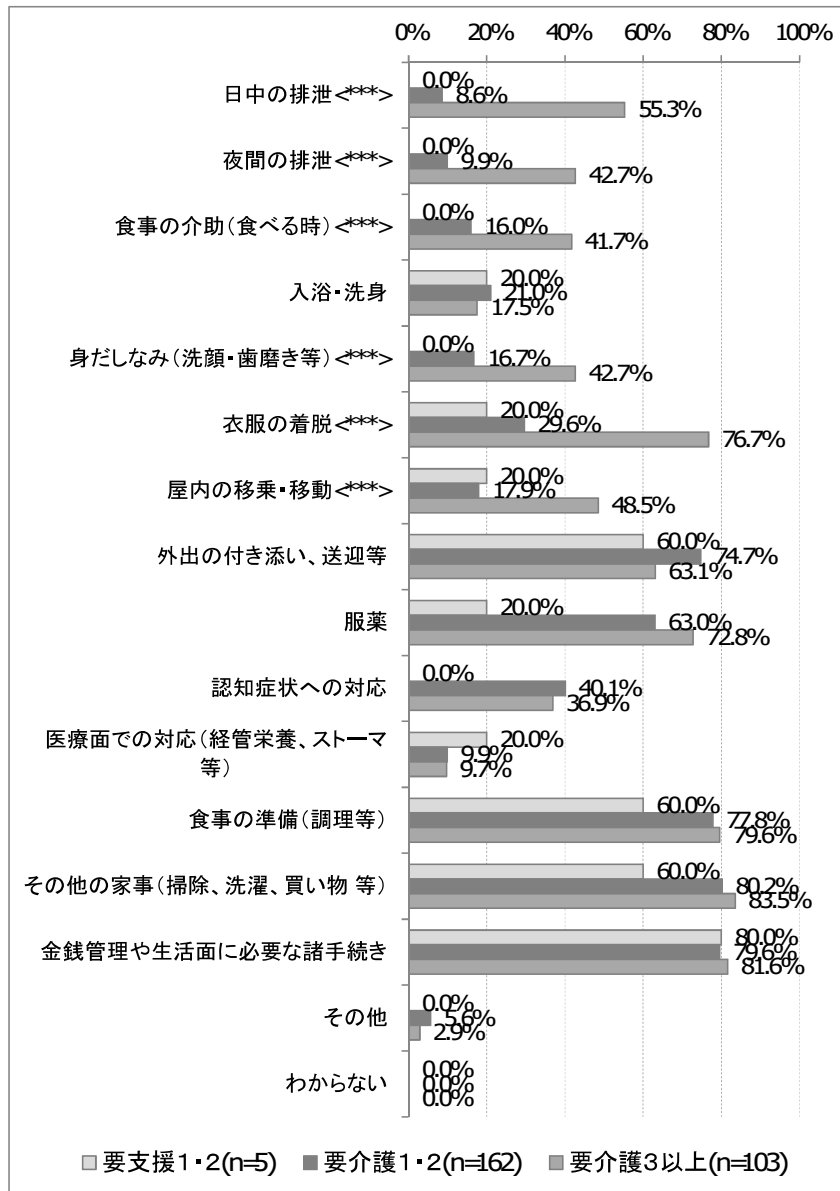
図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護



【要介護度別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が60.0%、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「服薬」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が20.0%となっている。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が80.2%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が79.6%、「食事の準備（調理等）」が77.8%となっている。「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が83.5%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が81.6%、「食事の準備（調理等）」が79.6%となっている。

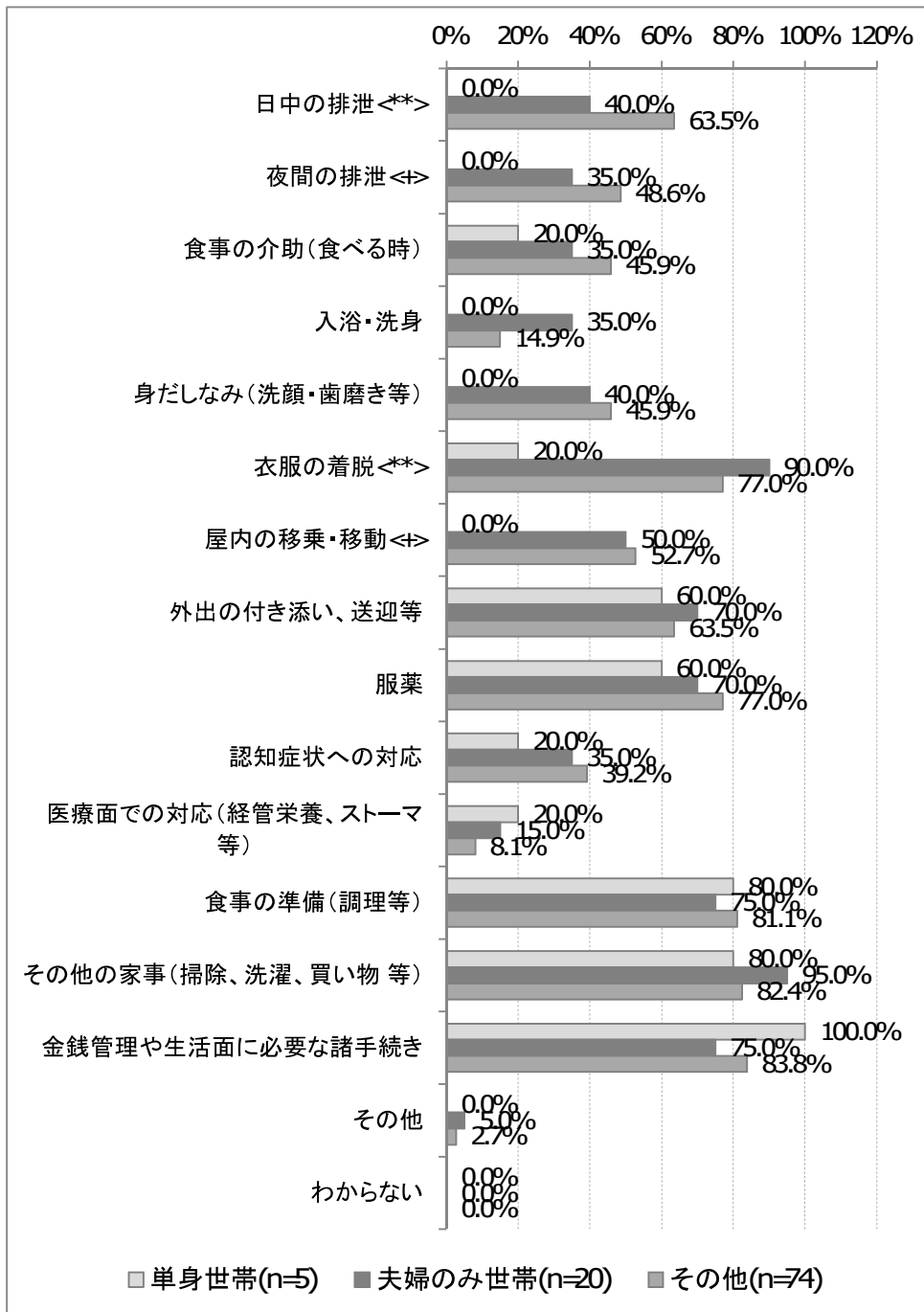
図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が80.0%、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」が60.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が95.0%ともっとも割合が高く、次いで「衣服の着脱」が90.0%、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が75.0%となっている。「その他」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が83.8%ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が82.4%、「食事の準備（調理等）」が81.1%となっている。

図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



(2) 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乘じることによって、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

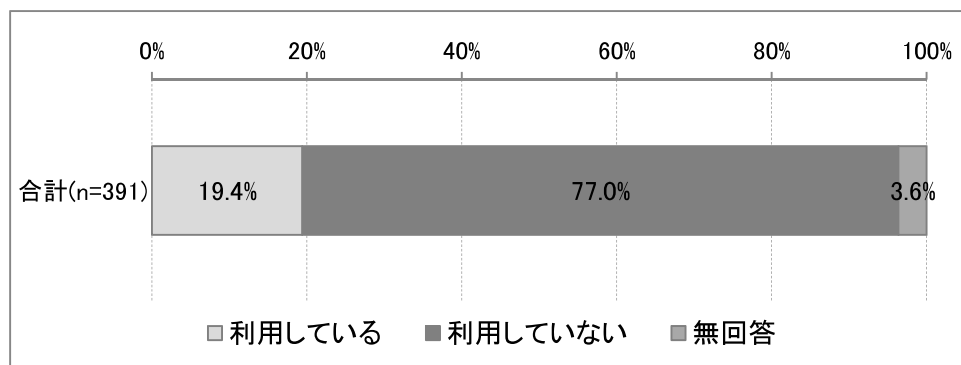
【留意事項】

- ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。
- また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定されます。粗推計のための手法である点については、注意が必要です。
- 必要に応じて、地域医療構想の検討における「2025年の在宅医療等で対応が必要な医療需要」の需要量予測の結果等もご覧ください。

【★訪問診療の利用の有無】

「利用していない」が 77.0%、「利用している」が 19.4%となっている。

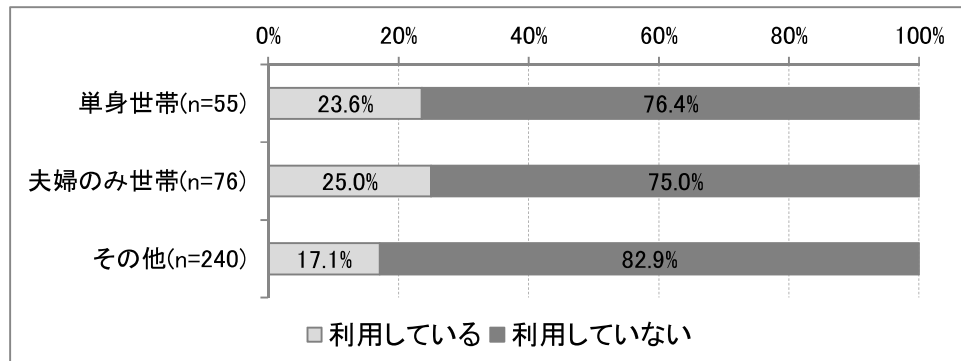
図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が76.4%、「利用している」が23.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が75.0%、「利用している」が25.0%となっている。「その他」では「利用していない」が82.9%、「利用している」が17.1%となっている。

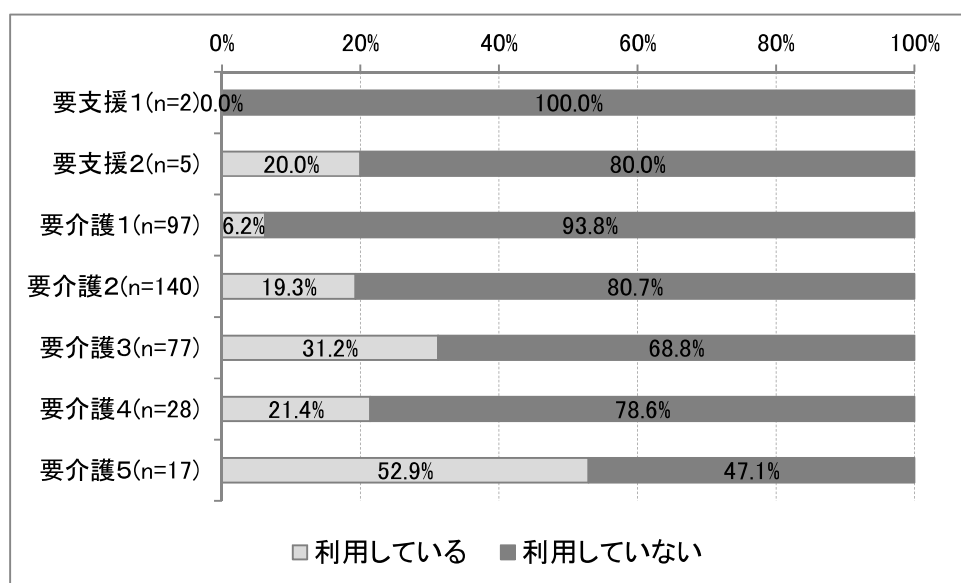
図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が100.0%となっている。「要支援2」では「利用していない」が80.0%、「利用している」が20.0%となっている。「要介護1」では「利用していない」が93.8%、「利用している」が6.2%となっている。「要介護2」では「利用していない」が80.7%、「利用している」が19.3%となっている。「要介護3」では「利用していない」が68.8%、「利用している」が31.2%となっている。「要介護4」では「利用していない」が78.6%、「利用している」が21.4%となっている。「要介護5」では「利用している」が52.9%、「利用していない」が47.1%となっている。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合<***>



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

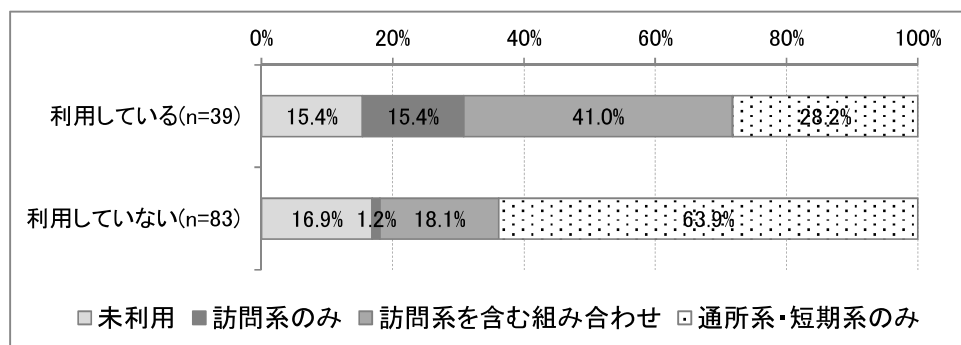
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計していません（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が41.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.2%、「未利用」、「訪問系のみ」が15.4%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が63.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が18.1%、「未利用」が16.9%となっている。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）〈***〉



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表5-8～図表5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

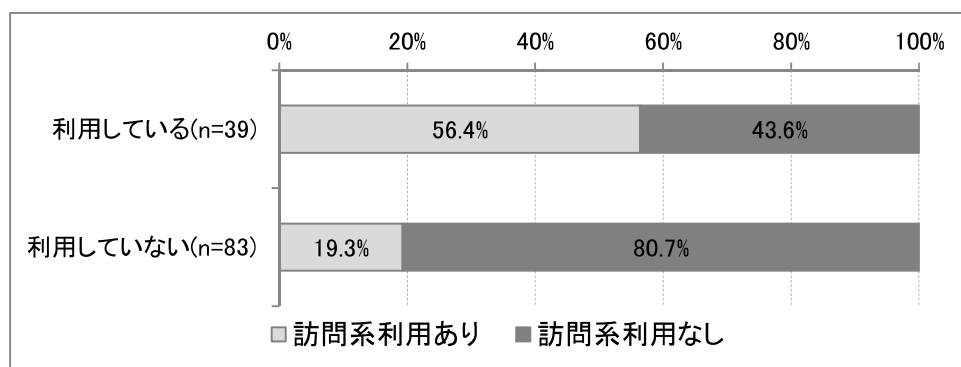
【留意事項】

- 上記の例のように、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なる場合についても、必ずしも「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない」ことに原因があるとは限りません。
- 集計分析結果の解釈は、地域の実情等に照らし合わせながら、専門職を含む関係者間での議論・考察を経て行う必要があります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(訪問系、要介護3以上)】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が56.4%、「訪問系利用なし」が43.6%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が80.7%、「訪問系利用あり」が19.3%となっている。

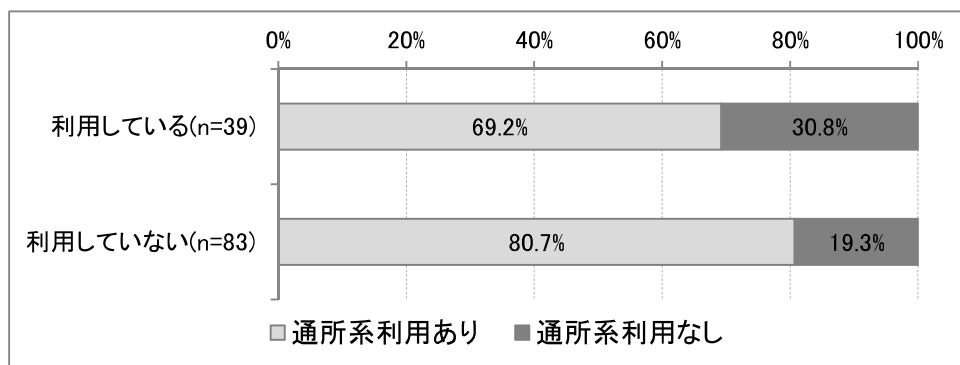
図表 5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）〈***〉



【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用あり」が69.2%、「通所系利用なし」が30.8%となっている。「利用していない」では「通所系利用あり」が80.7%、「通所系利用なし」が19.3%となっている。

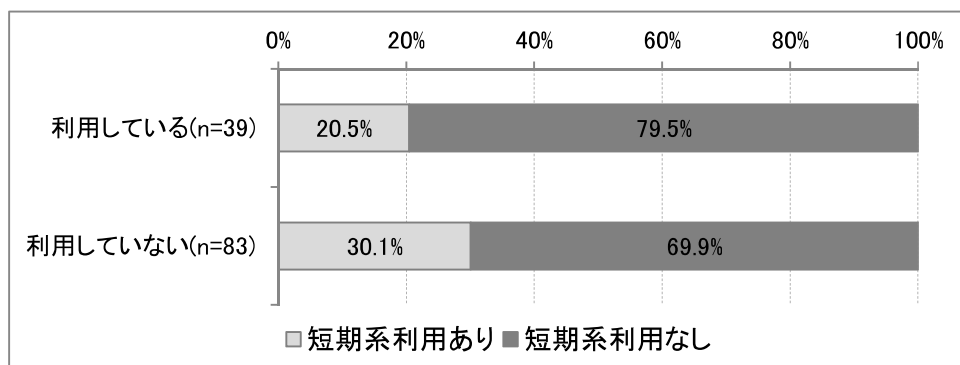
図表 5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が79.5%、「短期系利用あり」が20.5%となっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が69.9%、「短期系利用あり」が30.1%となっている。

図表 5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



6 サービス未利用の理由など

6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

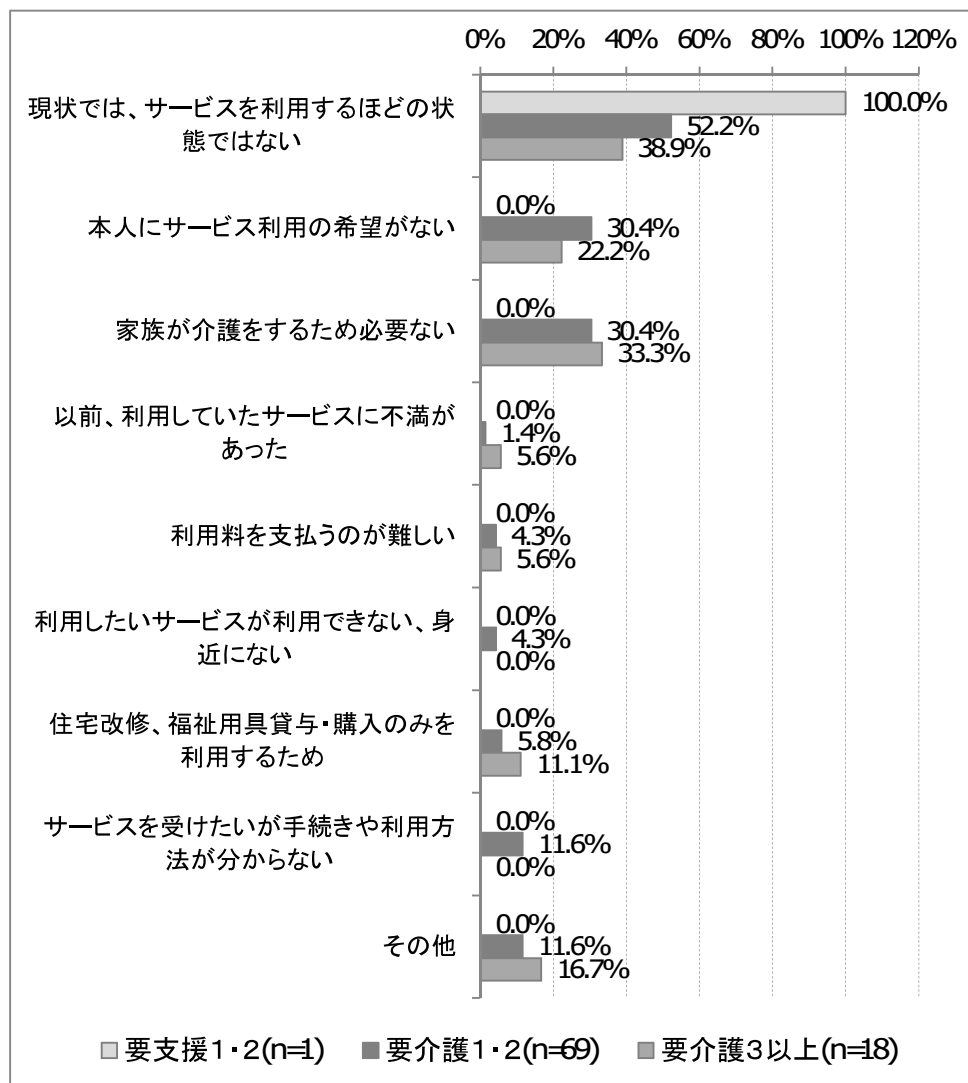
6.2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が52.2%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が30.4%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が11.6%となっている。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が38.9%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」が22.2%となっている。

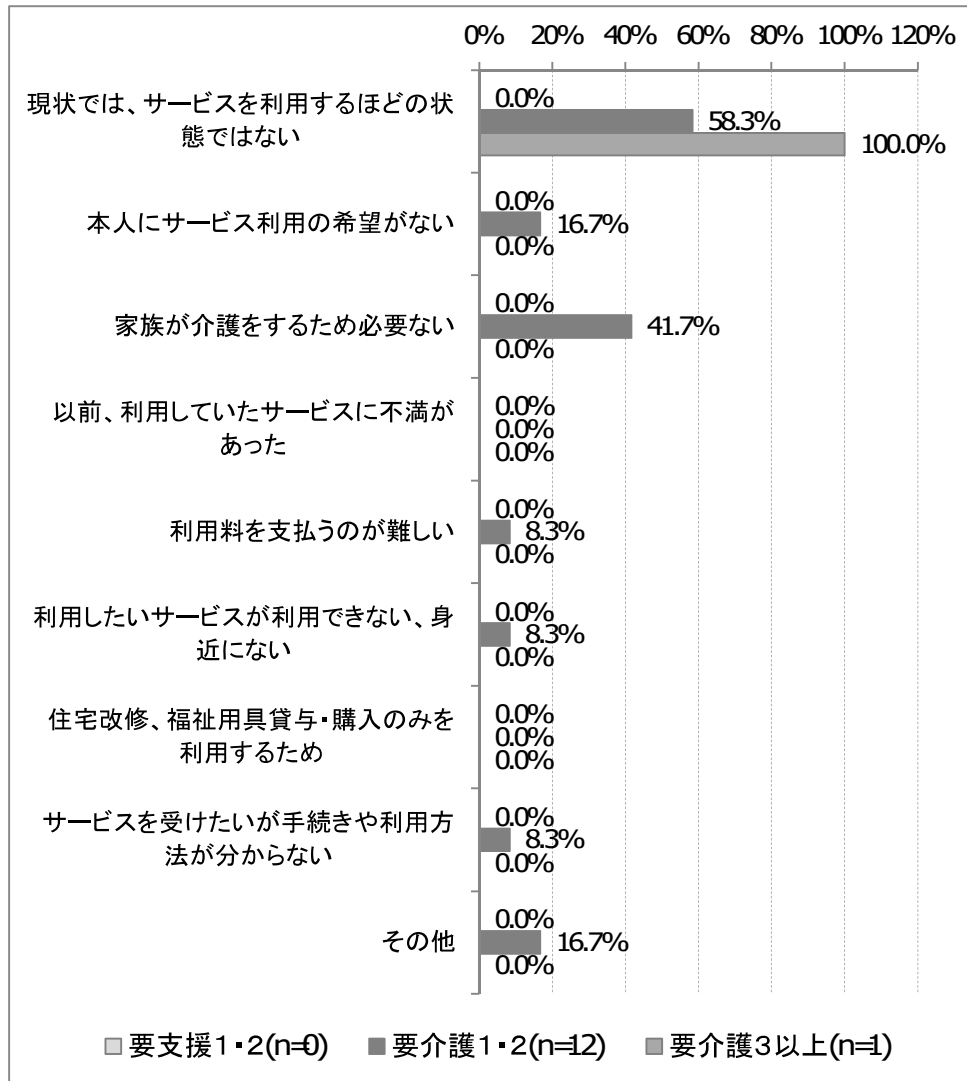
図表 6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



【要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が41.7%、「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が16.7%となっている。

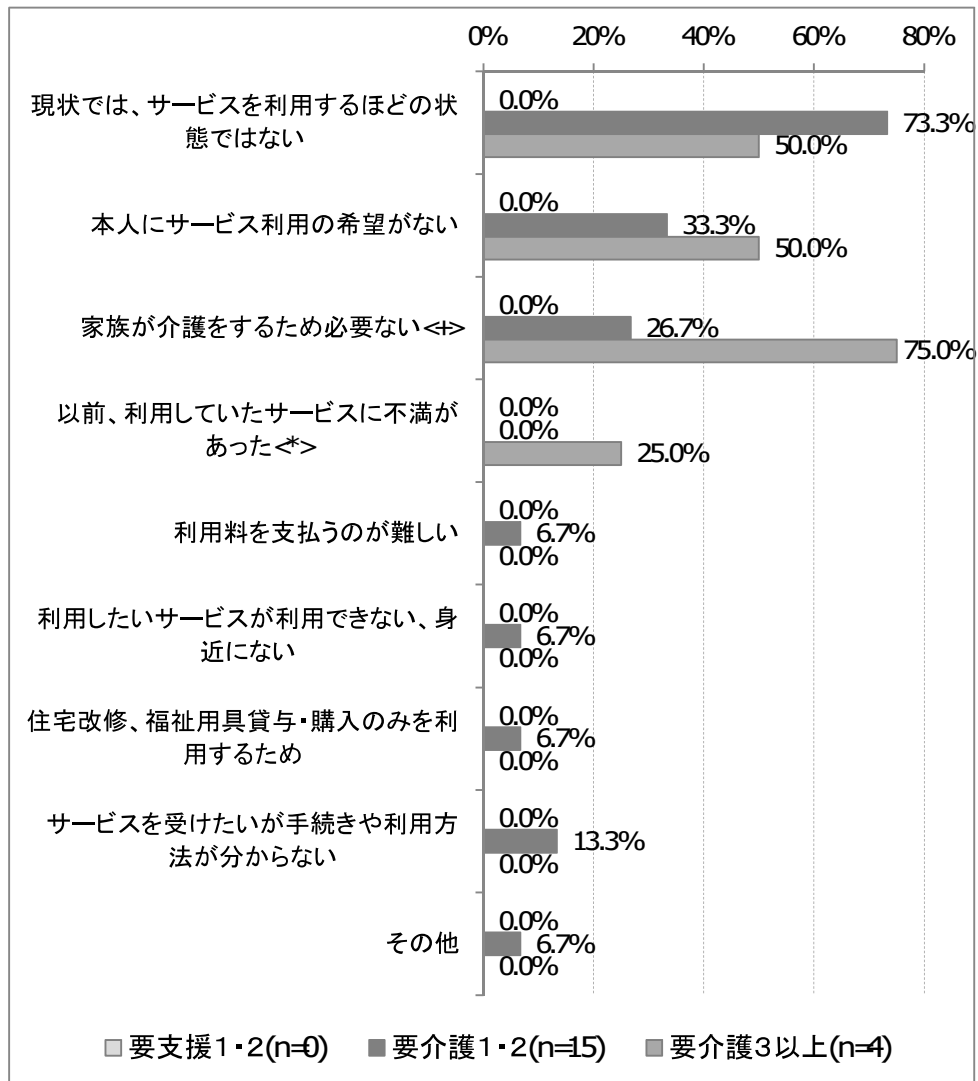
図表 6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が73.3%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が33.3%、「家族が介護をするため必要ない」が26.7%となっている。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%、「以前、利用していたサービスに不満があった」が25.0%となっている。

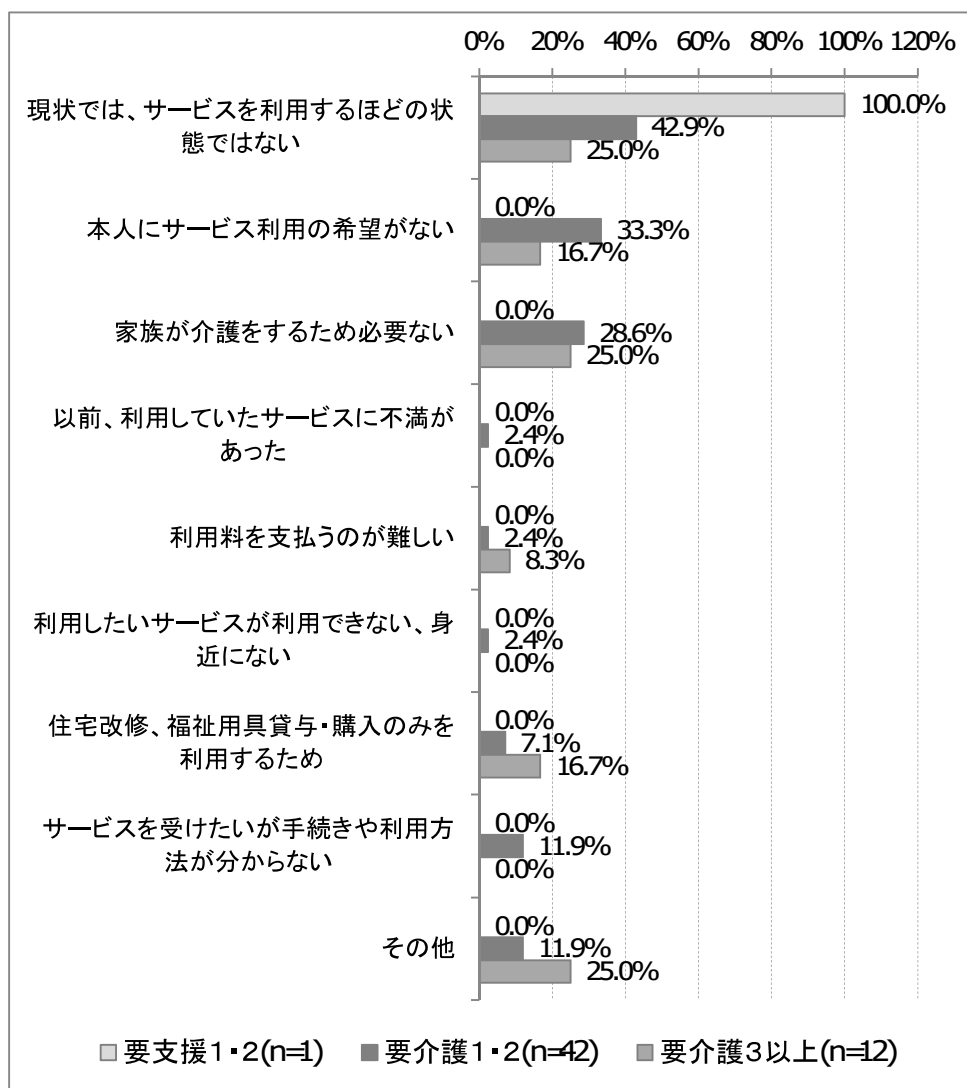
図表 6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が33.3%、「家族が介護をするため必要ない」が28.6%となっている。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が25.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が16.7%、「利用料を支払うのが難しい」が8.3%となっている。

図表 6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)

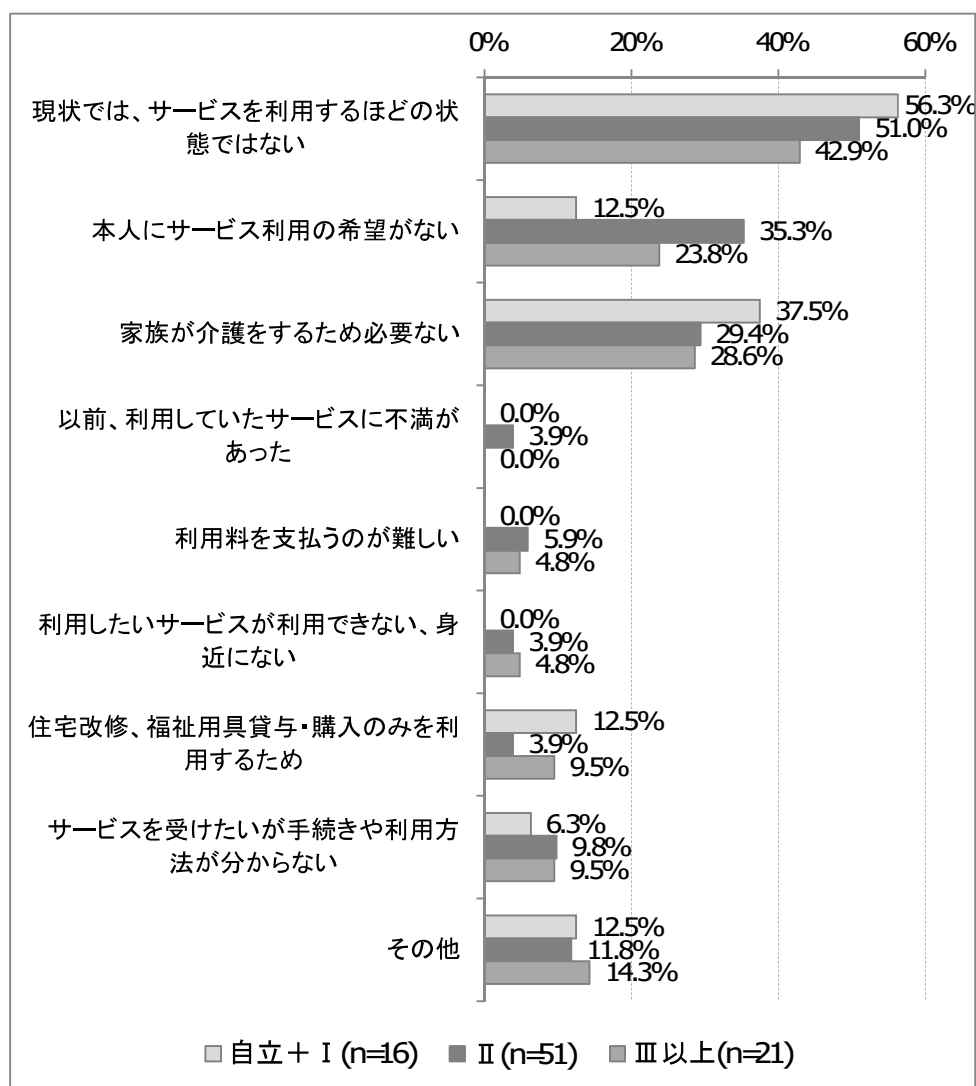


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 56.3%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 37.5%、「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が 12.5%となっている。「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 51.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 35.3%、「家族が介護をするため必要ない」が 29.4%となっている。「III以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 42.9%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 28.6%、「本人にサービス利用の希望がない」が 23.8%となっている。

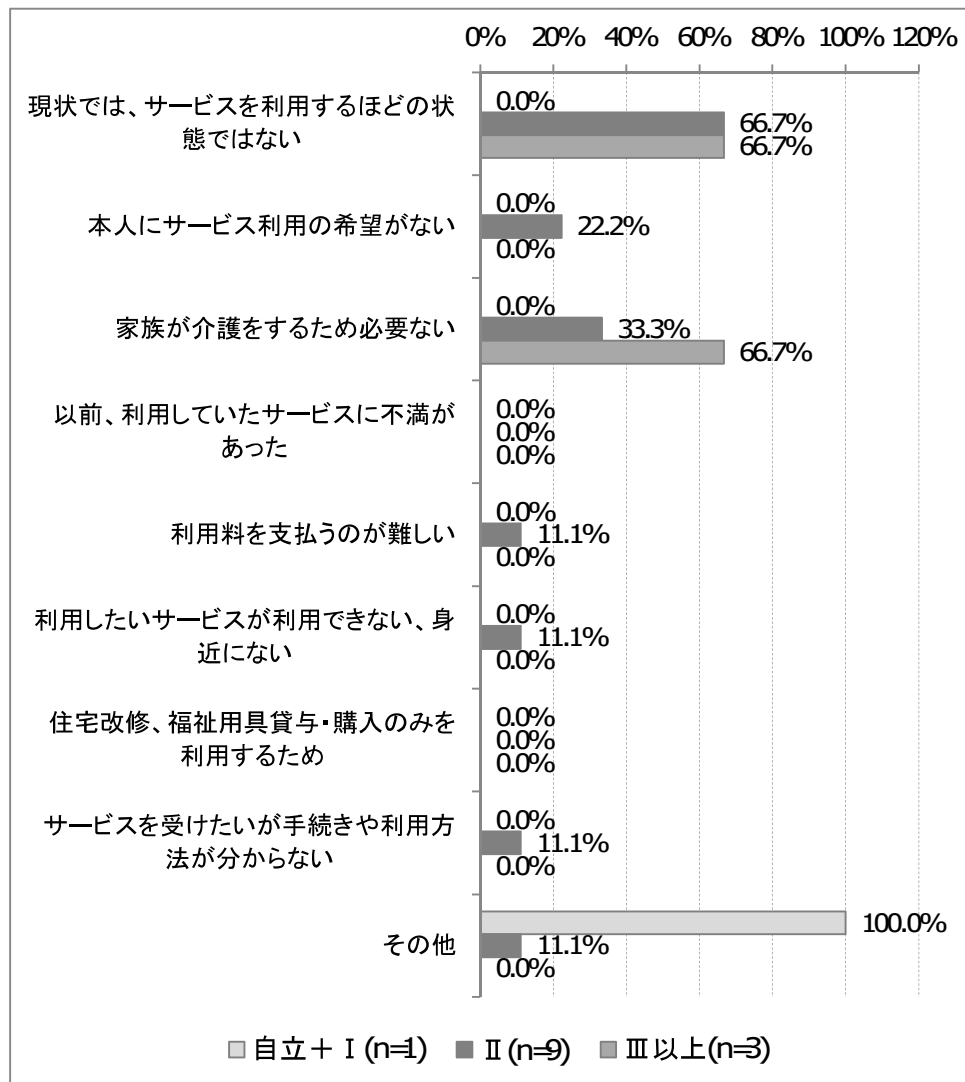
表 6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」が22.2%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が66.7%となっている。

図表 6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由 (単身世帯)

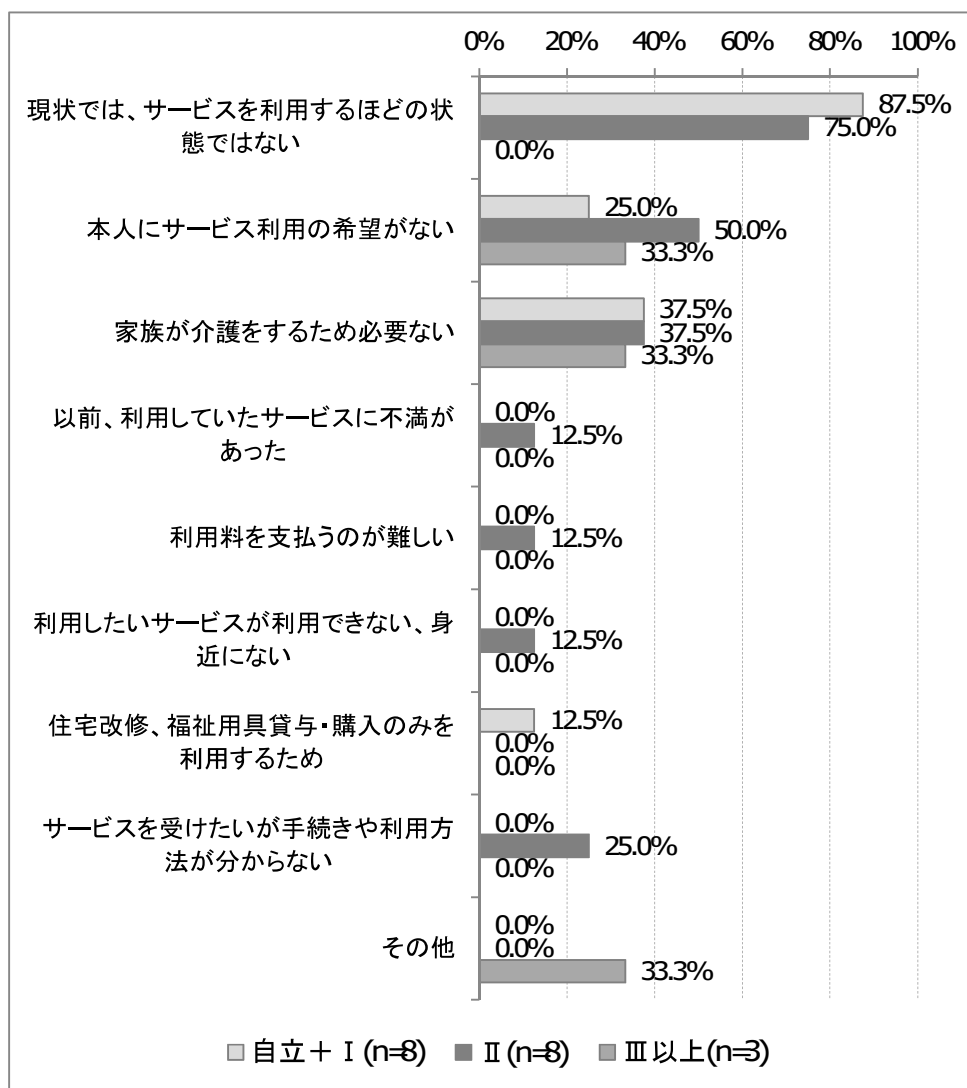


【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が87.5%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が37.5%、「本人にサービス利用の希望がない」が25.0%となっている。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%、「家族が介護をするため必要ない」が37.5%となっている。「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が33.3%となっている。

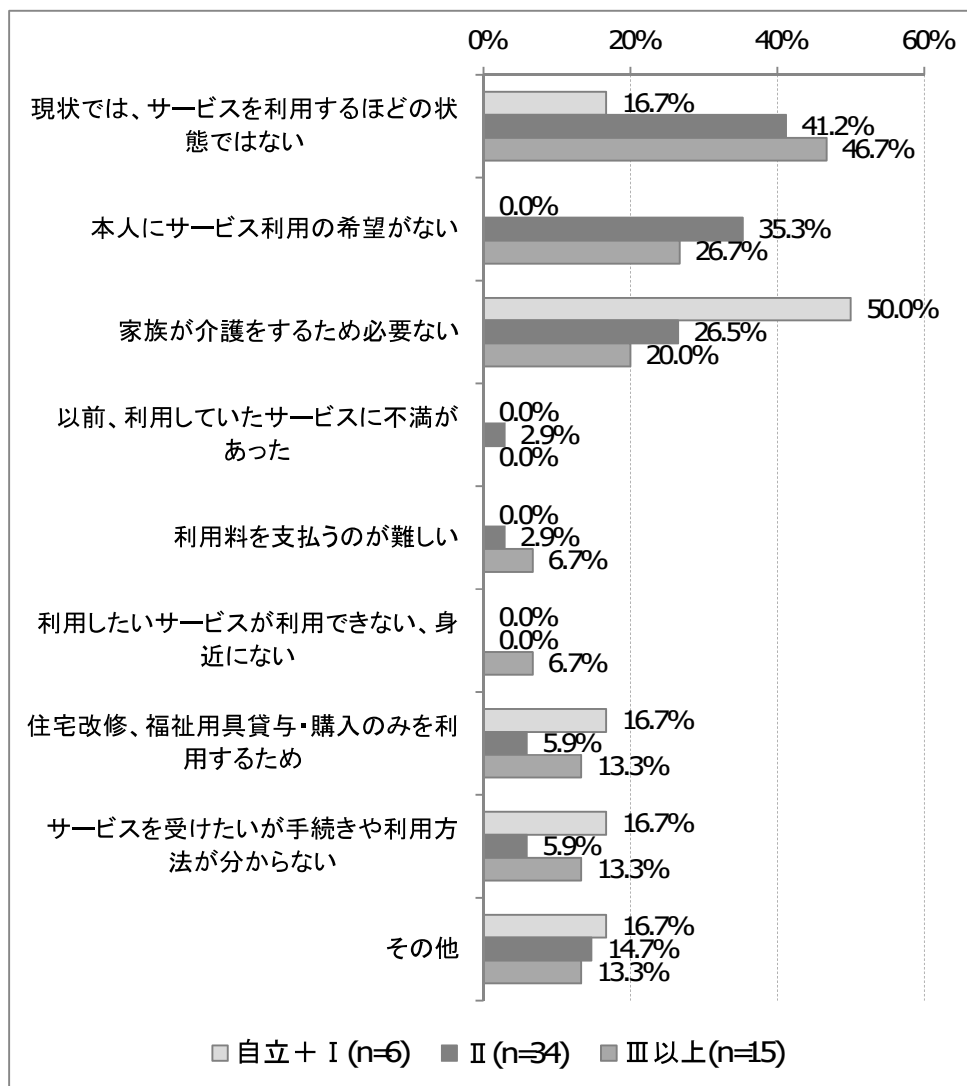
図表 6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由 (夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「家族が介護をするため必要ない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が16.7%となっている。「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.2%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が35.3%、「家族が介護をするため必要ない」が26.5%となっている。「III以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が26.7%、「家族が介護をするため必要ない」が20.0%となっている。

図表 6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由 (その他世帯)

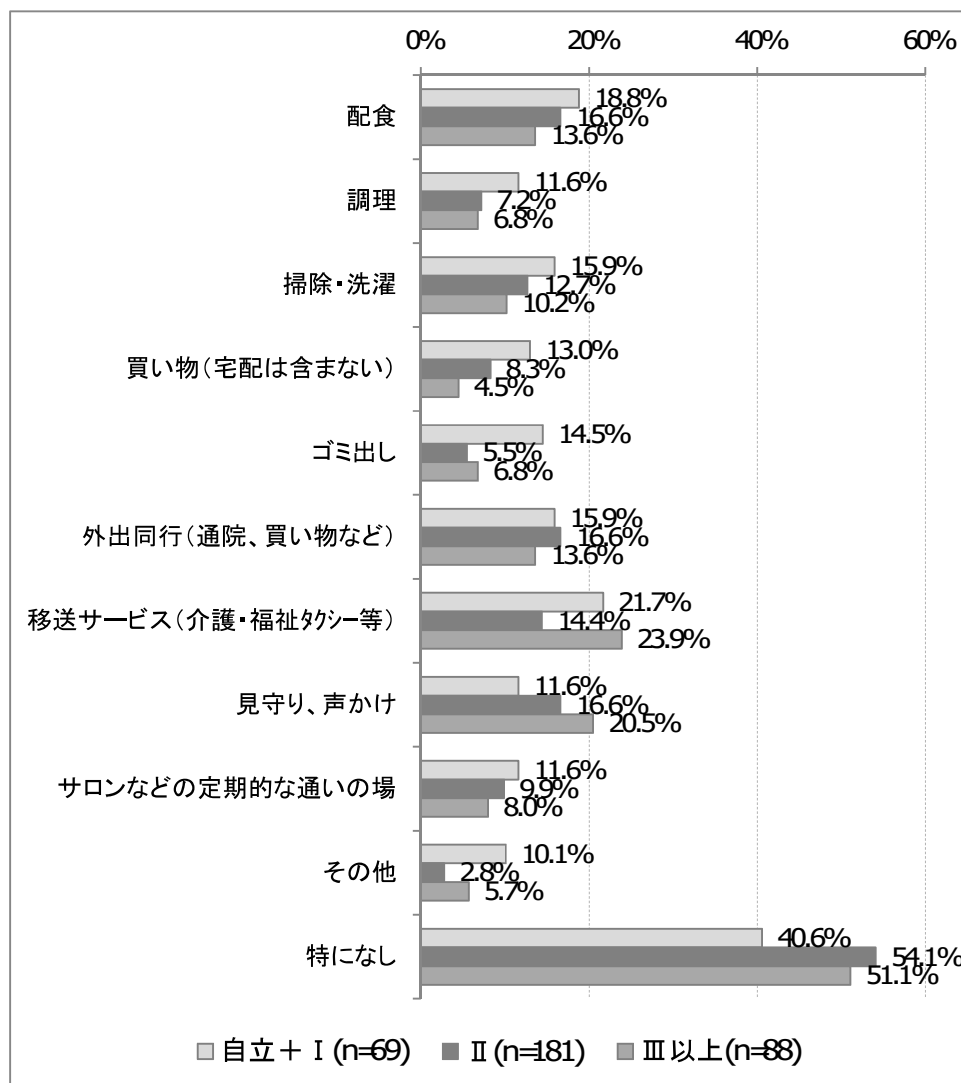


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋I」では「特になし」が40.6%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.7%、「配食」が18.8%となっている。「II」では「特になし」が54.1%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が16.6%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.4%となっている。「III以上」では「特になし」が51.1%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.9%、「見守り、声かけ」が20.5%となっている。

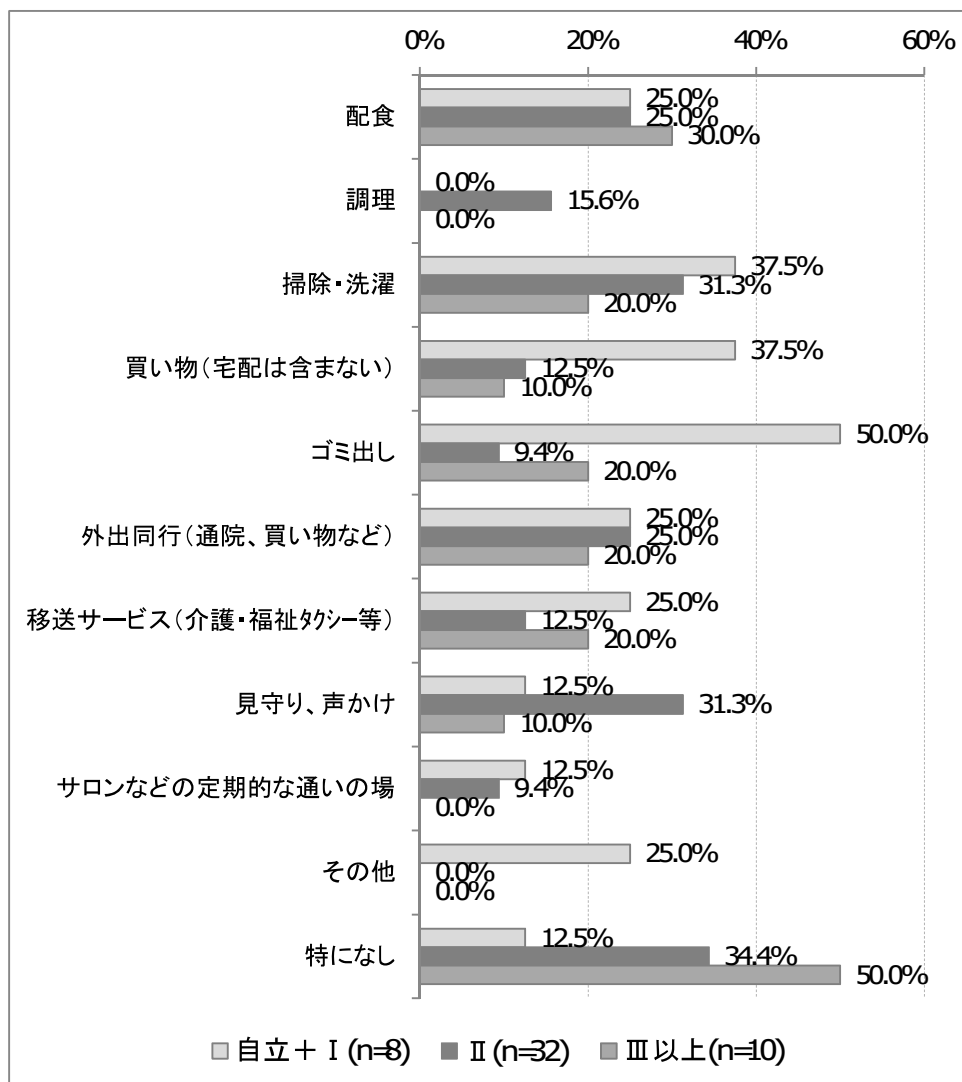
図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「ゴミ出し」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」が37.5%、「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「その他」が25.0%となっている。「II」では「特になし」が34.4%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」が31.3%、「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」が25.0%となっている。「III以上」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が30.0%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が20.0%となっている。

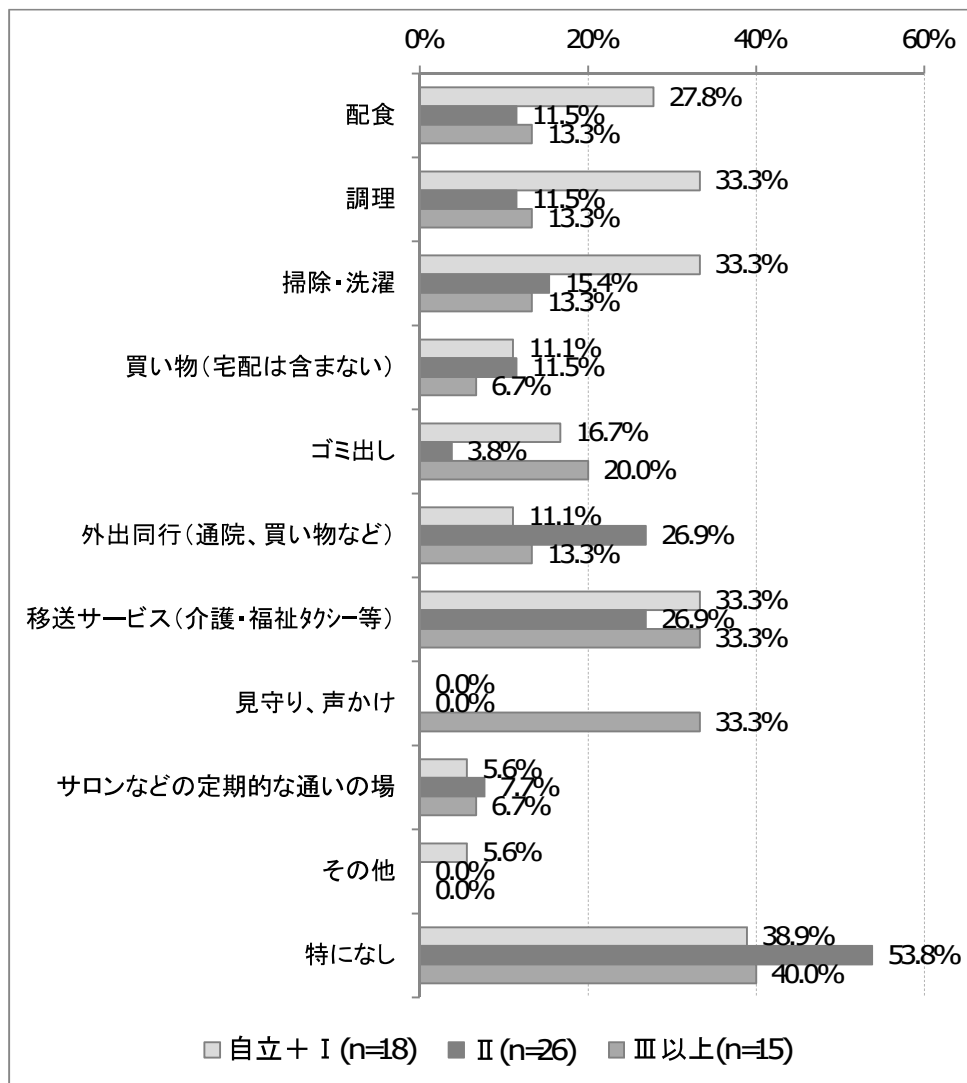
図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が38.9%ともっとも割合が高く、次いで「調理」、「掃除・洗濯」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が33.3%、「配食」が27.8%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が26.9%、「掃除・洗濯」が15.4%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」が33.3%、「ゴミ出し」が20.0%となっている。

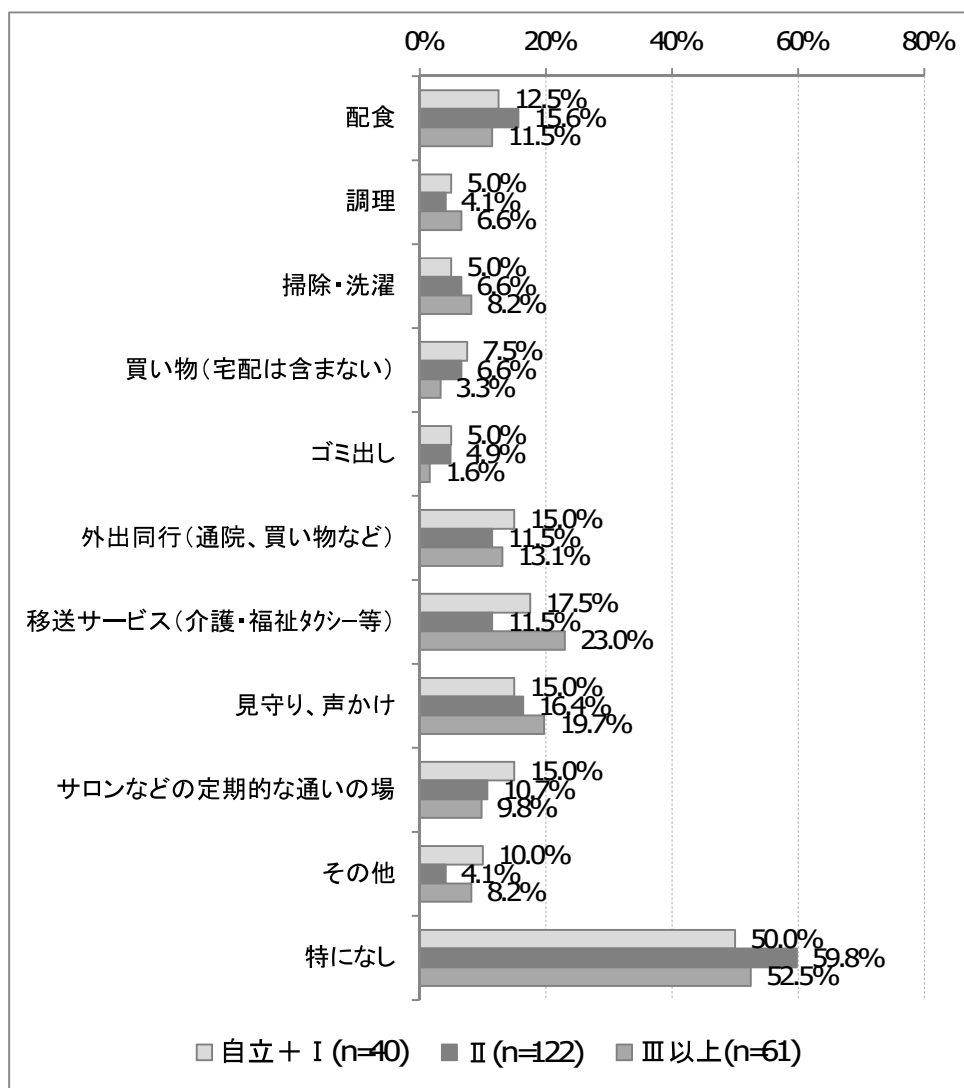
図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が17.5%、「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が15.0%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が59.8%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が16.4%、「配食」が15.6%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が52.5%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が23.0%、「見守り、声かけ」が19.7%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)

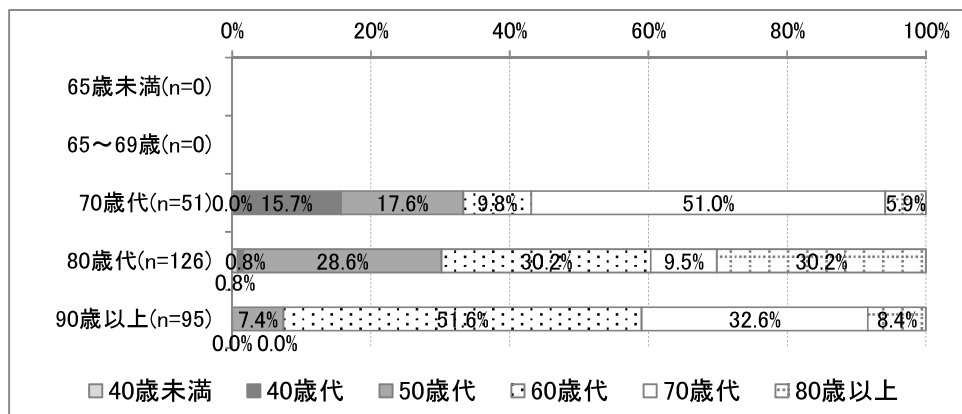


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「70歳代」では「70歳代」が51.0%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が17.6%、「40歳代」が15.7%となっている。「80歳代」では「60歳代」、「80歳以上」が30.2%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が28.6%、「70歳代」が9.5%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が51.6%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が32.6%、「80歳以上」が8.4%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢<***>

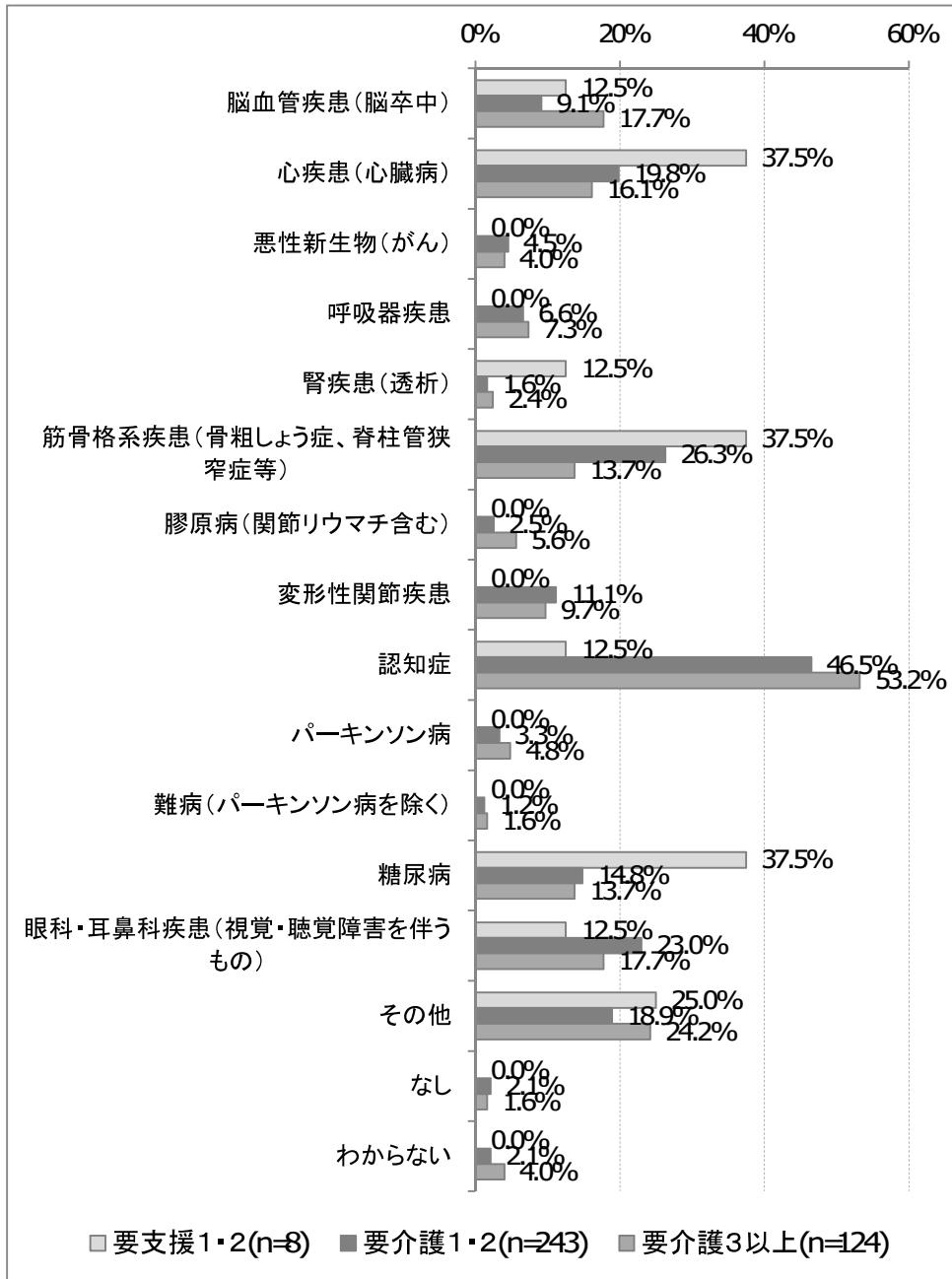


(5) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「心疾患（心臓病）」、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「糖尿病」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が25.0%、「脳血管疾患（脳卒中）」、「腎疾患（透析）」、「認知症」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が12.5%となっている。「要介護1・2」では「認知症」が46.5%ともっとも割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が26.3%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が23.0%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が24.2%、「脳血管疾患（脳卒中）」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が17.7%となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病

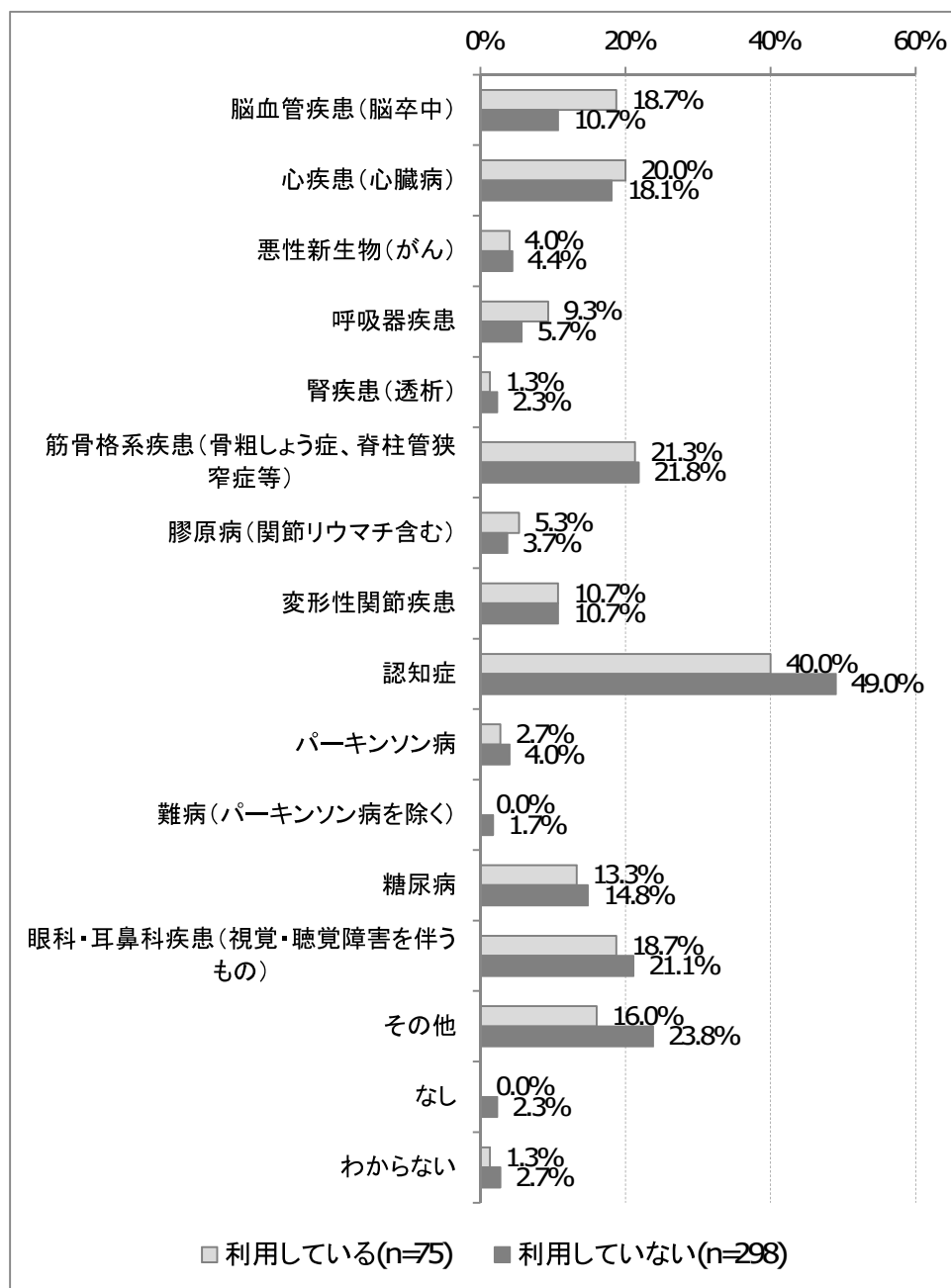


(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「認知症」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.3%、「心疾患（心臓病）」が20.0%となっている。「利用していない」では「認知症」が49.0%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が23.8%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.8%となっている。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病



第4章

指標による分析

1. 各指標の定義

各指標の定義は以下のとおりである。

「A票」調査対象者本人への質問

① 要介護者サービス利用 QOL 得点 ※ 計算方法：各項目の合計点*0.221 - 0.118 の各人の合計得点の平均点 ※※計算の結果マイナスとなった値は、「0」へ変換する		
設問項目	選択肢	点数
問 11(1) ご本人は日常生活において自分のことを、どのくらい自分で決められていますか。決めたことを他の人にやってもらう場合も含めてお答えください	1. 思い通り好きなように自分で決められている 2. おおむね自分で決められている 3. あまり自分で決められない 4. まったく自分で決められない	1: 1 2: 0.954 3: 0.089 4: 0
問 11(2) 身だしなみについて、ご本人の状況を表しているのはどれですか	1. 清潔で、思い通りの見苦しくない身だしなみができていると感じる 2. おおむね清潔で、見苦しくない身だしなみができていると感じる 3. あまり清潔ではない、または十分な身だしなみができていないと感じる 4. まったく清潔ではない、またはまったく身だしなみができていないと感じる	1: 0.734 2: 0.686 3: 0.236 4: 0.141
問 11(3) 飲食について、ご本人の状況を表しているのはどれですか	1. 十分な量や自分の食べたいものを、思い通りの時間にとれている 2. 不足ない量を、おおむね適切な時間にとれている 3. 量や時間が適切でないことがある 4. 十分な量をとれなかったり、適切な時間にとれないことがある。そのため、自分の健康に悪いと感じる	1: 0.875 2: 0.807 3: 0.247 4: 0.086
問 11(4) ご本人は虐待や転倒などのおそれがなく、どのくらい安心・安全だと感じていますか	1. 十分に安心・安全だと感じている 2. おおむね安心・安全だと感じているが、満足いくほどではない 3. あまり安心・安全ではないと感じている 4. まったく安心・安全ではないと感じている	1: 0.717 2: 0.385 3: 0.156 4: 0.089
問 11(5) ご本人が望む人とのつき合いについて、あなたの状況を表しているのはどれですか	1. 自分が望む人とのつき合いが、思い通りにできている 2. 人とのつき合いが、おおむねできている 3. 人とのつき合いはあるが、十分に満足いくほどではない 4. 人とのつき合いがほとんどなく、社会的に孤立していると感じる	1: 0.814 2: 0.759 3: 0.345 4: 0.033
問 11(6) ご本人は大切だと思うことや楽しんでいることをしながら、自分の時間を過ごせていますか。趣味、仕事、ボランティア、他者のケアなどを含めて考えて下さい	1. 思い通りに過ごせている 2. おおむね過ごせている 3. あまり過ごせていない 4. まったく過ごせていない	1: 1.018 2: 0.975 3: 0.218 4: 0.134
問 11(7) ご本人の家の中はどのくらい快適ですか	1. 思い通り快適である 2. おおむね快適である 3. あまり快適でない 4. まったく快適でない	1: 0.916 2: 0.825 3: 0.186 4: 0.052
問 11(9) ケアや支援のされ方について、ご本人はどのように感じていますか	1. ケアや支援のされ方により、今の自分をより良く思える 2. ケアや支援のされ方は、自分が自分をどう感じるかとは関係がない 3. ケアや支援のされ方により、気持ちが傷つくことがある 4. ケアや支援のされ方により、気持ちがひどく傷ついている	1: 0.704 2: 0.347 3: 0.059 4: 0

② 在宅生活の継続

※ 1項目中1項目該当

設問項目	選択肢 (◎が該当選択肢)
問 20 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください	◎1. 入所・入居は検討していない 2. 入所・入居を検討している 3. すでに入所・入居申し込みをしている

③ 要介護者日常生活 QOL 得点

※ 計算方法：各項目の各人の合計得点の平均点

設問項目	選択肢	点数
問 12 (1) 私はいつも頭を使うようにしている	1. とてもそう思う	1: 4点
問 12 (2) 私は話をする人がいる	2. そう思う	2: 3点
問 12 (3) 私はたいていよく眠れる	3. どちらでもない	3: 2点
問 12 (4) 私は住んでいる場所が好きである	4. 思わない	4: 1点
問 12 (5) 私は活動的でいられる	5. 全く思わない	5: 0点
問 12 (6) 私は友人と時間を過ごす		
問 12 (7) 私はリラックスできる		
問 12 (8) 私は外出したい時にできる		
問 12 (9) 私は自分が役に立つと感じる		
問 12 (10) 私は緊急時に連絡できる人がいる		

④ 趣味がある者の割合

※ 1～16のいずれかを選択していたら「行っている」、17 該当は「行っていない」、の各割合

設問項目	選択肢
問 16 ご本人（認定調査対象者）は、下記のような活動を行っていませんか（複数選択可）	1. 散歩・ジョギング 2. 体操・ストレッチ 3. 園芸・庭いじり 4. テレビをみる 5. 読書・新聞を読む 6. ラジオをきく 7. カラオケ・歌を歌う 8. 音楽鑑賞 9. 絵画・絵手紙 10. 編み物・手芸・刺繍 11. カードゲーム 12. 囲碁・将棋・麻雀 13. 買い物 14. 外食 15. メール・インターネット 16. その他 17. 行っていない

⑤ 趣味や通いの場に参加している者の割合

※ 2～7のいずれかを選択していたら「参加している」、1 該当は「参加していない」、の各割合

設問項目	選択肢
問 17 ご本人（認定調査対象者）は、下記のような地域の会・グループに参加していますか（複数選択可）	1. 参加している会・グループはない 2. ボランティアのグループ 3. スポーツ関係のグループやクラブ 4. 趣味関係のグループ 5. 老人クラブ 6. 町内会・自治会 7. 介護予防・健康づくり、通いの場（サロン）

「B票」主な介護者の方への質問

- ⑥ 仕事を辞めた者の割合
※ 1項目中1項目該当

設問項目	選択肢 (◎が該当選択肢)
問 2 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）	◎1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く） ◎2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く） 3. 主な介護者が転職した 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない 6. わからない

- ⑦ 介護者 QOL 得点
※ 計算方法：7項目の合計得点÷ 0.069 各人の得点の平均点

設問項目	選択肢	点数
問 24(1) 主な介護者の方は大切だとおもうことと楽しんでいることをしながら、自分の時間を過ごせていますか。趣味、仕事、ボランティア、他者のケアなどを含めて考えてください。	1. 思い通りに過ごせている 2. おおむね過ごせている 3. あまり過ごしていない 4. まったく過ごしていない	1: 0.173 2: 0.166 3: 0.066 4: 0.028
問 24(2) 主な介護者の方は日常生活において自分のことを、どのくらい自分で決められていますか。	1. 思い通りに好きなように自分で決められる 2. おおむね自分で決められる 3. あまり自分で決められない 4. まったく自分で決められない	1: 0.147 2: 0.133 3: 0.032 4: 0.009
問 24(3) 毎日の生活の中で主な介護者の方が自分らしくいられる余裕について、状況を表しているのはどれですか。	1. 自分らしくいられる余裕が十分にある 2. 自分らしくいられる余裕が適度にある 3. 自分らしくいられる余裕が多少あるが、十分ではない 4. 自分らしくいられる余裕が少しもない	1: 0.205 2: 0.194 3: 0.063 4: 0.000
問 24(4) 主な介護者の方はどのくらい安全だと感じていますか。「安全だと感じている」とは、ケアしているときに、相手からの暴言・暴力や予期せぬけがなどの恐れがないと感じていることをいいます。	1. 自分の望むとおりに、安全だと感じている 2. 自分の望むほどではないが、おおむね安全だと感じている 3. 十分だというほどには安心・安全だと感じていない 4. まったく安全だと感じていない	1: 0.131 2: 0.111 3: 0.046 4: 0.012
問 24(5) 主な介護者の方が望む人とのつき合いについて、状況を表しているのはどれですか。	1. 自分が望む人とのつき合いが、思い通りにできている 2. 人とのつき合いが、おおむねできている 3. 人とのつき合いはあるが、十分に満足いくほどではない 4. 人とのつき合いがほとんどなく、社会的に孤立していると感じる	1: 0.121 2: 0.103 3: 0.076 4: 0.011
問 24(6) 主な介護者の方がケアしているときに、誰かに支えられたり、元気づけられたりしていると感じていますか。	1. 自分が望む支えがあると感じている 2. 支えが適度にあると感じている 3. 支えが多少あるが十分ではないと感じている 4. 支えが何もないと感じている	1: 0.130 2: 0.117 3: 0.064 4: 0.011
問 24(7) 十分睡眠をとったり、適切に食事をとったりなど、どのくらい自分を大切にしていますか。	1. 思い通りに、自分を大切にしている 2. おおむね自分を大切にしている 3. 時々、自分を大切にできていない 4. 自分をおろそかにしている	1: 0.163 2: 0.155 3: 0.049 4: 0.020

<p>⑧ 主観的幸福感割合 ※ 8点以上の者の割合</p>																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">設問項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">問 17 主な介護者の方は、現在どの程度幸せですか（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点としてご記入ください）</td> </tr> </tbody> </table>			設問項目			問 17 主な介護者の方は、現在どの程度幸せですか（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点としてご記入ください）																	
設問項目																							
問 17 主な介護者の方は、現在どの程度幸せですか（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点としてご記入ください）																							
<p>⑨ 介護者日常生活 QOL 得点 ※ 精神的健康状態良好の者の割合 ※ 合計点が13点以上の割合</p>																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>設問項目</th> <th>選択肢</th> <th>点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問 22(1) 明るく、楽しい気分で過ごした</td> <td>1. まったくない</td> <td>1: 0点</td> </tr> <tr> <td>問 22(2) 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした</td> <td>2. ほんのたまに</td> <td>2: 1点</td> </tr> <tr> <td>問 22(3) 意欲的で、活動的に過ごした</td> <td>3. 半以下の期間を</td> <td>3: 2点</td> </tr> <tr> <td>問 22(4) ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた</td> <td>4. 半以上の期間を</td> <td>4: 3点</td> </tr> <tr> <td>問 22(5) 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった</td> <td>5. ほとんどいつも</td> <td>5: 4点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6. いつも</td> <td>6: 5点</td> </tr> </tbody> </table>			設問項目	選択肢	点数	問 22(1) 明るく、楽しい気分で過ごした	1. まったくない	1: 0点	問 22(2) 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	2. ほんのたまに	2: 1点	問 22(3) 意欲的で、活動的に過ごした	3. 半以下の期間を	3: 2点	問 22(4) ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた	4. 半以上の期間を	4: 3点	問 22(5) 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5. ほとんどいつも	5: 4点		6. いつも	6: 5点
設問項目	選択肢	点数																					
問 22(1) 明るく、楽しい気分で過ごした	1. まったくない	1: 0点																					
問 22(2) 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	2. ほんのたまに	2: 1点																					
問 22(3) 意欲的で、活動的に過ごした	3. 半以下の期間を	3: 2点																					
問 22(4) ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた	4. 半以上の期間を	4: 3点																					
問 22(5) 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5. ほとんどいつも	5: 4点																					
	6. いつも	6: 5点																					
<p>⑩ 介護者の支援ネットワーク保有者割合 ※ 1～10のいずれかを選択していたら「いる」、11該当は「いない」、の各割合</p>																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>設問項目</th> <th>選択肢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問 23 主な介護者の方で何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか（複数選択可）</td> <td> <table border="0"> <tr> <td>1. 同居家族</td> <td>6. 社会福祉協議会・民生委員</td> </tr> <tr> <td>2. 別居の子ども</td> <td>7. ケアマネジャー</td> </tr> <tr> <td>3. 兄弟姉妹・親戚・親・孫</td> <td>8. 医師・歯科医師・看護師</td> </tr> <tr> <td>4. 近隣・友人</td> <td>9. 地域包括支援センター・役所・役場</td> </tr> <tr> <td>5. 自治会・町内会・老人クラブ</td> <td>10. その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. ない</td> </tr> </table> </td> </tr> </tbody> </table>			設問項目	選択肢	問 23 主な介護者の方で何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか（複数選択可）	<table border="0"> <tr> <td>1. 同居家族</td> <td>6. 社会福祉協議会・民生委員</td> </tr> <tr> <td>2. 別居の子ども</td> <td>7. ケアマネジャー</td> </tr> <tr> <td>3. 兄弟姉妹・親戚・親・孫</td> <td>8. 医師・歯科医師・看護師</td> </tr> <tr> <td>4. 近隣・友人</td> <td>9. 地域包括支援センター・役所・役場</td> </tr> <tr> <td>5. 自治会・町内会・老人クラブ</td> <td>10. その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. ない</td> </tr> </table>	1. 同居家族	6. 社会福祉協議会・民生委員	2. 別居の子ども	7. ケアマネジャー	3. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	8. 医師・歯科医師・看護師	4. 近隣・友人	9. 地域包括支援センター・役所・役場	5. 自治会・町内会・老人クラブ	10. その他		11. ない					
設問項目	選択肢																						
問 23 主な介護者の方で何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか（複数選択可）	<table border="0"> <tr> <td>1. 同居家族</td> <td>6. 社会福祉協議会・民生委員</td> </tr> <tr> <td>2. 別居の子ども</td> <td>7. ケアマネジャー</td> </tr> <tr> <td>3. 兄弟姉妹・親戚・親・孫</td> <td>8. 医師・歯科医師・看護師</td> </tr> <tr> <td>4. 近隣・友人</td> <td>9. 地域包括支援センター・役所・役場</td> </tr> <tr> <td>5. 自治会・町内会・老人クラブ</td> <td>10. その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. ない</td> </tr> </table>	1. 同居家族	6. 社会福祉協議会・民生委員	2. 別居の子ども	7. ケアマネジャー	3. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	8. 医師・歯科医師・看護師	4. 近隣・友人	9. 地域包括支援センター・役所・役場	5. 自治会・町内会・老人クラブ	10. その他		11. ない										
1. 同居家族	6. 社会福祉協議会・民生委員																						
2. 別居の子ども	7. ケアマネジャー																						
3. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	8. 医師・歯科医師・看護師																						
4. 近隣・友人	9. 地域包括支援センター・役所・役場																						
5. 自治会・町内会・老人クラブ	10. その他																						
	11. ない																						

なお、「2. 指標による分析」で用いるクロス集計（認知症自立度別）は保険者が保有する要介護認定データ（NCI251 データ）の「認知症高齢者の日常生活自立度」のデータを使用している。

2. 指標による分析

「A票」調査対象者本人への質問

2.1 認知症自立度別における要介護者サービス利用 QOL 得点

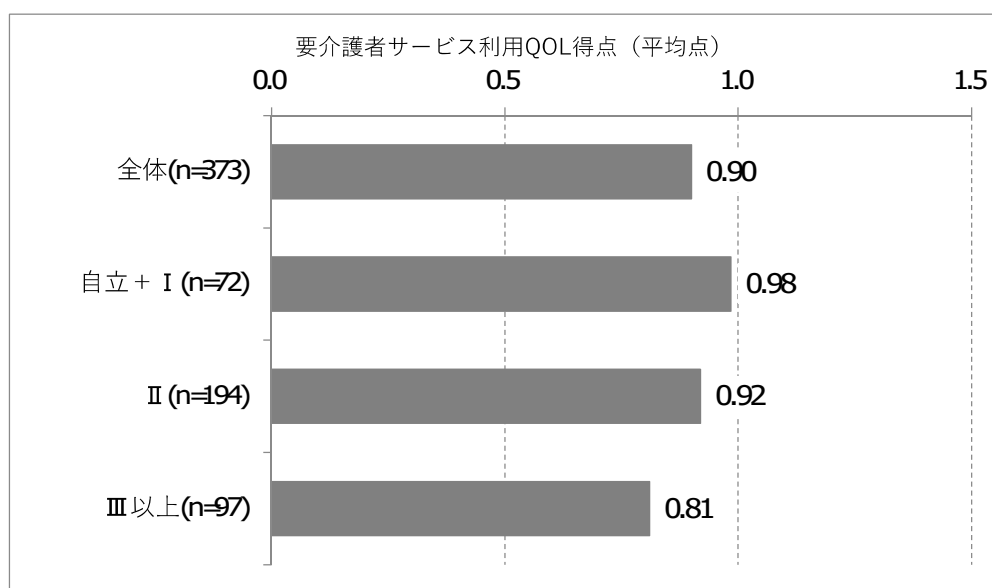
2.1.1 集計・分析のねらい

- 要介護状態にある高齢者の孤立は、本人の生活の質（QOL）の低下や心身機能の悪化につながる可能性があり、重要な社会的課題である。
本分析では、孤立の状況を多面的に把握するため、①余暇活動、②地域への参加、③他者との交流の3つの指標に着目し、それぞれについて活動への参加状況を集計した。
- さらに、孤立の程度と生活自立度との関連を検討することを目的として、「認知症高齢者の日常生活自立度」別に、各指標の参加割合についてクロス集計を行った。
これにより、認知症の進行度に応じた孤立の特徴や傾向を明らかにし、今後の支援の在り方を検討するための基礎資料とすることをねらいとした。

2.1.2 集計結果と着目すべきポイント

- 要介護者サービス利用 QOL 得点（平均点）をみると、全体では 0.90 点となっている。
認知症自立度別にみると、「自立+ I」は 0.98 点、「II」は 0.92 点、「III以上」は 0.81 点となっている。（図表 1）

図表 1 要介護者サービス利用 QOL 得点（認知症自立度別）



2.2 認知症自立度別における在宅生活の継続

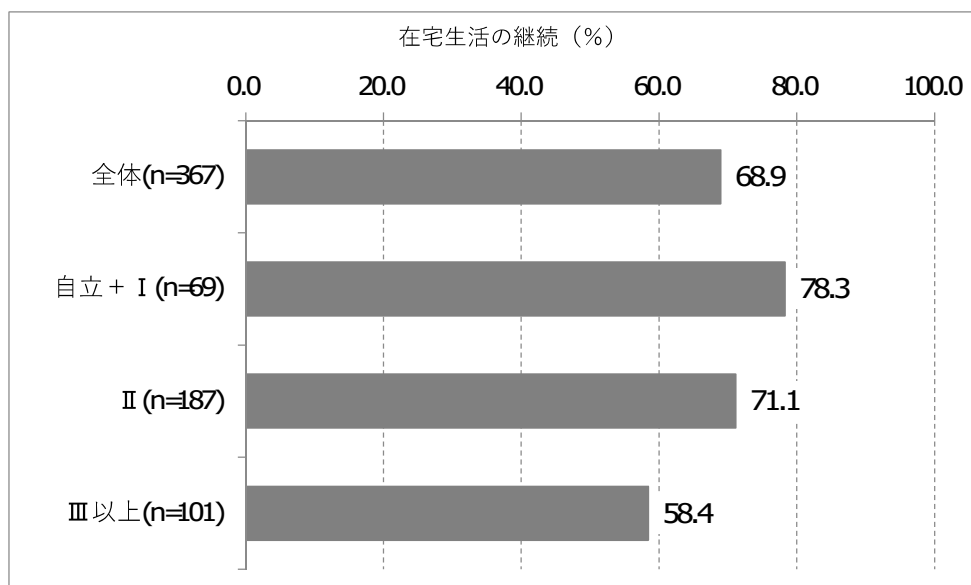
2.2.1 集計・分析のねらい

- 要介護高齢者にとって、住み慣れた地域・住居で在宅生活を継続できるかどうかは、生活の質や本人の意向を尊重した支援を考える上で重要な視点である。
本集計では、現時点における施設等への入所・入居の検討状況に着目し、在宅生活がどの程度維持されているかを把握することを目的とした。
- 具体的には、施設等への入所・入居について「検討していない」「検討している」「すでに申込みをしている」といった状況別に集計を行った。
これにより、認知症自立度別にみた在宅生活継続の実態を明らかにし、今後の支援体制や地域資源整備を検討するための基礎資料とすることをねらいとした。

2.2.2 集計結果と着目すべきポイント

- 在宅生活の継続の割合をみると、全体では68.9%となっている。
認知症自立度別にみると、「自立+Ⅰ」は78.3%、「Ⅱ」は71.1%、「Ⅲ以上」は58.4%で、自立度が低下するほど割合が低くなる傾向にある。(図表2)

図表2 在宅生活の継続（認知症自立度別）



2.3 認知症自立度別における要介護者日常生活 QOL 得点

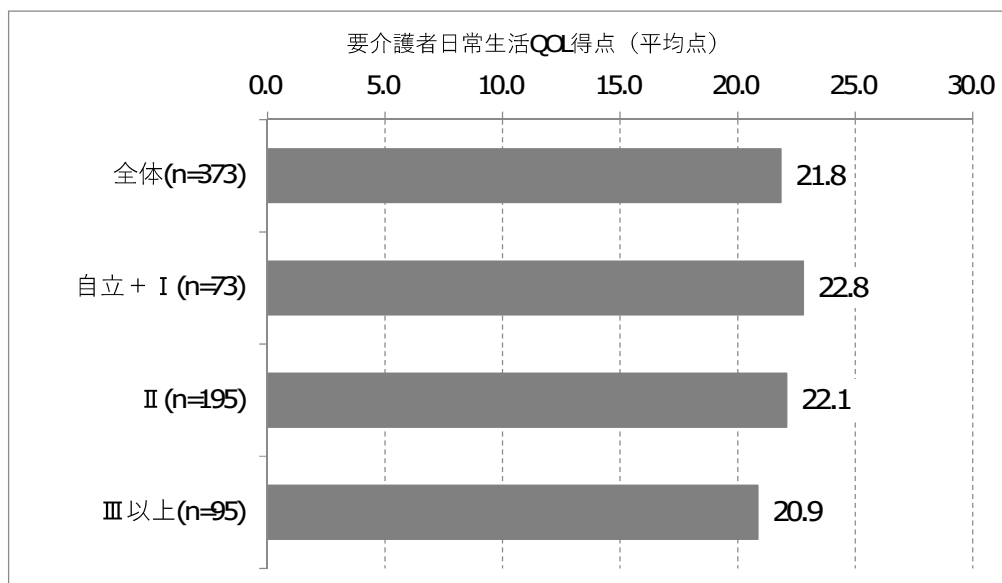
2.3.1 集計・分析のねらい

- 要介護状態にある高齢者の生活の質（QOL）は、身体的・精神的健康のみならず、社会的つながりや生活環境とも密接に関連している。
本分析では、要介護者の日常生活における主観的 QOL を把握することを目的として、日常生活 QOL に関する設問項目を用いた指標を作成し、集計を行った。
- 各設問について得点化を行い、個人ごとの合計得点の平均値を算出した。
これにより、認知症自立度別にみた要介護者の日常生活における QOL の傾向を明らかにし、支援の質の向上に向けた検討材料とすることをねらいとした。

2.3.2 集計結果と着目すべきポイント

- 要介護者日常生活 QOL 得点（平均点）をみると、全体では 21.8 点となっている。
認知症自立度別にみると、「自立+Ⅰ」は 22.8 点、「Ⅱ」は 22.1 点、「Ⅲ以上」は 20.9 点で、大きな差はみられない。（図表 3）

図表 3 要介護者日常生活 QOL 得点（認知症自立度別）



2.4 認知症自立度別における趣味がある者の割合

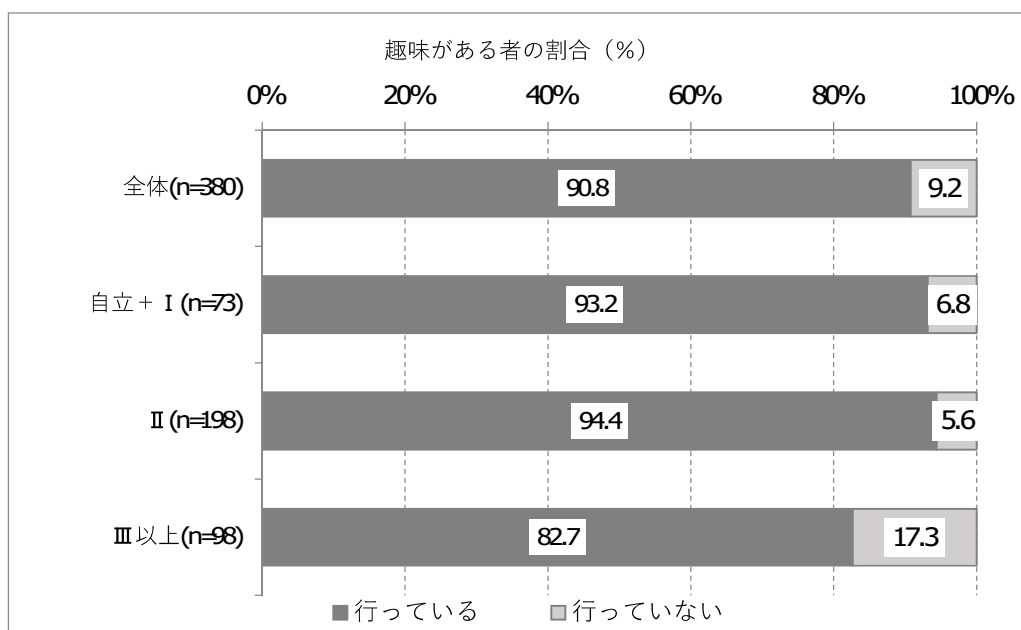
2.4.1 集計・分析のねらい

- 趣味や余暇活動への参加は、高齢者の心身機能の維持や社会的孤立の予防に寄与すると考えられている。
本集計では、要介護高齢者が日常生活の中で趣味・余暇活動にどの程度取り組んでいるかを把握することを目的とした。
- 具体的には、複数の活動項目のうち、いずれかを「行っている」と回答した者を「趣味がある者」と定義し、その割合を算出した。
これにより、認知症自立度別にみた趣味活動の実施状況を明らかにし、生活の充実度や社会参加との関連を検討するための基礎資料とすることをねらいとした。

2.4.2 集計結果と着目すべきポイント

- 趣味がある者の割合をみると、全体では「行っている」が90.8%、「行っていない」が9.2%となっている。
認知症自立度別にみると、「行っている」は「自立+Ⅰ」が93.2%、「Ⅱ」が94.4%、「Ⅲ以上」が82.7%で、「Ⅲ以上」は低くなっている。(図表4)

図表4 趣味がある者の割合（認知症自立度別）



2.5 認知症自立度別における趣味や通いの場に参加している者の割合

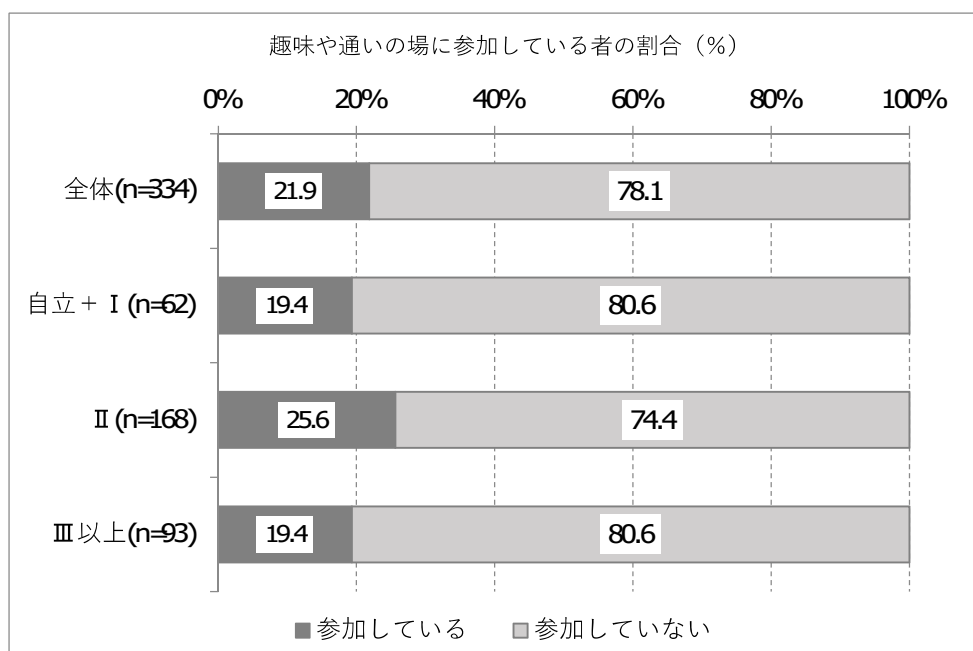
2.5.1 集計・分析のねらい

- 地域における会やグループ、通いの場への参加は、高齢者の社会的つながりを維持し、孤立の予防や心身機能の低下防止に資する重要な要素である。
本集計では、要介護高齢者が地域の会・グループや通いの場にどの程度参加しているかを把握することを目的とした。
- 具体的には、いずれかの活動に「参加している」と回答した者を「参加している者」、いずれの活動にも参加していない者を「参加していない者」と定義し、その割合を算出した。
これにより、認知症自立度別にみた地域活動・通いの場への参加状況を明らかにし、社会参加の促進や孤立予防に向けた支援の検討に資する基礎資料とすることをねらいとした。

2.5.2 集計結果と着目すべきポイント

- 趣味や通いの場に参加している者の割合をみると、全体では「参加している」が21.9%、「参加していない」が78.1%となっている。
認知症自立度別にみると、「参加している」は「自立+Ⅰ」が19.4%、「Ⅱ」が25.6%、「Ⅲ以上」が19.4%で、大きな差はみられない。(図表5)

図表5 趣味や通いの場に参加している者の割合（認知症自立度別）



「B票」主な介護者の方への質問

2.6 仕事を辞めた者の割合

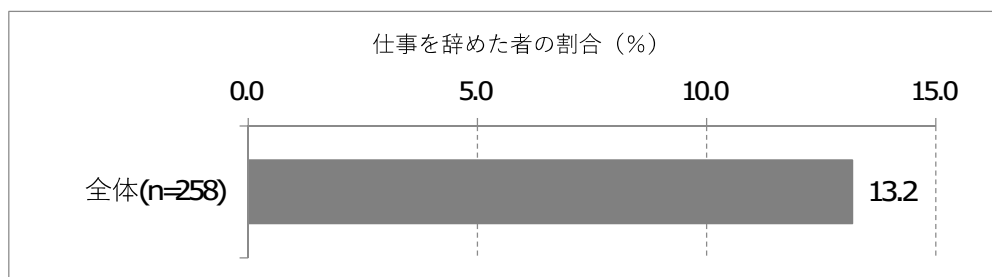
2.6.1 集計・分析のねらい

- 家族による介護は、就労状況や生活基盤に大きな影響を及ぼす場合がある。
本集計では、要介護者の介護を主な理由として、家族や親族が過去1年以内に仕事を辞めた状況について把握することを目的とした。
- 具体的には、主な介護者本人、または主な介護者以外の家族・親族が、介護を理由として仕事を辞めたかどうかに着目し、その割合を算出した。
これにより、介護が就労継続に及ぼす影響の実態を明らかにし、介護者支援や就労と介護の両立支援策を検討するための基礎資料とすることをねらいとした。

2.6.2 集計結果と着目すべきポイント

- 全体では、「仕事を辞めた者の割合」は13.2%となっている。(図表6)

図表6 仕事を辞めた者の割合



2.7 認知症自立度別における介護者 QOL 得点

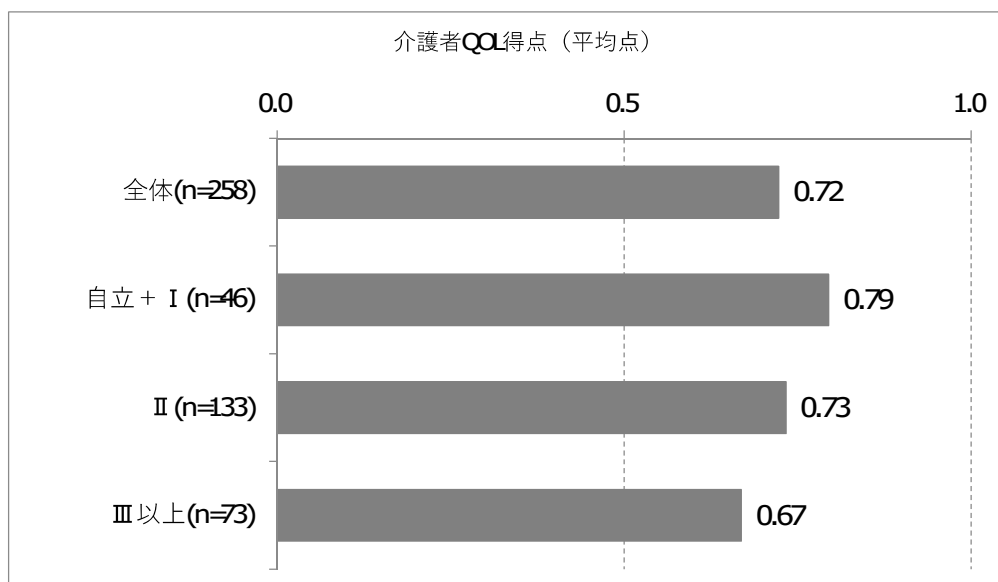
2.7.1 集計・分析のねらい

- 介護者の生活の質（QOL）は、介護の継続可能性や介護の質そのものにも影響を及ぼす重要な要素である。
本分析では、主な介護者の日常生活における主観的 QOL を把握することを目的として、介護者 QOL に関する設問項目を用いた指標を作成し、集計を行った。
- 各設問について得点化を行い、個人ごとの合計得点の平均値を算出した。
これにより、認知症自立度別にみた介護者の心身の状態や生活上の余裕、安全感、社会的つながり等の傾向を明らかにし、今後の介護者支援の充実に向けた検討に資する基礎資料とすることをねらいとした。

2.7.2 集計結果と着目すべきポイント

- 介護者 QOL 得点（平均点）をみると、全体では 0.72 点となっている。
認知症自立度別にみると、「自立+ I」は 0.79 点、「II」は 0.73 点、「III 以上」は 0.67 点となっている。（図表 7）

図表 7 介護者 QOL 得点（認知症自立度別）



2.8 認知症自立度別における主観的幸福感割合

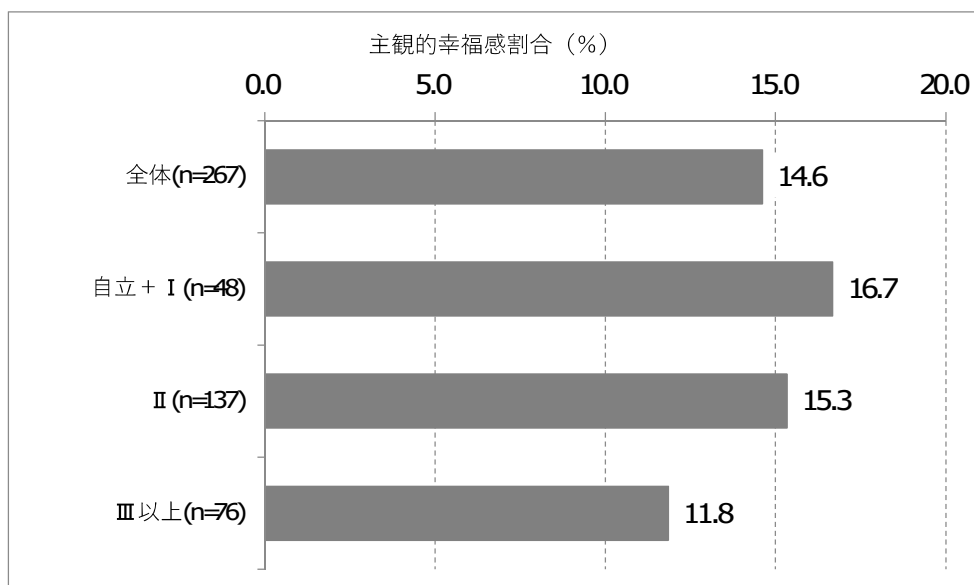
2.8.1 集計・分析のねらい

- 介護を担う家族の主観的な幸福感は、日常生活の満足度や心理的負担の程度を反映する重要な指標である。
本集計では、主な介護者が現在どの程度幸せであると感じているかについて把握することを目的とした。
- 具体的には、主観的幸福感を0点から10点までの尺度で評価し、一定以上の高い幸福感を有すると考えられる者の割合を算出した。
これにより、介護者の主観的な生活満足度の実態を明らかにし、介護者支援の必要性や支援の方向性を検討するための基礎資料とすることをねらいとした。

2.8.2 集計結果と着目すべきポイント

- 主観的幸福感割合をみると、全体では14.6%が一定以上の高い幸福感ありと答えている。
認知症自立度別にみると、「自立+I」は16.7%、「II」は15.3%、「III以上」は11.8%で、大きな差はみられない。(図表8)

図表8 主観的幸福感割合（認知症自立度別）



2.9 認知症自立度別における介護者日常生活 QOL 得点

2.9.1 集計・分析のねらい

- 介護者の日常生活における精神的健康状態は、介護の継続や生活全体の安定性に深く関係している。

本分析では、介護者の日常生活における精神的健康状態を把握することを目的として、日常生活 QOL に関する設問項目を用いた指標を作成し、集計を行った。

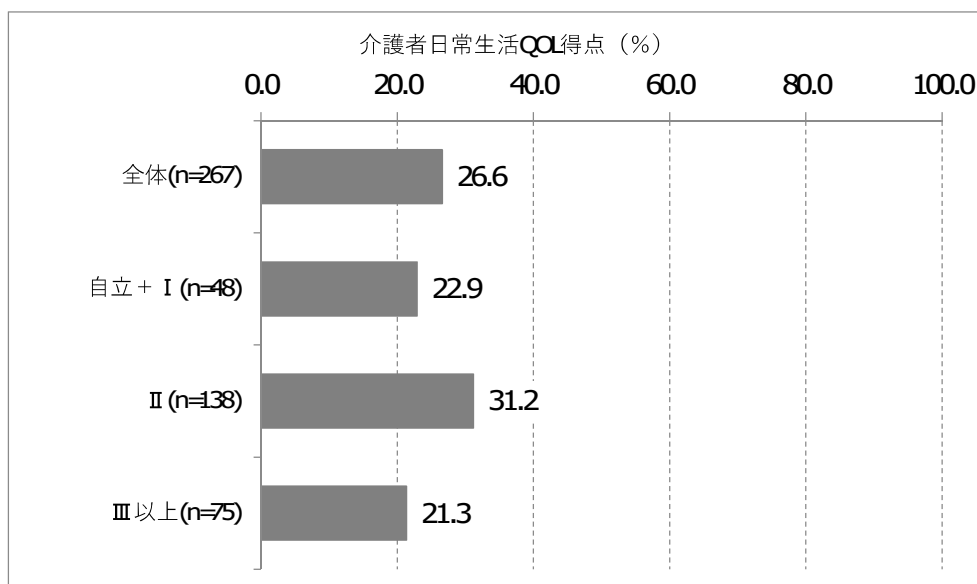
- 各設問について得点化を行い、合計得点が一定水準以上の者を精神的健康状態が比較的良好な者と定義し、その割合を算出した。

これにより、介護者の心理的な安定度や生活上の充実感の実態を明らかにし、介護者のメンタルヘルス支援を含む包括的な支援策の検討に資することをねらいとした。

2.9.2 集計結果と着目すべきポイント

- 介護者日常生活 QOL 得点をみると、全体では 26.6%が比較的良好となっている。認知症自立度別にみると、「自立+ I」は 22.9%、「II」は 31.2%、「III以上」は 21.3%で、大きな差はみられない。(図表 9)

図表 9 介護者日常生活 QOL 得点 (認知症自立度別)



2.10 介護者の支援ネットワーク保有者割合

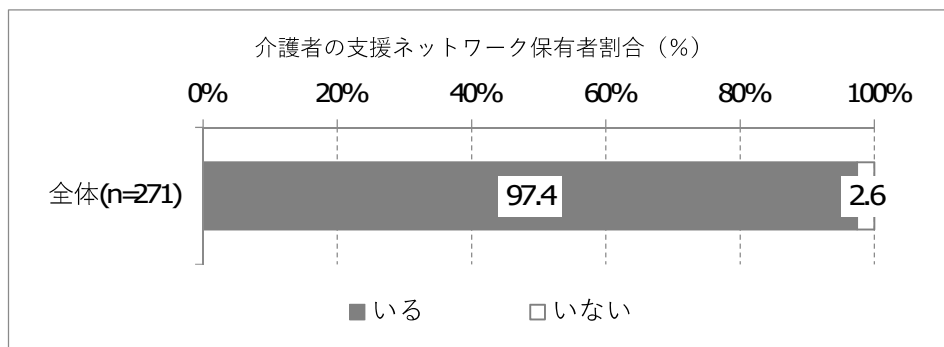
2.10.1 集計・分析のねらい

- 介護に関する悩みや困りごとを相談できる相手の存在は、介護者の心理的負担を軽減し、孤立を防ぐ上で重要な役割を果たす。
本集計では、主な介護者が介護に関する困りごとについて相談できる支援ネットワークを有しているかを把握することを目的とした。
- 具体的には、家族、親族、近隣住民、地域組織、専門職等のいずれかを相談先として挙げている者を「支援ネットワークを有する者」と定義し、その割合を算出した。
これにより、介護者がどの程度社会的・専門的な支援につながっているかを明らかにし、孤立防止や支援体制の充実に向けた検討の基礎資料とすることをねらいとした。

2.10.2 集計結果と着目すべきポイント

- 全体では、「介護者の支援ネットワーク保有者割合」は97.4%となっている。(図表10)

図表10 介護者の支援ネットワーク保有者割合



第5章

保険者独自項目の調査結果

5. 保険者独自項目の調査結果

鳥取市独自の調査項目についての結果は以下のとおりである。

A票 続き 調査対象者様ご本人について、再度お伺いします

【問1】

ご本人（認定調査対象者）が初めて介護認定を申請した際、どなたから申請を勧められましたか（複数選択可）

初めて介護認定を申請した際、誰から申請を勧められたかを挙げてもらったところ、「家族や親族」（41.2%）、「医療機関」（27.6%）、「地域包括支援センター」（24.0%）、「介護事業者」（6.9%）などが挙げられた。

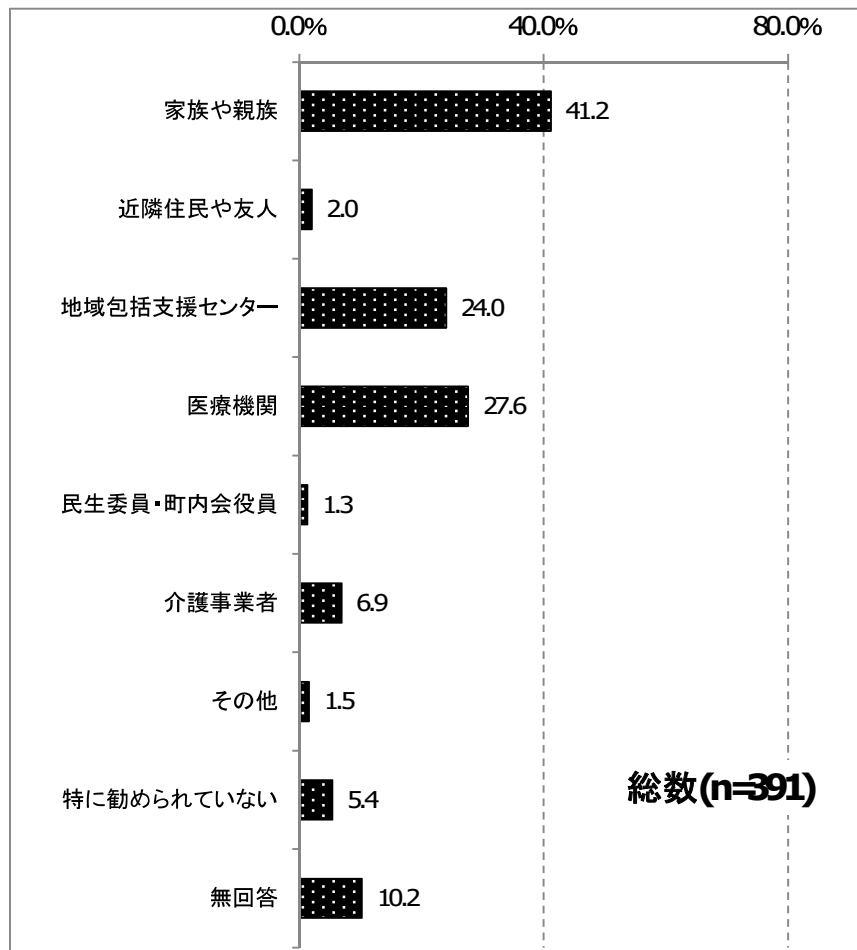
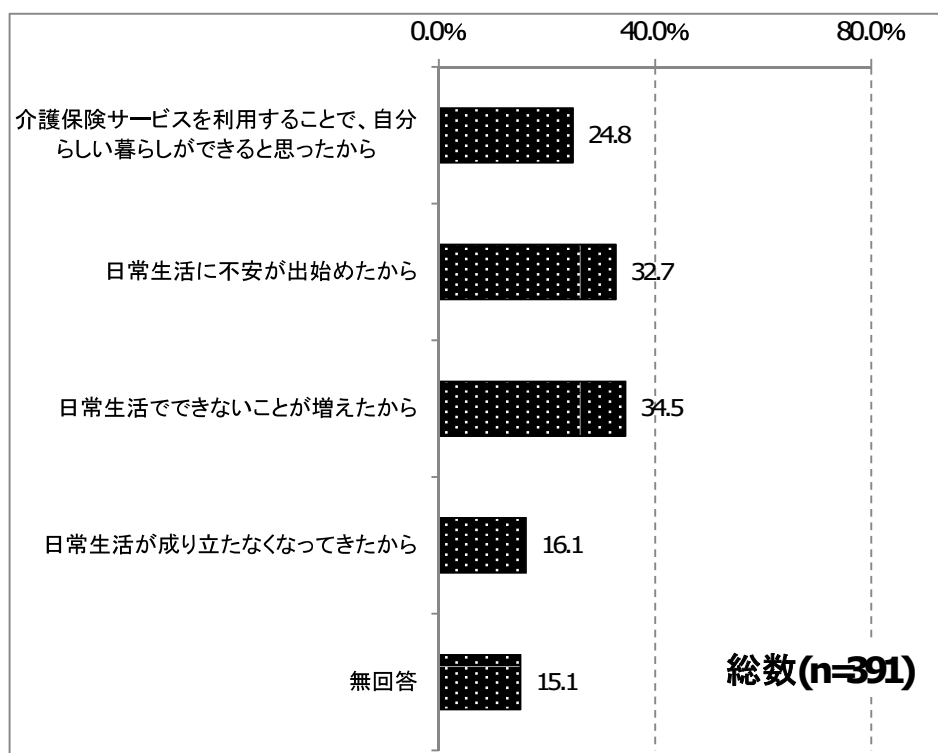


図 A-1 初めて介護認定を申請した際に誰から勧められたか

【問2】

ご本人が介護認定を受けようと思ったきっかけについて教えてください（複数選択可）

介護認定を受けようと思ったきっかけを挙げてもらったところ、「日常生活でできないことが増えたから」（34.5%）、「日常生活に不安が出始めたから」（32.7%）、「介護保険サービスを利用することで、自分らしい暮らしができると思ったから」（24.8%）、「日常生活が成り立たなくなってきたから」（16.1%）などが挙げられた。



図A-2 介護認定を受けようと思ったきっかけ

【問3】

初めて介護認定を受けたときのご本人の要介護度はどれでしたか（1つ選択）

初めて介護認定を受けた際の要介護度を聞いたところ、「要支援1」は15.1%、「要支援2」は22.5%、「要介護1」は20.7%、「要介護2」は15.3%、「要介護3」は4.6%、「要介護4」は6.4%、「要介護5」は3.1%、「非該当」は0.5%となっている。

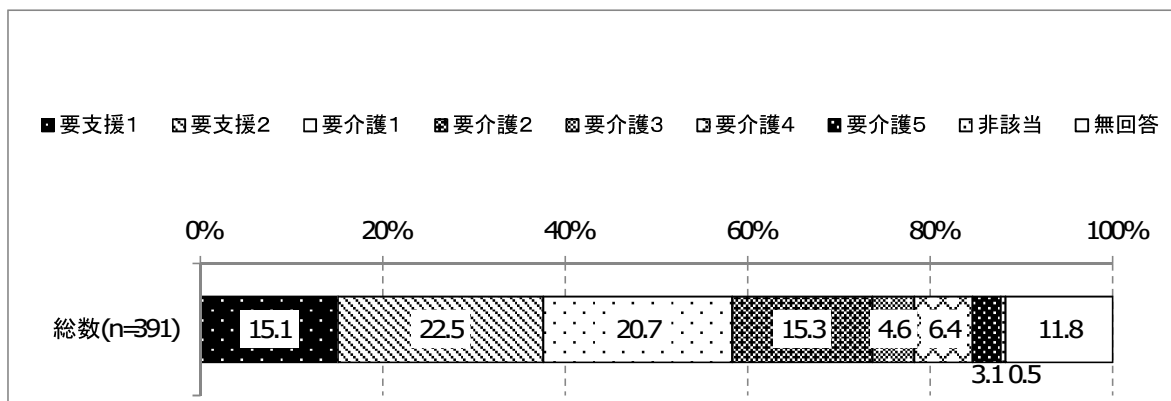


図 A-3 初めて介護認定を受けた際の要介護度

【問4】

ご本人は利用する介護保険サービスを決める際、どなたと相談されましたか（複数選択可）

利用する介護保険サービスを決める際、誰と相談したかを挙げてもらったところ、「主な介護者」(42.5%)、「介護事業者」(32.2%)、「医療機関」(20.7%)などが挙げられた。

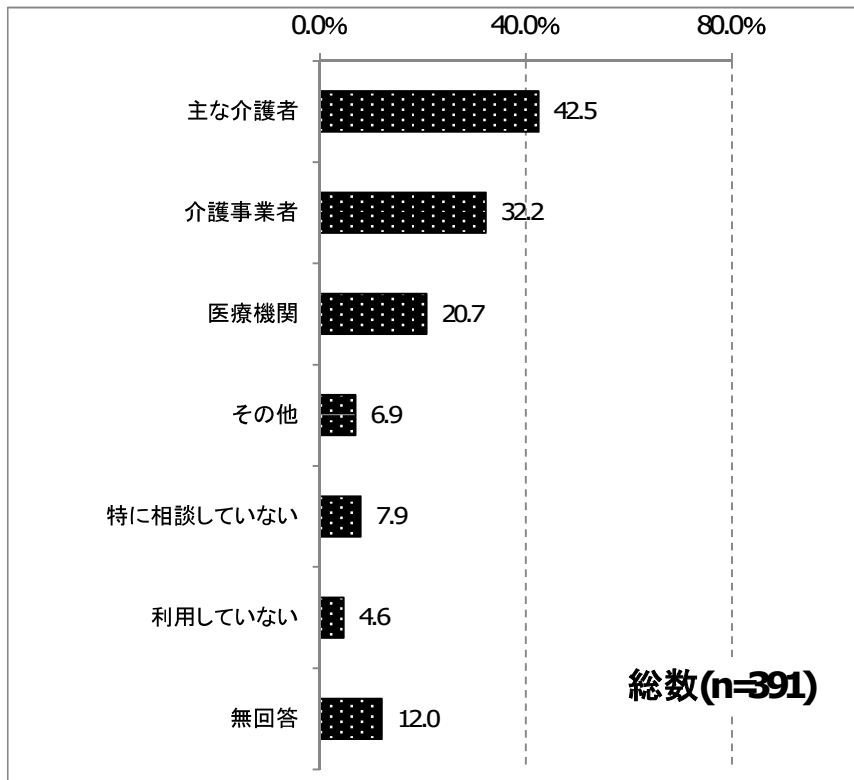


図 A-4 利用する介護保険サービスを決める際の相談相手

【問5】

ご本人が希望する介護保険サービスを利用できていますか（1つ選択）

希望する介護保険サービスを利用できているか聞いたところ、「できている」は30.9%、「ある程度できている」は44.8%、「あまりできていない」は2.6%、「できていない」は1.8%、「利用していない」は9.2%となっている。

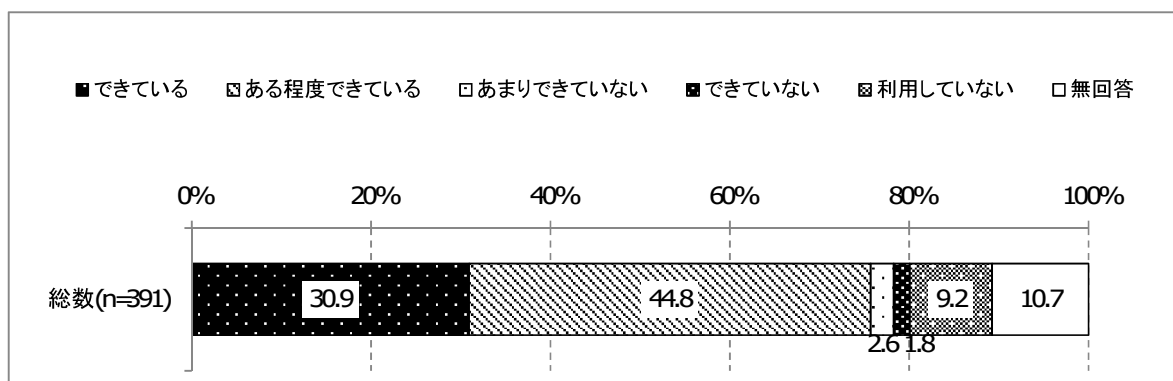
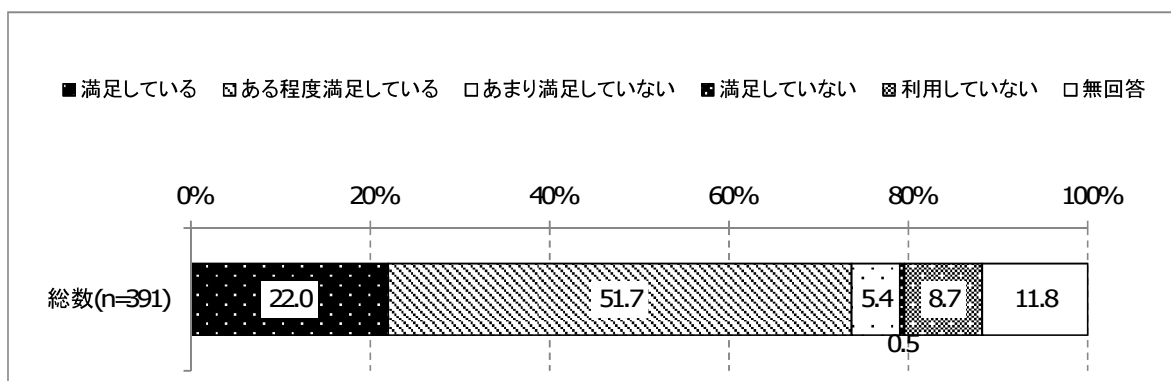


図 A-5 希望する介護保険サービスを利用できているか

【問6】

ご本人は利用している介護保険サービスに満足していますか（1つ選択）

利用している介護保険サービスに満足しているか聞いたところ、「満足している」は22.0%、「ある程度満足している」は51.7%、「あまり満足していない」は5.4%、「満足していない」は0.5%、「利用していない」は8.7%となっている。



図A-6 利用している介護保険サービスの満足度

【問7】

ご本人が介護保険サービス以外に利用されているものがありますか（複数選択可）

介護保険サービス以外に利用しているものを挙げてもらったところ、「入院・入所時の手続支援（身元保証を代替する支援）」（3.6%）、「生活費の管理、重要書類の保管等（日常生活支援）」（2.8%）、「その他」（2.6%）などが挙げられた。なお、「利用していない」は77.5%となっている。

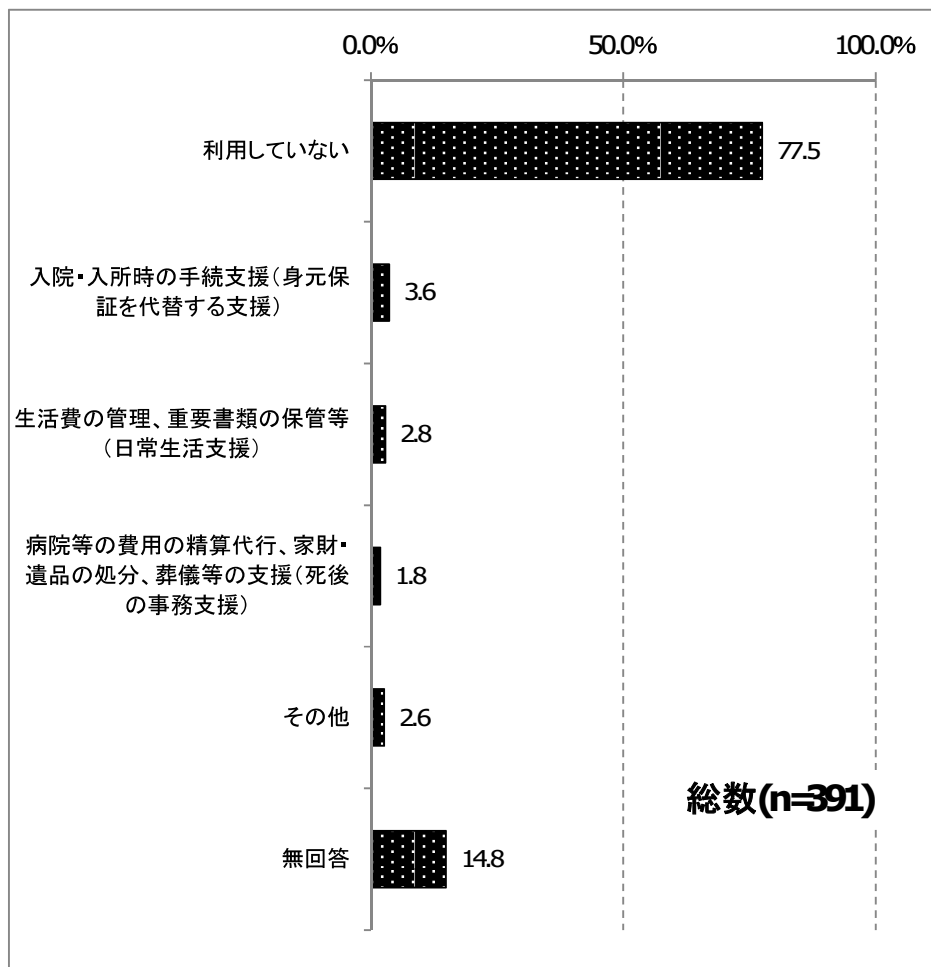


図 A-7 介護保険サービス以外に利用しているもの

【問8】

ご本人は ACP ノートを知っていますか（1つ選択）

※ACP ノートとは、元気なときに自分の人生への思いについて、家族等と相談しながら書き留めておくもので、将来、認知症や病気で自分の思いを伝えられなくなっても、家族等があなたの気持ちを考えて、医療やケア等の判断をするときに役立つものです。

ACP ノートを知っているかを聞いたところ、「知っている」は7.2%、「知らない」は81.8%となっている。

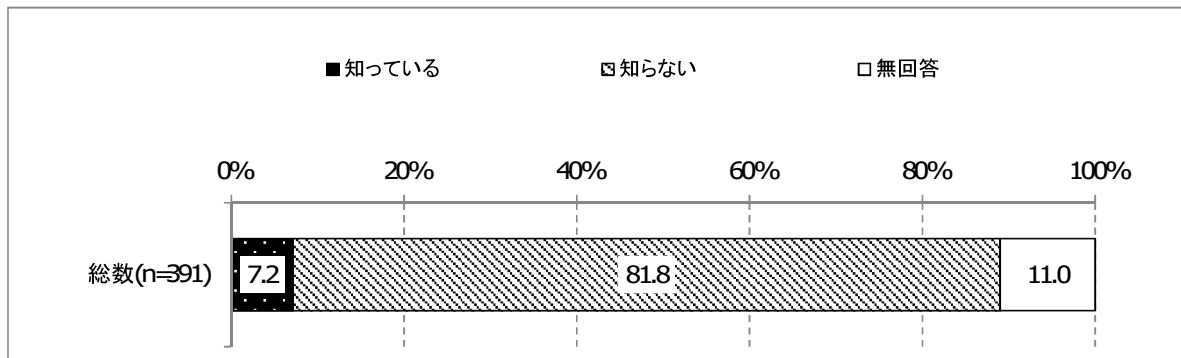


図 A-8 ACP ノートの認知度

【問9】

ご本人は介護についての知識や情報を、何から得ていますか（複数選択可）

介護についての知識や情報を、何から得ているか挙げてもらったところ、「家族・親族」（44.2%）、「介護事業者」（43.2%）、「テレビ・ラジオ」（19.9%）、「医療機関」（16.4%）などが挙げられた。

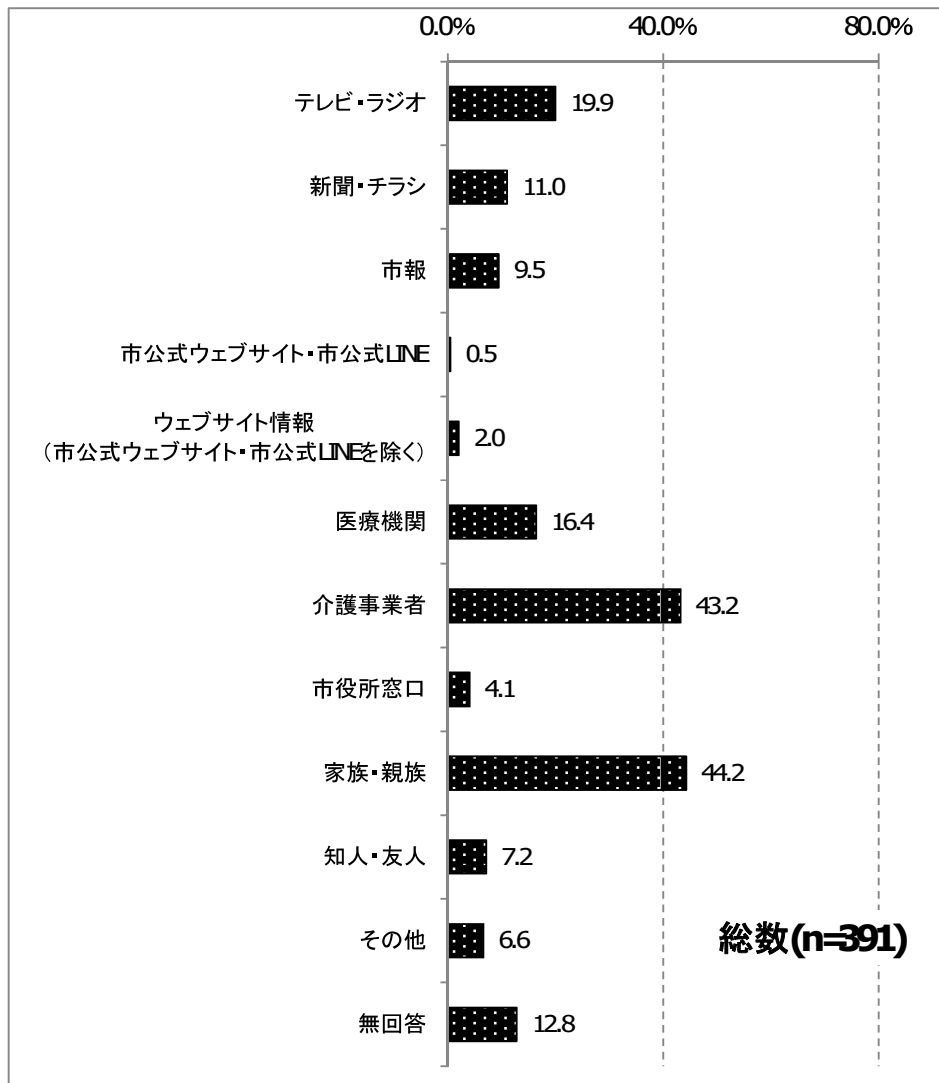
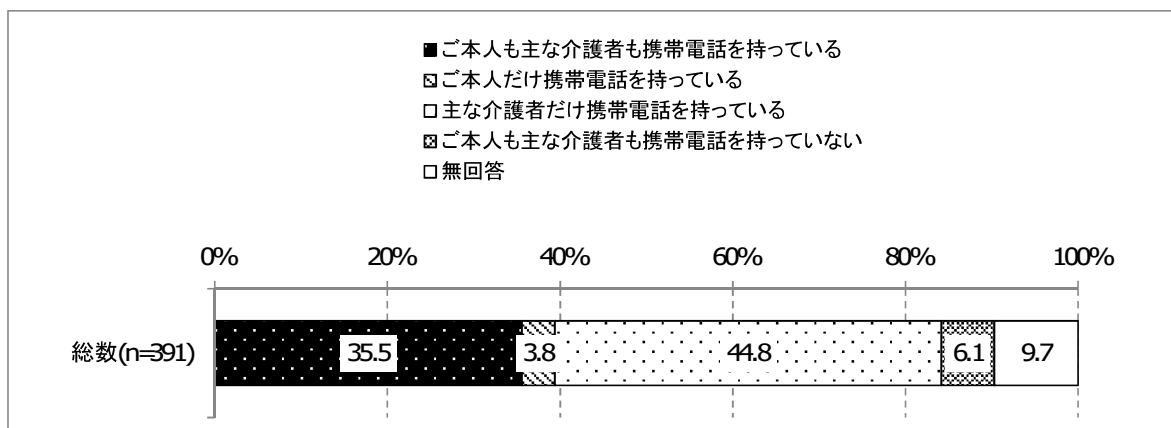


図 A-9 介護の知識や情報を何から得ているか

【問 10】

ご本人と主な介護者の方は、携帯電話をお持ちですか（1つ選択）

ご本人と主な介護者の方は、携帯電話を持っているか聞いたところ、「ご本人も主な介護者も携帯電話を持っている」は35.5%、「ご本人だけ携帯電話を持っている」は3.8%、「主な介護者だけ携帯電話を持っている」は44.8%、「ご本人も主な介護者も携帯電話を持っていない」は6.1%となっている。



図A-10 本人と主な介護者は携帯電話を持っているか

【問 11】

1) ご本人はご自身が認知症になったとき、自分が認知症であることを周囲の人に伝えることができますか（1つ選択）

自身が認知症になったとき、認知症であることを周囲の人に伝えることができるかを聞いたところ、「できる」は23.0%、「できない」は25.3%、「わからない」は43.0%となっている。

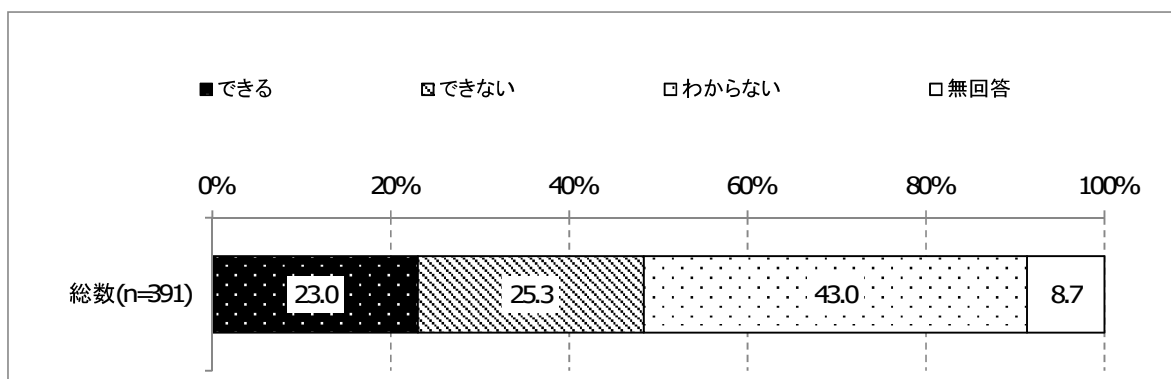


図 A-11 認知症になったとき周囲に伝えることができるか

【問 11】

2) ご本人が暮らすまち（地域）は「認知症になってからも、自分らしく暮らし続けることができるまち（地域）」になりつつあると感じますか（1つ選択）

自身が暮らすまち（地域）は「認知症になってからも、自分らしく暮らし続けることができるまち（地域）」になりつつあると感じるか聞いたところ、「以前からそのようなまち（地域）であると思う」は7.2%、「なりつつあると思う」は21.5%、「あまり思わない」は42.7%、「思わない」は17.4%となっている。

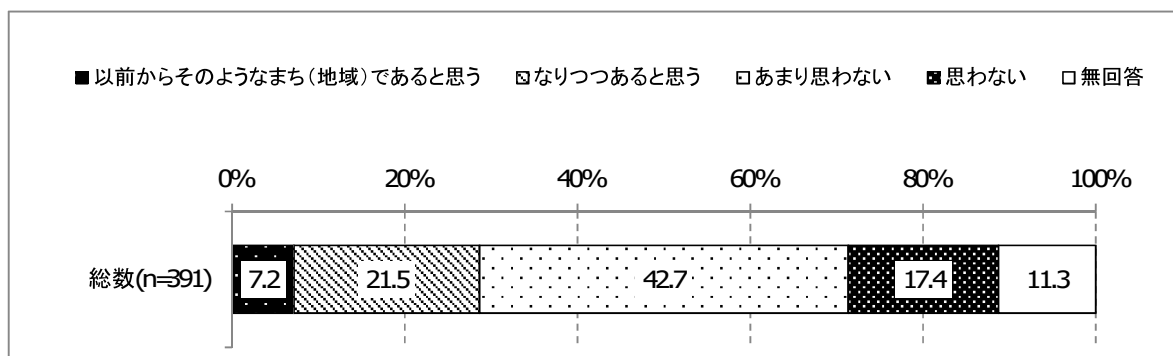


図 A-12 認知症になっても自分らしく暮らせるまちになりつつあると思うか

【問 11】

3) ご本人は介護保険サービスを利用することで、自分らしい暮らしが継続できていますか（1つ選択）

介護保険サービスを利用することで、自分らしい暮らしが継続できているか聞いたところ、「できている」は13.6%、「ある程度できている」は56.8%、「あまりできていない」は8.2%、「できていない」は3.1%、「介護保険サービスを利用していない」は8.7%となっている。

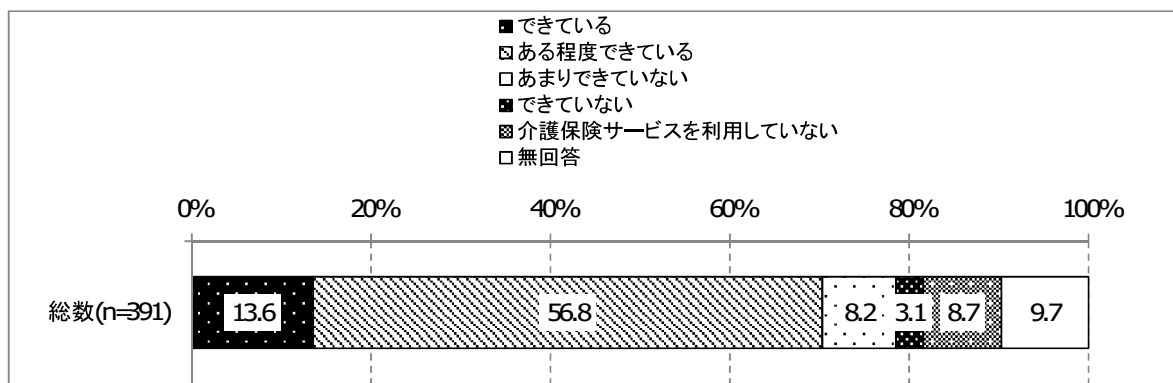


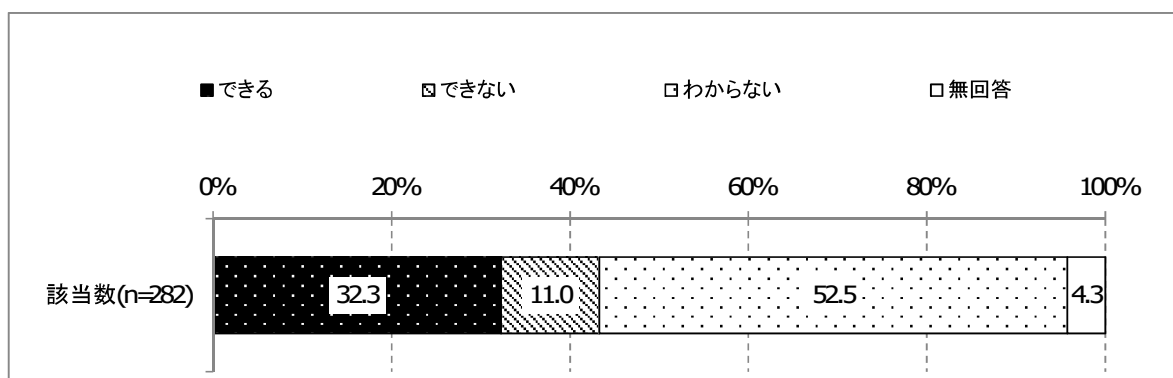
図 A-13 介護保険サービスの利用で自分らしい暮らしが継続できているか

B票 続き 主な介護者の方について、再度お伺いします

【問1】

1) 主な介護者の方はご自身が認知症になったとき、自分が認知症であることを周囲の人に伝えることができますか（1つ選択）

自身が認知症になったとき、認知症であることを周囲の人に伝えることができるか聞いたところ、「できる」は32.3%、「できない」は11.0%、「わからない」は52.5%となっている。

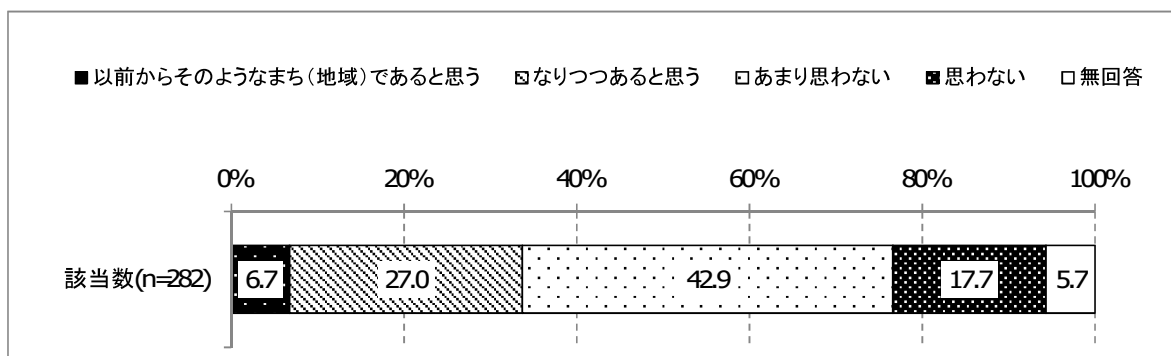


図B-1 認知症になったとき周囲に伝えることができるか

【問1】

2) 主な介護者の方が暮らすまち（地域）は「認知症になってからも、自分らしく暮らし続けることができるまち（地域）」になりつつあると感じますか（1つ選択）

自身が暮らすまち（地域）は「認知症になってからも、自分らしく暮らし続けることができるまち（地域）」になりつつあると感じるか聞いたところ、「以前からそのようなまち（地域）であると思う」は6.7%、「なりつつあると思う」は27.0%、「あまり思わない」は42.9%、「思わない」は17.7%となっている。

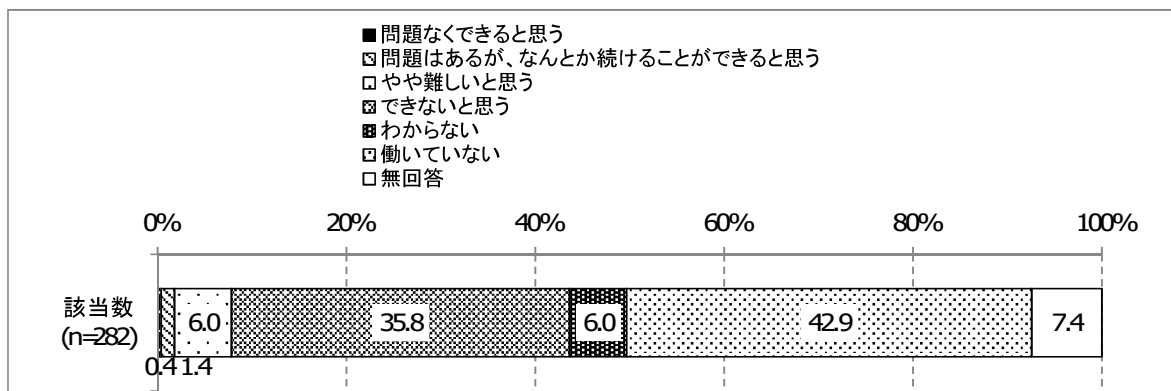


図B-2 認知症になっても自分らしく暮らせるまちになりつつあると思うか

【問1】

3) 主な介護者の方が認知症になったときに今の職場で働き続けることができると思いますか
(1つ選択)

認知症になったときに今の職場で働き続けることができると思うか聞いたところ、「問題なくできると思う」は0.4%、「問題はあるが続けることができる」は1.4%、「やや難しいと思う」は6.0%、「できないと思う」は35.8%、「わからない」は6.0%、「働いていない」は42.9%となっている。



図B-3 認知症になったとき今の職場で働き続けられると思うか